

**和歌山県高齢者等生活意識調査
(第2号被保険者調査)**

報 告 書

平成29年3月

和歌山県 福祉保健部
福祉保健政策局 長寿社会課

< 目 次 >

1 . 調査の概要	1
(1) 調査対象	1
(2) 回収状況	1
2 . 第2号被保険者調査の結果	3
(1) 回答者	3
(2) 回答者の属性	4
(3) 高齢期の暮らしなどについて	8
(4) 健康について	13
(5) 高齢期の在宅の暮らし、住み替えなどについて	18
(6) 自宅での看取りの考え方などについて	27
(7) 家族介護の状況などについて	33
(8) 高齢者の生活支援や介護の仕事について	38
(9) 介護保険制度などについて	42
(10) 認知症について	45
(11) 自由意見	54
3 . 調査間の比較	56
(1) 回答者の属性	56
(2) 健康について	57
(3) 住まい、住み替えなどについて	59
(4) 看取りなどについて	61
(5) 高齢者の生活支援や介護の仕事について	62
(6) 介護保険制度等について	64
(7) 認知症について	65
参考資料：アンケート調査票	67

1. 調査の概要

(1) 調査対象

本調査は、和歌山県在住の以下の3種類の対象者に調査を行いました。調査対象者の抽出にあたっては、市町村別に一定の標本数を確保するために、市町村単位の層化を行い、標本数を配分したうえで、各市町村において無作為抽出を行いました。

調査は郵送により配布・留置し、郵送で回収しました。

高齢者一般調査	平成28年8月1日現在、県内在住の65歳以上で、介護保険の要介護認定で「要支援」または「要介護」と認定されていない人	合計3,000人を抽出
要支援・要介護者調査	平成28年8月1日現在、県内在住の65歳以上で、介護保険の要介護認定で「要支援」または「要介護」と認定されている人	合計2,000人を抽出
第2号被保険者調査	平成28年8月1日現在、県内在住の40～64歳の人	合計2,000人を抽出

(2) 回収状況

調査票の回収状況は以下の通りです。

	高齢者一般調査	要支援・要介護者調査	第2号被保険者調査
配布・発送数	3,000	2,000	2,000
配布実数※	2,977	1,983	1,985
回収数	1,984	1,042	983
回収率	66.6%	52.5%	49.5%

※未達分を除く有効配布数

本報告書は、上記3種類の調査のうち、**第2号被保険者調査**について報告するものです。

(調査結果の見方)

- ◆集計にあたっては、平成27年国勢調査人口を基準人口として、市町村別の標本数の補正を行っています。
- ◆集計値はすべて%表示です。なお、四捨五入により小数点以下第1位までの表示としており、見かけの合計値が100%にならない場合があります。
- ◆複数回答の質問は、回答比率の合計が100.0%を超えます。
- ◆図表中、帯グラフでは、表示が煩雑になるため、3.0%未満の比率については数値表示を省略しています。
- ◆標本数（回答者数）は図表中に「N=」と表示しています。それ以外の数値は回答比率の百分率（%）です。表示が煩雑になるため、%等の単位表示は省略しています。

(集計における「地域区分別」の対象地域)

- ◆県内において、比較的人口の集中している地域と、人口の少ない地域における地域特性の分析等を行うため、県内市町村を以下のように「都市地域」と「都市地域以外」の категорияに区分し、「地域区分別」の集計を行いました。

都市地域	都市地域以外
和歌山市	田辺市（旧龍神村・中辺路町・大塔村・本宮町）
海南市	新宮市（旧熊野川町）
橋本市	紀の川市（旧粉河町・那賀町・桃山町）
有田市	紀美野町
御坊市	かつらぎ町
田辺市（旧田辺市）	九度山町
新宮市（旧新宮市）	高野町
紀の川市（旧打田町・貴志川町）	湯浅町
岩出市	広川町
	有田川町
	美浜町
	日高町
	由良町
	印南町
	みなべ町
	日高川町
	白浜町
	上富田町
	すさみ町
	那智勝浦町
	太地町
	古座川町
	北山村
	串本町

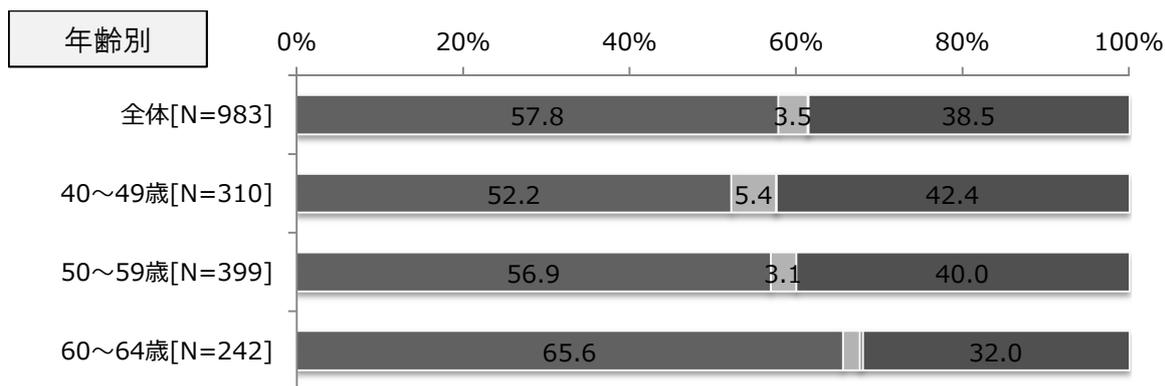
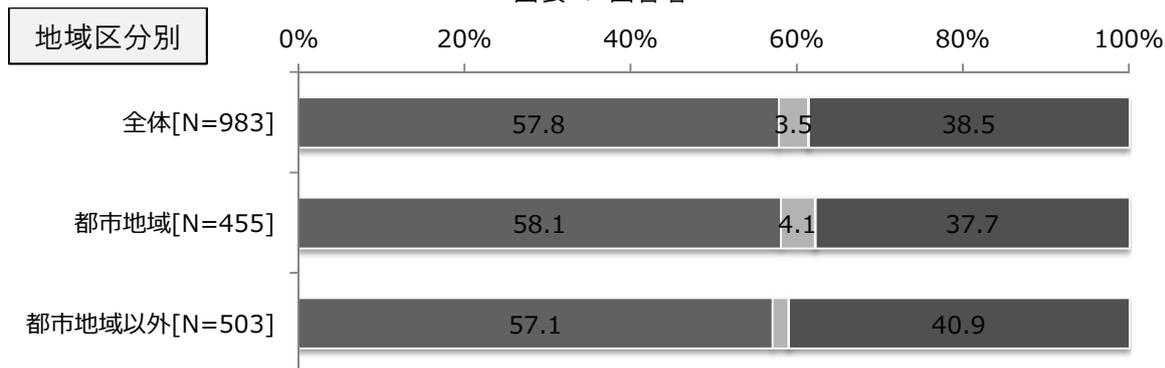
2. 第2号被保険者調査の結果

(1) 回答者

この調査票にご回答いただいた方は、どなたですか。(あてはまるもの1つに○)

調査票の回答者は、「あて名のご本人が回答（ご本人が回答して他の方が代筆した場合も含む）」が57.8%となっています。

図表 1 回答者



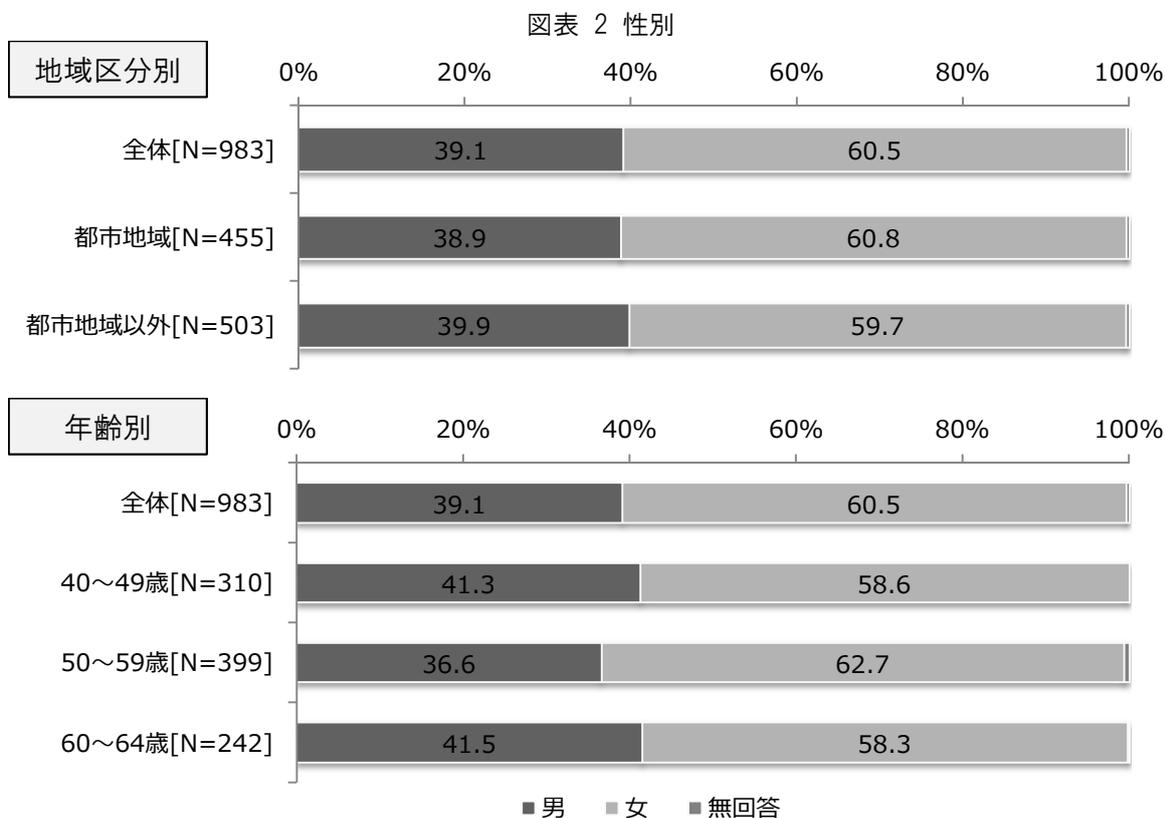
- あて名のご本人が回答（ご本人が回答して他の方が代筆した場合も含む）
- ご家族がご本人の代わりに回答
- ご家族以外の方がご本人の代わりに回答
- 無回答

(2) 回答者の属性

①性別

問1 あなたの性別をお答えください。(いずれか1つに○)

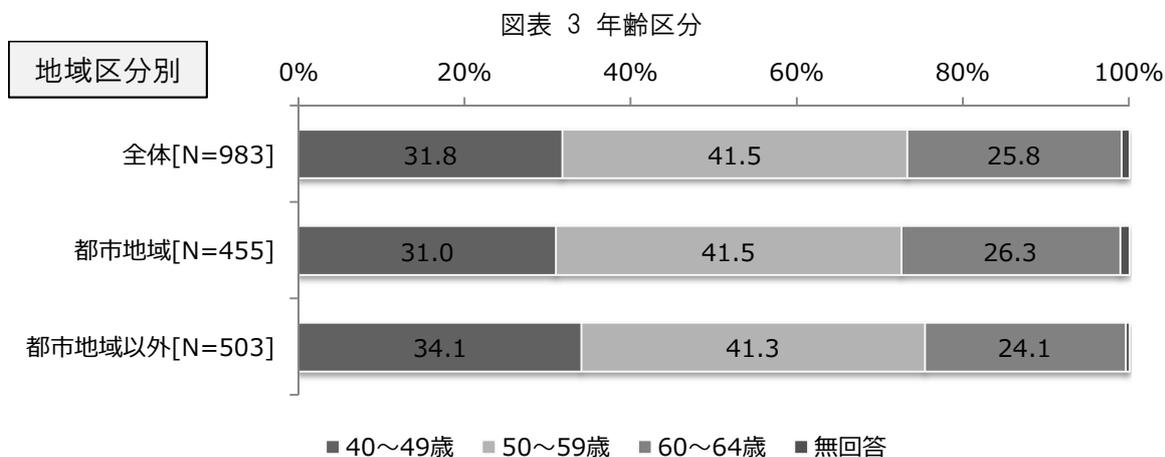
回答者の性別は、「女」が60.5%、「男」が39.1%となっています。



②年齢区分

問2 あなたの生まれた年月、年齢をお答えください。(ご記入ください)

年齢区分については、「50~59歳」が41.5%、「40~49歳」が31.8%、「60~64歳」が25.8%となっています。



③居住市町村

問3 あなたがお住まいの市町村をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

居住市町村については、以下の通りとなっています。

図表 4 居住市町村

全体[N=983]			
和歌山市	14.6%	広川町	1.8%
海南市	5.6%	有田川町	3.6%
橋本市	5.9%	美浜町	2.0%
有田市	3.4%	日高町	2.2%
御坊市	4.0%	由良町	1.8%
田辺市(旧田辺市)	3.7%	印南町	1.8%
田辺市(旧龍神村・中辺路町・大塔村・本宮町)	4.7%	みなべ町	2.8%
新宮市(旧新宮市)	2.8%	日高川町	1.8%
新宮市(旧熊野川町)	1.6%	白浜町	2.2%
紀の川市(旧打田町・貴志川町)	2.6%	上富田町	2.8%
紀の川市(旧粉河町・那賀町・桃山町)	2.5%	すさみ町	1.5%
岩出市	3.7%	那智勝浦町	1.7%
紀美野町	1.8%	太地町	1.5%
かつらぎ町	2.2%	古座川町	1.4%
九度山町	1.5%	北山村	0.7%
高野町	1.4%	串本町	3.0%
湯浅町	2.3%	無回答	2.5%

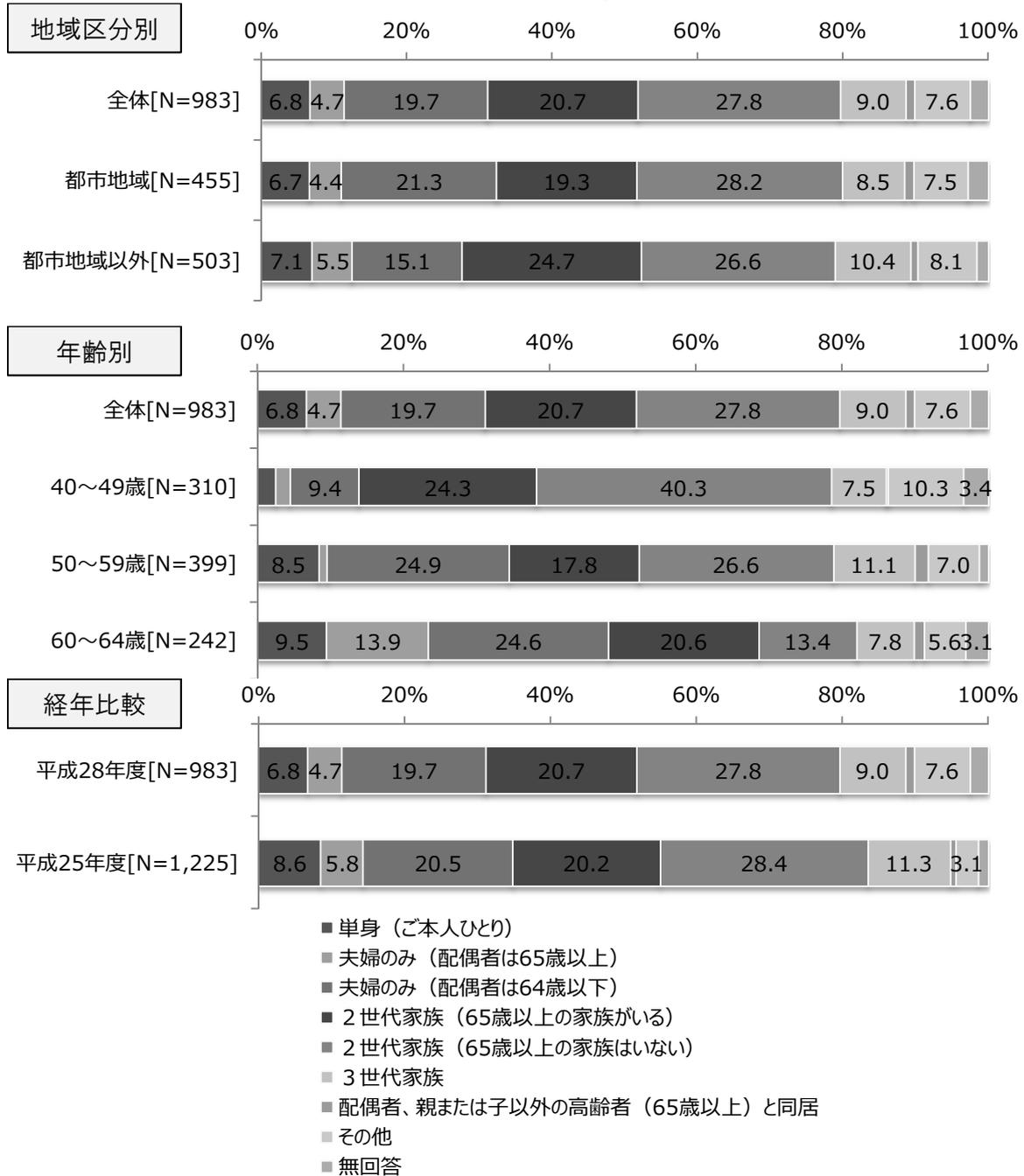
④世帯区分

問4 あなたの世帯は、次のうちのどれにあてはまりますか。(あてはまるもの1つに○)

回答者の世帯は、「2世代家族（65歳以上の家族はいない）」が27.8%、「2世代家族（65歳以上の家族がいる）」が20.7%、「夫婦のみ（配偶者は64歳以下）」が19.7%等となっています。

地域区分別では、都市地域以外で「2世代家族（65歳以上の家族がいる）」が多くなっています。

図表 5 世帯区分



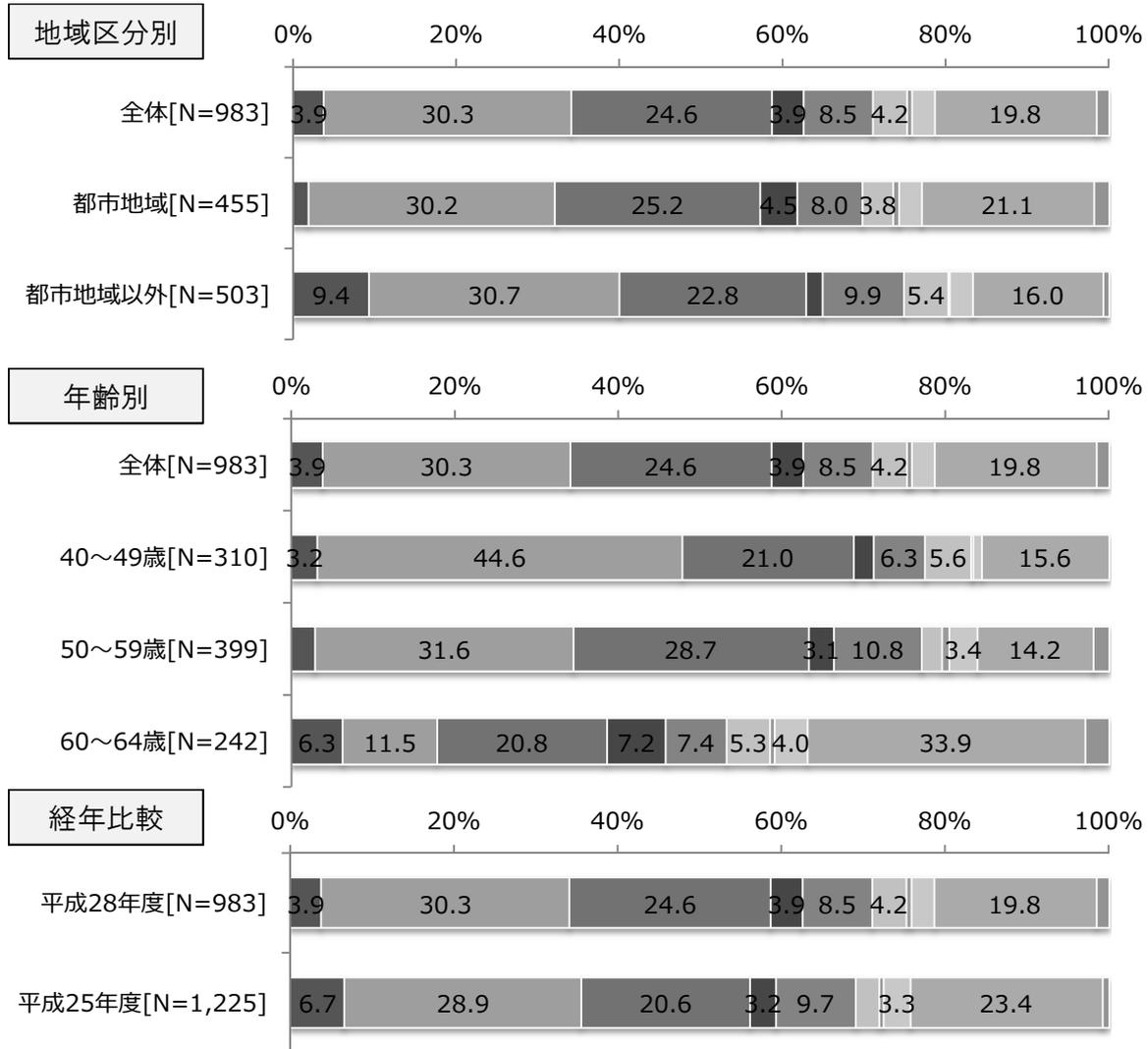
⑤収入のある仕事

問5 あなたは、収入のあるお仕事をされていますか。(あてはまるもの1つに○)

収入のある仕事について聞いたところ、「会社や団体等の勤め人（常勤）」が 30.3%、「会社や団体等の勤め人（パート、嘱託等）」が 24.6%、「収入のある仕事はしていない」が 19.8%等となっています。

地域区分別で見ると、都市地域以外で「農林水産業」が多くなっています。経年比較では、前回調査と比べて、「農林水産業」が減っています。

図表 6 収入のある仕事



- 農林水産業
- 会社や団体等の勤め人（パート、嘱託等）
- 自営業主、個人事業主
- 内職
- 収入のある仕事はしていない
- 会社や団体等の勤め人（常勤）
- 会社や団体等の役員
- 短期・不定期のアルバイト等
- その他
- 無回答

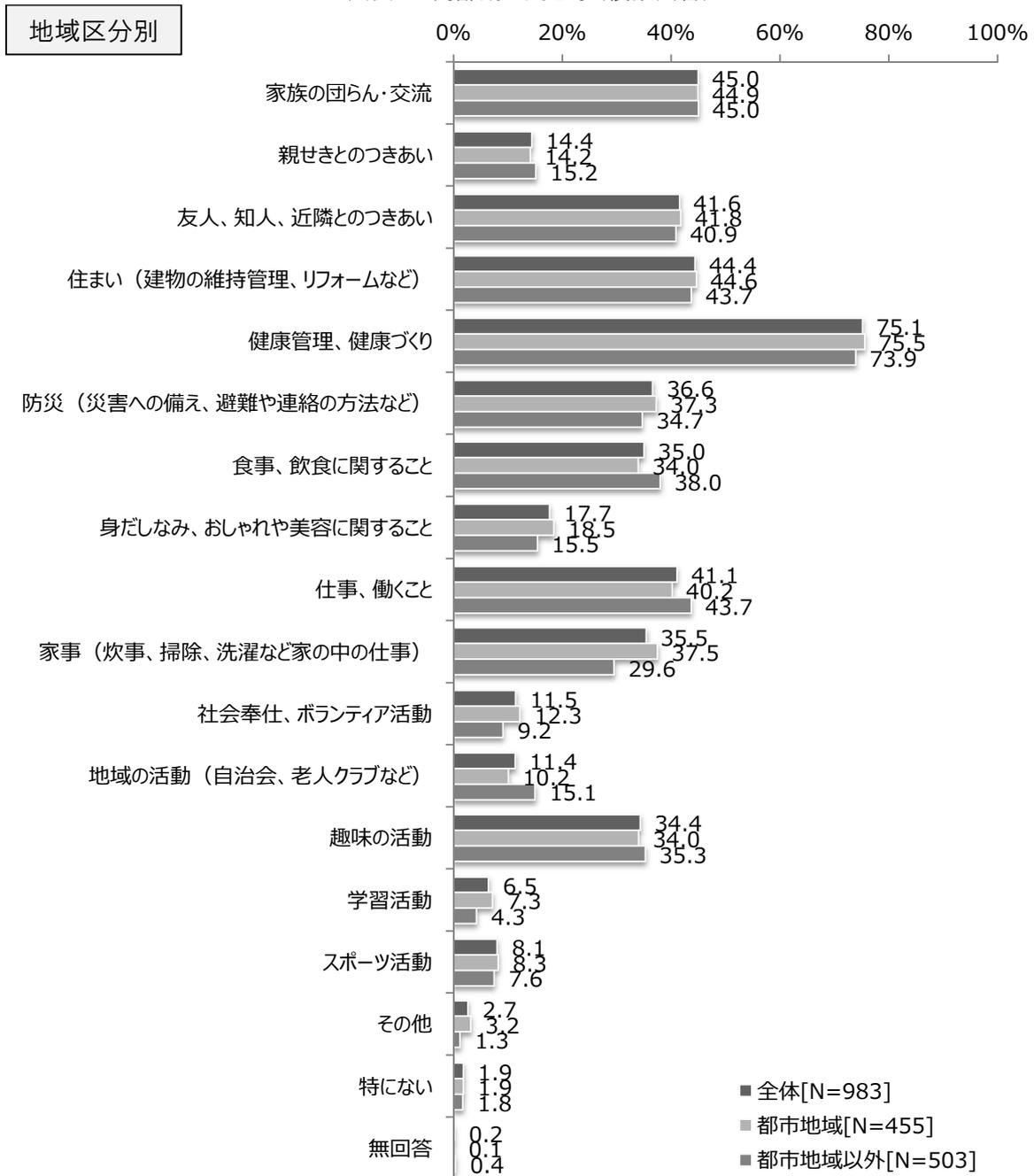
(3) 高齢期の暮らしなどについて

① 高齢期の関心事

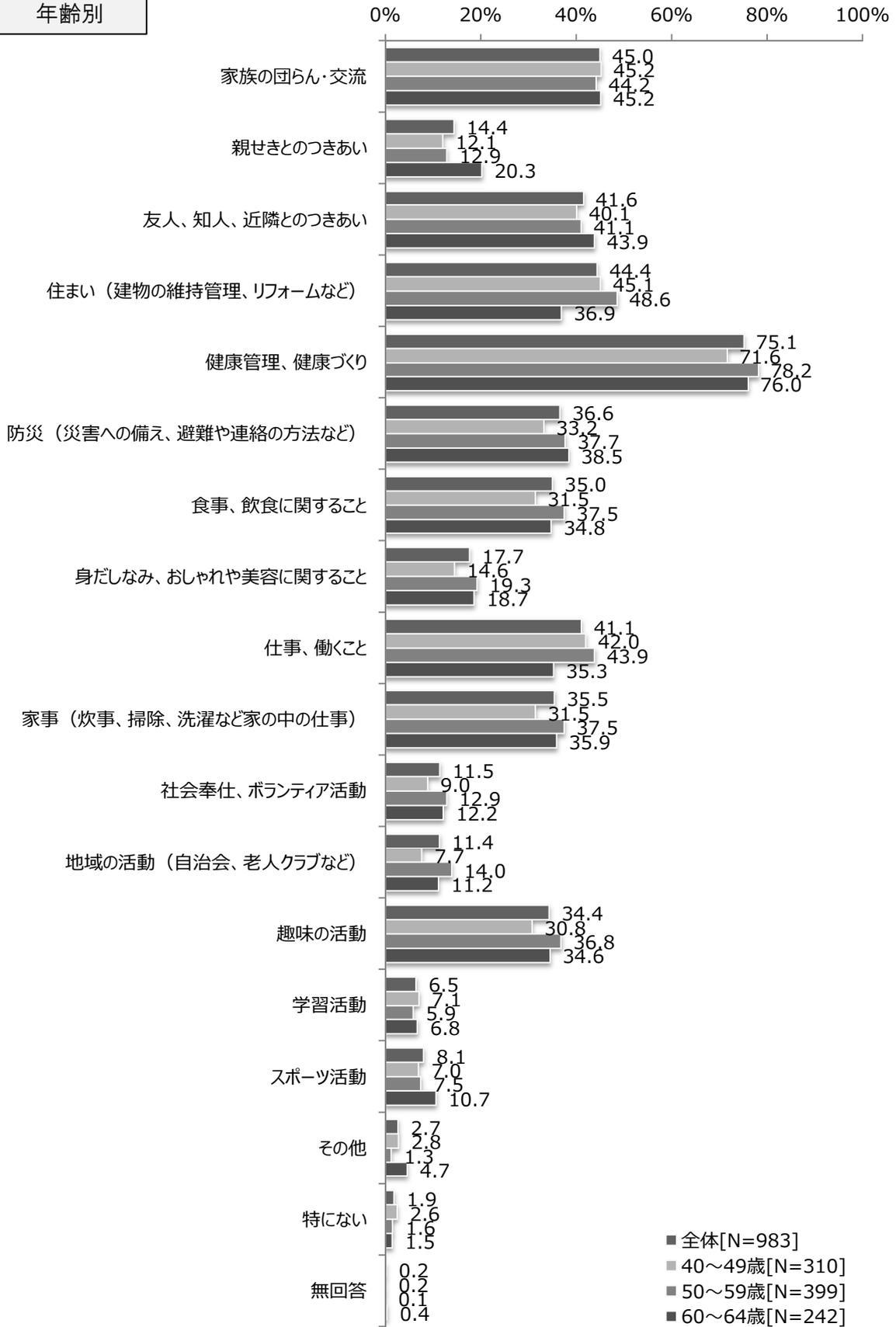
問6 あなたは、ご自身の高齢期の生活を考えたときに、特にどのようなことに関心がありますか。(あてはまるものすべてに○)

高齢期の関心事について聞いたところ、「健康管理、健康づくり」が75.1%と最も多くなっています。次いで、「家族の団らん・交流」が45.0%、「住まい（建物の維持管理、リフォームなど）」が44.4%、「友人、知人、近隣とのつきあい」が41.6%、「仕事、働くこと」が41.1%等となっています。

図表 7 高齢期の関心事(複数回答)



年齢別



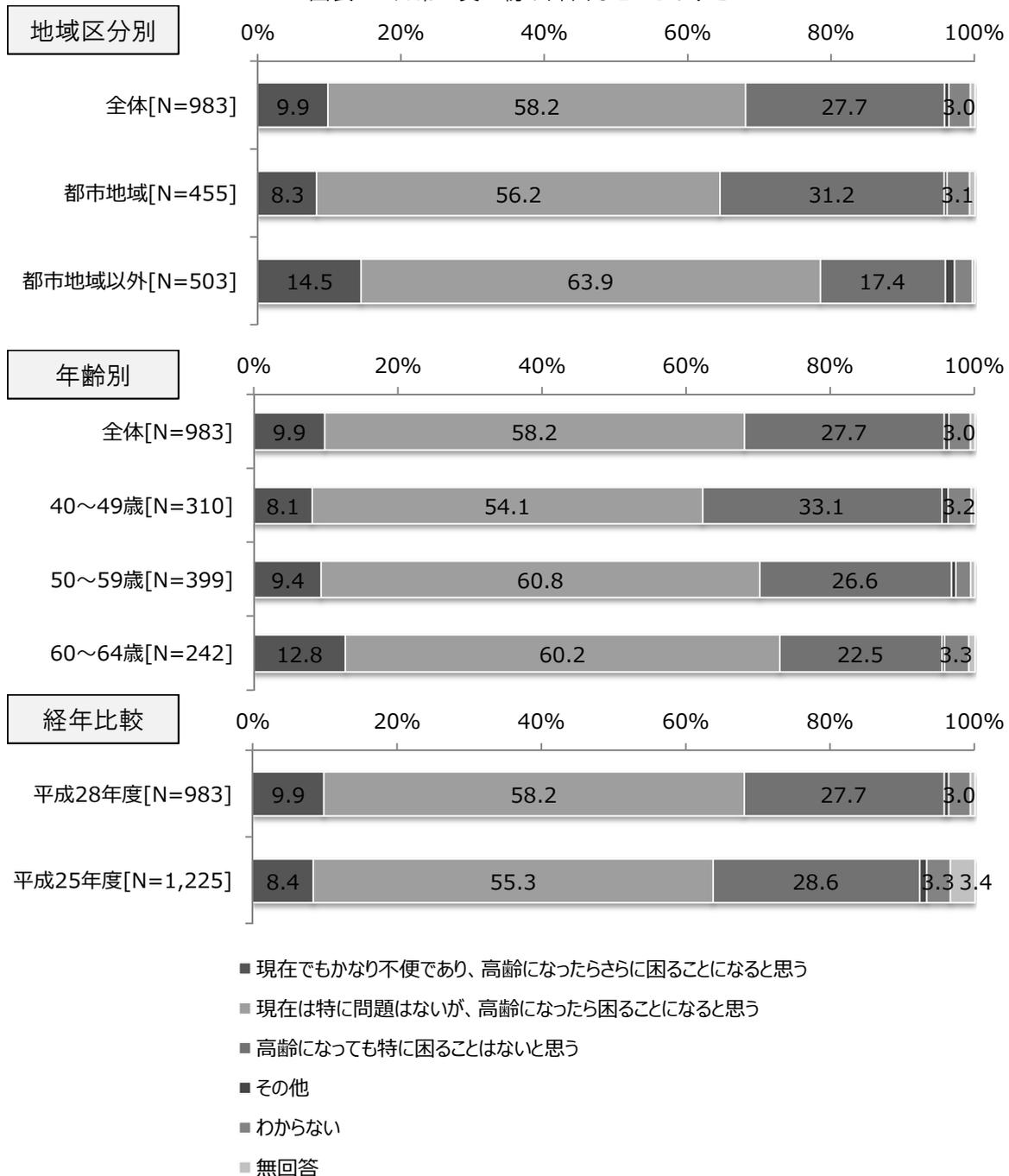
②日常の買い物や外出などのしやすさ

問7 あなたは、現在お住まいのところに高齢期も住み続けるとした場合に、日常の買い物や外出などのしやすさについてどのように思いますか。(そう思うもの1つに○)

住んでいる地域の日常の買い物や外出などのしやすさについて聞いたところ、「現在は特に問題はないが、高齢になったら困ることになると思う」が58.2%と多くなっています。一方、「高齢になっても特に困ることはないと思う」は27.7%、「現在でもかなり不便であり、高齢になったらさらに困ることになると思う」は9.9%となっています。

地域区分別で見ると、都市地域以外で、「高齢になっても特に困ることはないと思う」という人が少なくなっています。経年比較では、前回調査と比べて、不便を感じる人の多くなっている傾向が見られます。

図表 8 日常の買い物や外出などのしやすさ

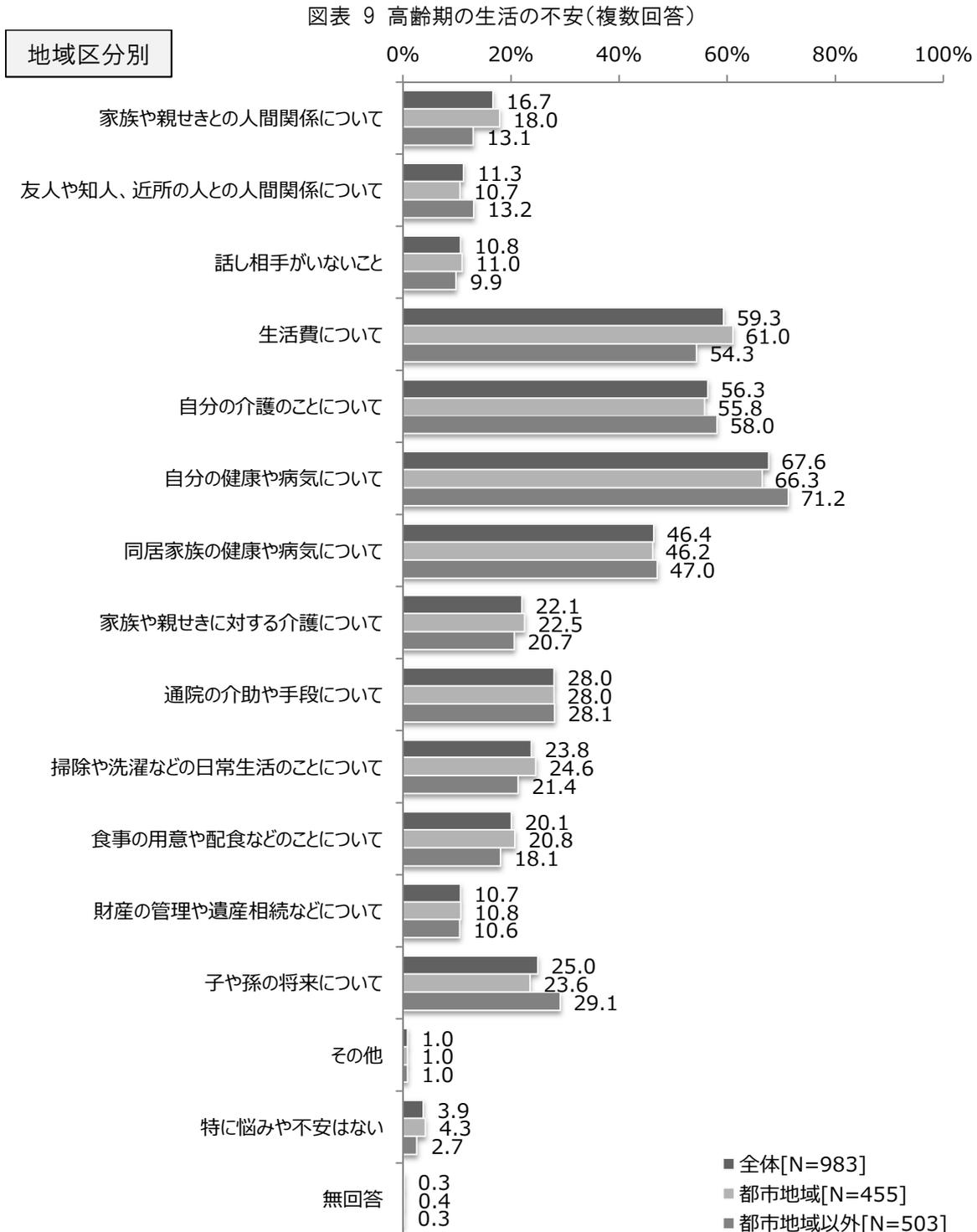


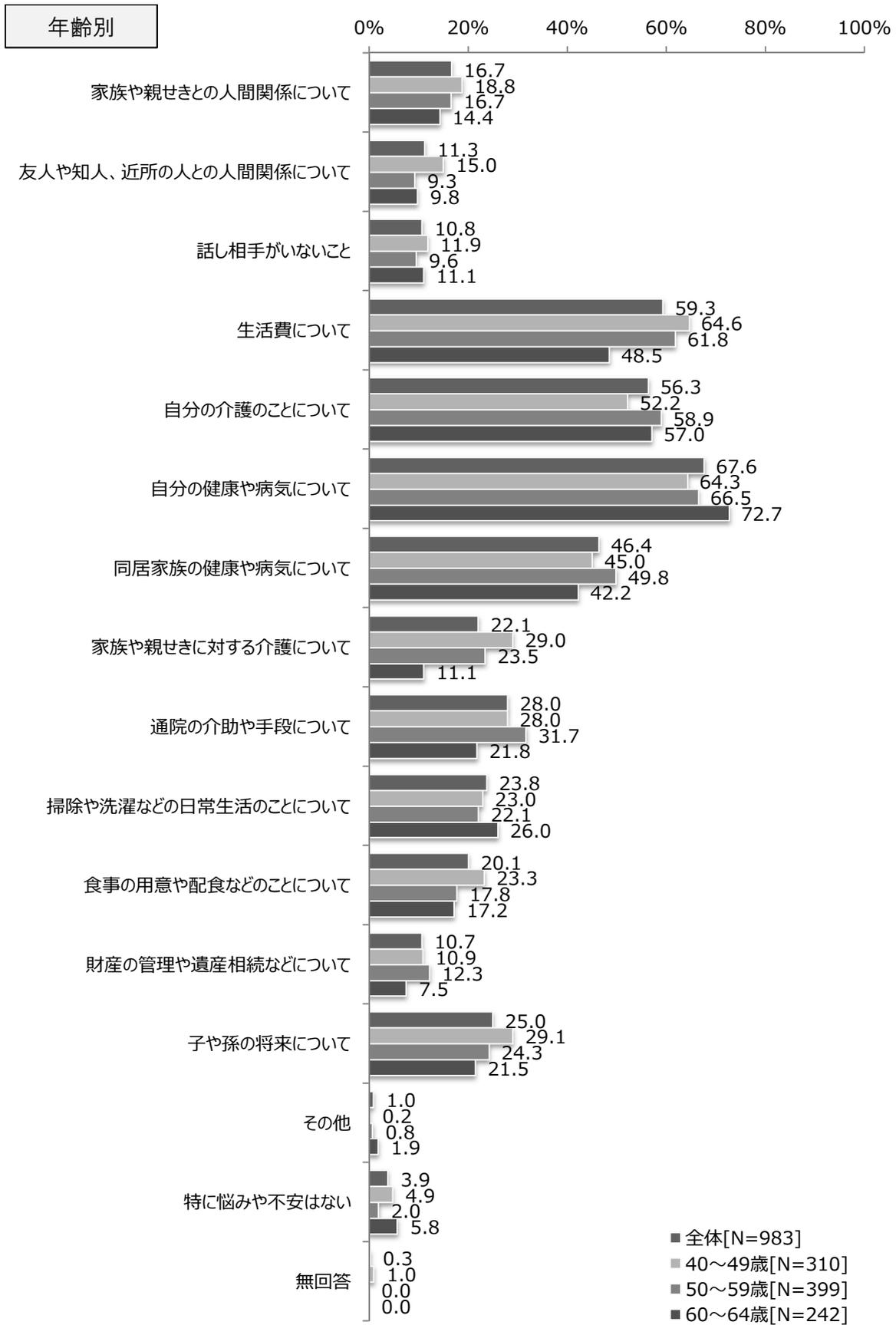
③高齢期の生活の不安

問8 あなたは、ご自身の高齢期の生活を考えたときに、何か不安を感じることはありませんか。(あてはまるものすべてに○)

高齢期の生活の不安としては、「自分の健康や病気について」が67.6%と最も多く、次いで、「生活費について」が59.3%、「自分の介護のことについて」が56.3%、「同居家族の健康や病気について」が46.4%等となっています。

年齢別で見ると、年齢が上がるにつれて、「自分の健康や病気について」をあげる人が多くなっています。





(4) 健康について

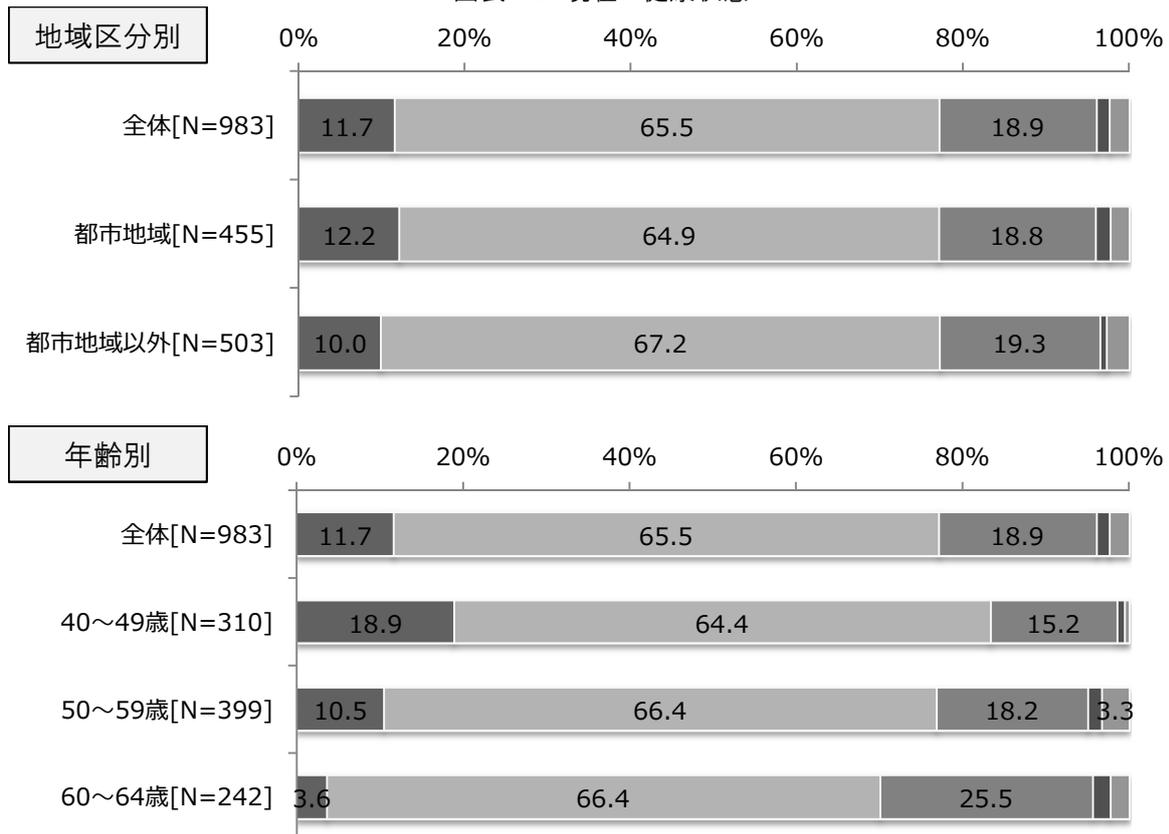
①現在の健康状態

問9 あなたの現在の健康状態についてお答えください。(もっとも近いもの1つに○)

現在の健康状態としては、「大した病気や障害もなく普通に生活している」が 65.5%と多くなっています。

年齢別で見ると、「たいへん健康である」という人は、年齢が上がるにつれて減っています。

図表 10 現在の健康状態



- たいへん健康である
- 大した病気や障害もなく普通に生活している
- 何らかの病気や障害はあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出も一人ができる
- 何らかの病気や障害があって、生活に誰かの手助けが必要である
- 無回答

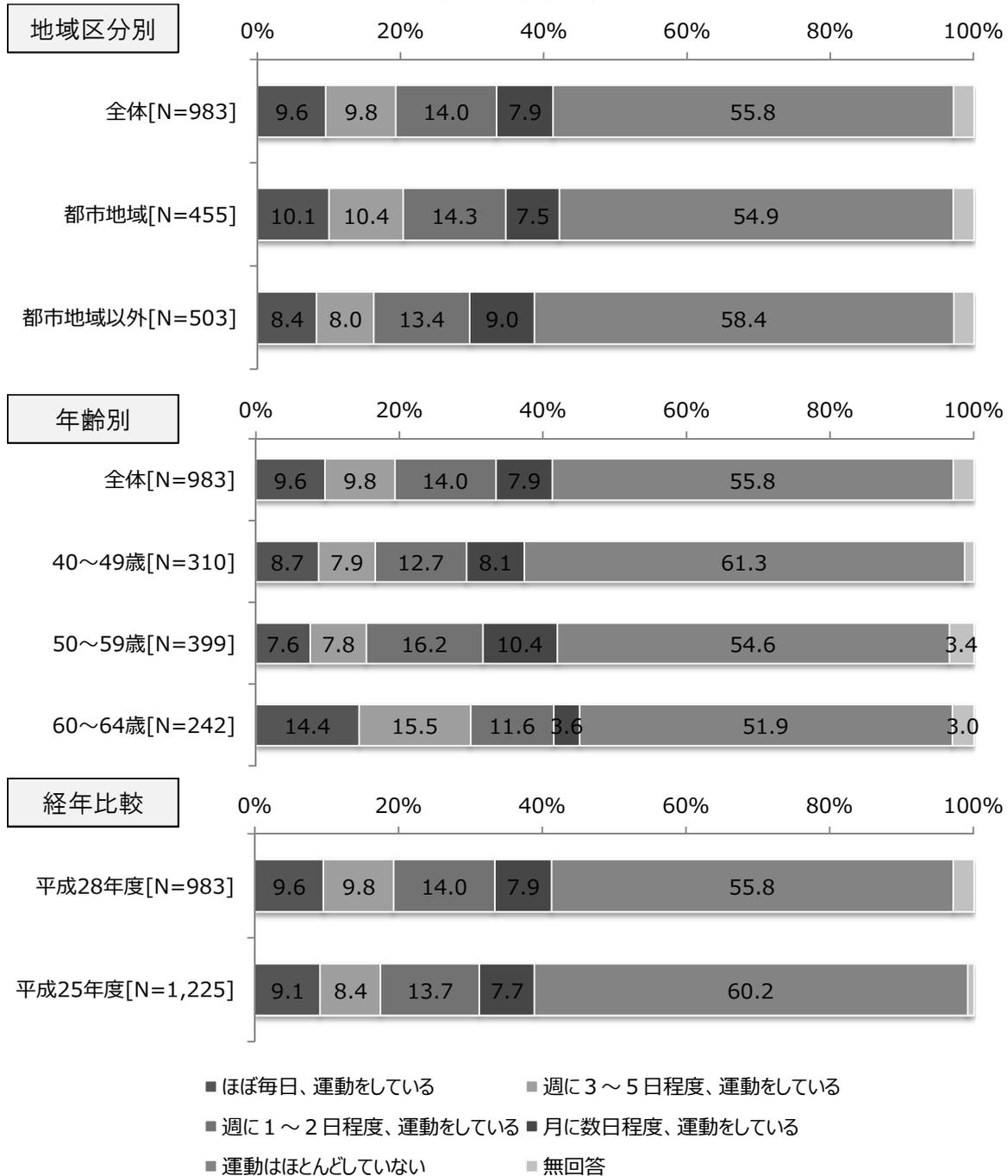
②運動の有無

問 10 あなたは、日頃、運動をしていますか。ここで運動とは、1回 30 分以上の各種スポーツ、体操、ウォーキングなどを指します。(あてはまるもの1つに○)

運動の有無について聞いたところ、「運動はほとんどしていない」が 55.8%と多くなっています。

地域区分別では、都市地域以外で「運動はほとんどしていない」という人がやや多くなっています。年齢別では、年齢の若い層で「運動はほとんどしていない」人が多くなっています。経年比較を見ると、前回調査に比べて、運動をしている人がやや増えている傾向が見られます。

図表 11 運動の有無

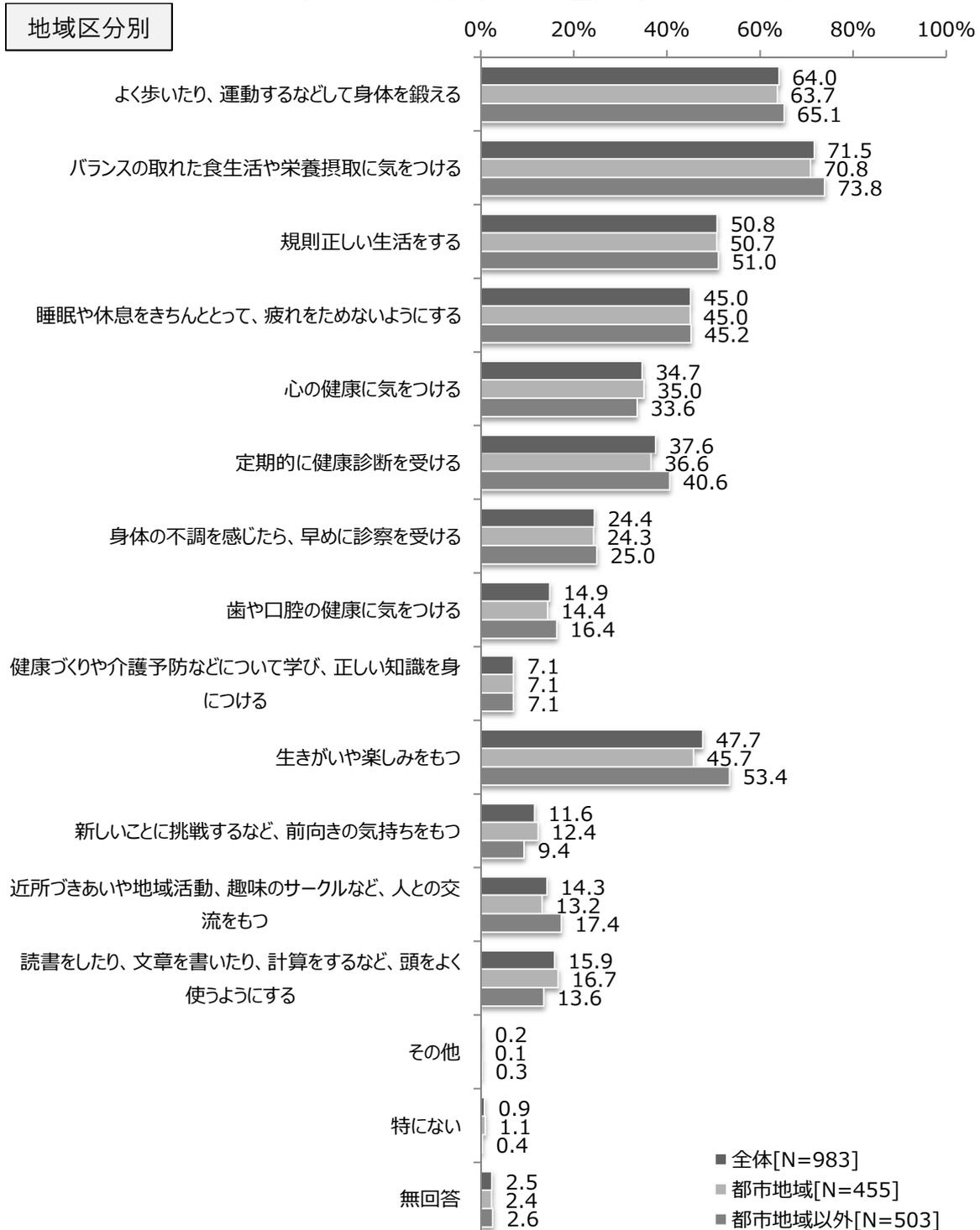


③健康づくりや介護予防のために重要と思うこと

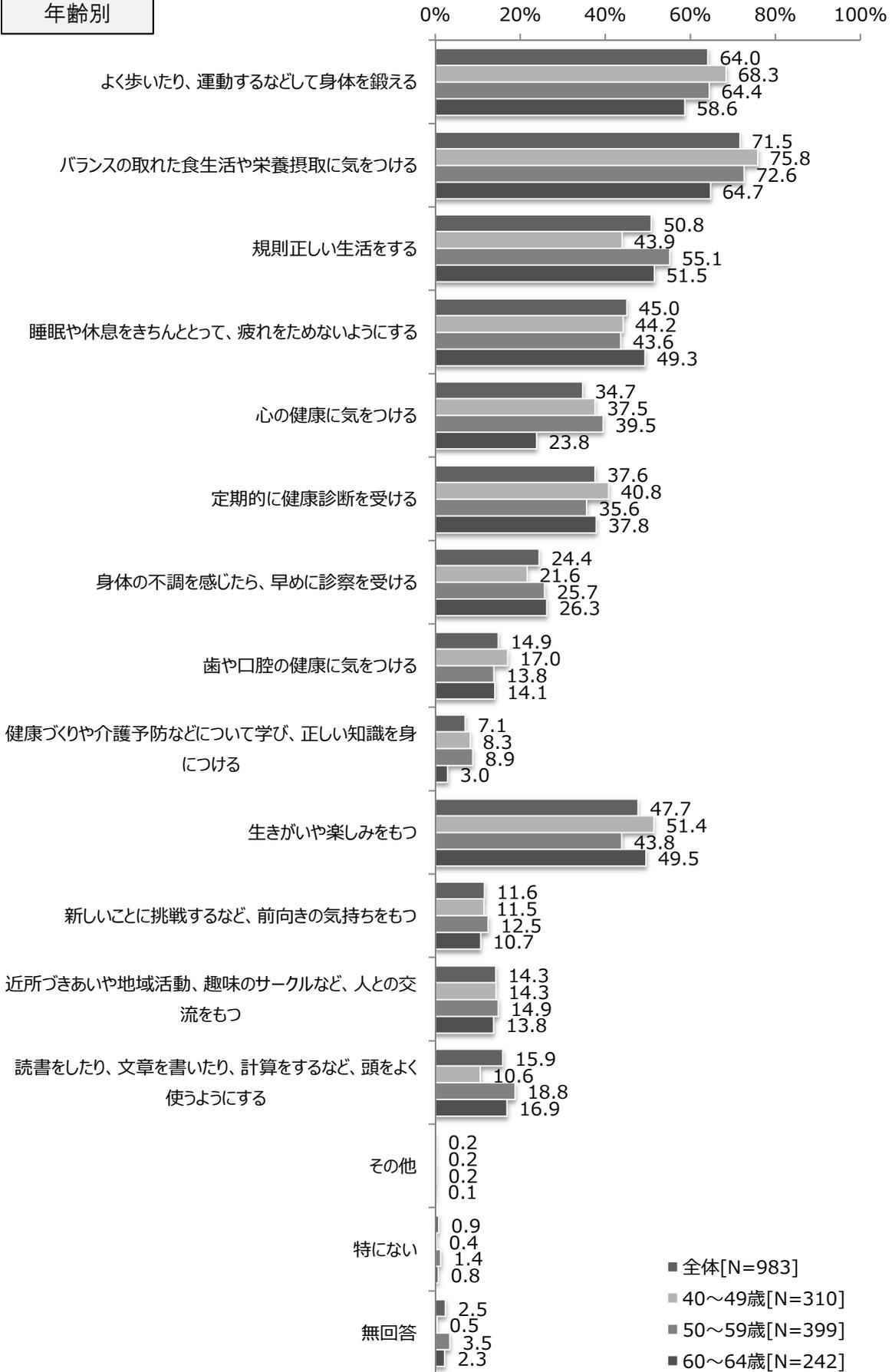
問 11 あなたは、高齢期の健康づくりや介護予防のために、どのようなことが重要だと思いますか。(特に重要と思うこと5つまでに○)

健康づくりや介護予防のために重要と思うことについて聞いたところ、「バランスの取れた食生活や栄養摂取に気をつける」が71.5%と最も多く、次いで、「よく歩いたり、運動するなどして身体を鍛える」が64.0%、「規則正しい生活をする」が50.8%、「生きがいや楽しみをもつ」が47.7%、「睡眠や休息をきちんととって、疲れをためないようにする」が45.0%と続いています。

図表 12 健康づくりや介護予防のために重要と思うこと(複数回答)



年齢別



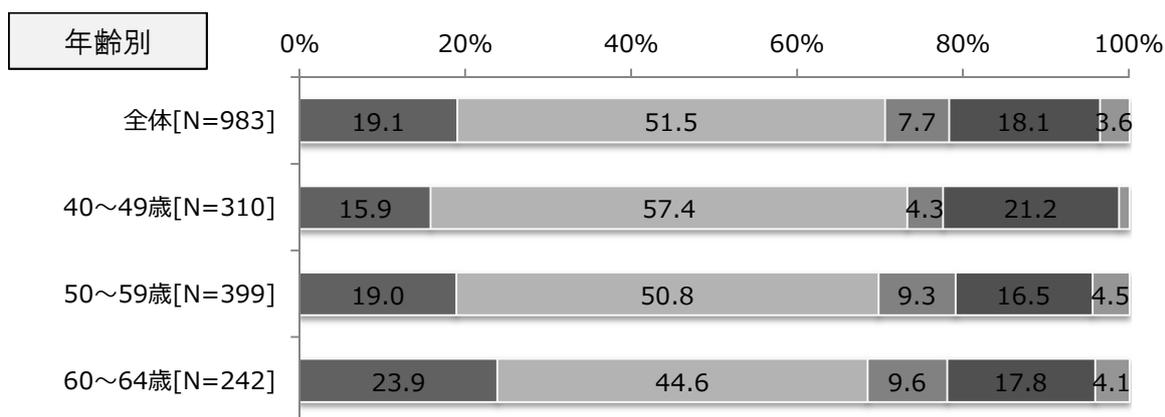
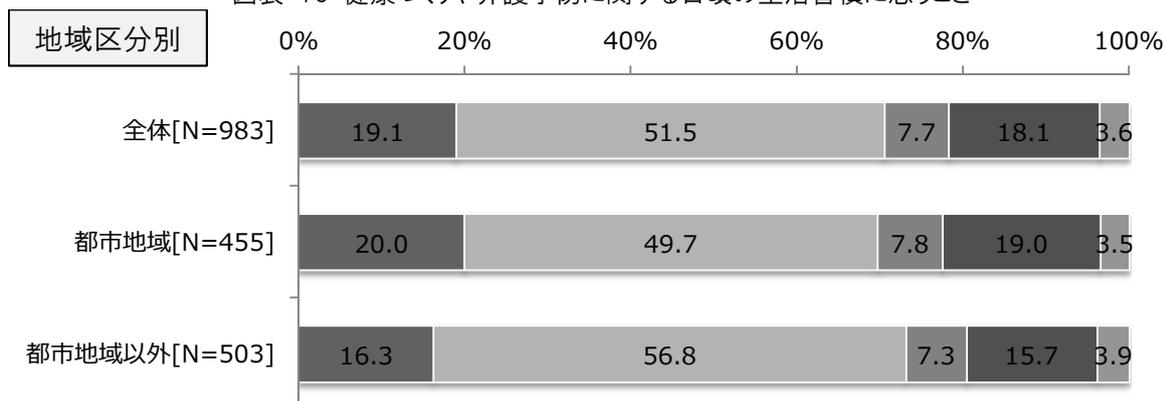
④健康づくりや介護予防に関する日頃の生活習慣に思うこと

問 12 あなたは、健康づくりや介護予防に関して、ご自身の日頃の生活習慣(ロコモ予防やメタボ予防など)をどのように思いますか。(あてはまるもの1つに○)

健康づくりや介護予防に関し、日頃の生活習慣に思うことを聞いたところ、「意識をしており、もっと改善する必要があると思っている」が 51.5%と多くなっています。「普段から意識をして運動や食生活に気をつけている」は 19.1%、「特に意識をしていない」は 18.1%となっています。

年齢別で見ると、年齢が上がるにつれて、「普段から意識をして運動や食生活に気をつけている」という人の増える傾向が見られます。

図表 13 健康づくりや介護予防に関する日頃の生活習慣に思うこと



- 普段から意識をして運動や食生活に気をつけている
- 意識をしており、もっと改善する必要があると思っている
- 意識はしているが、自分の年齢で今から気をつけても仕方ないと思う
- 特に意識をしていない
- 無回答

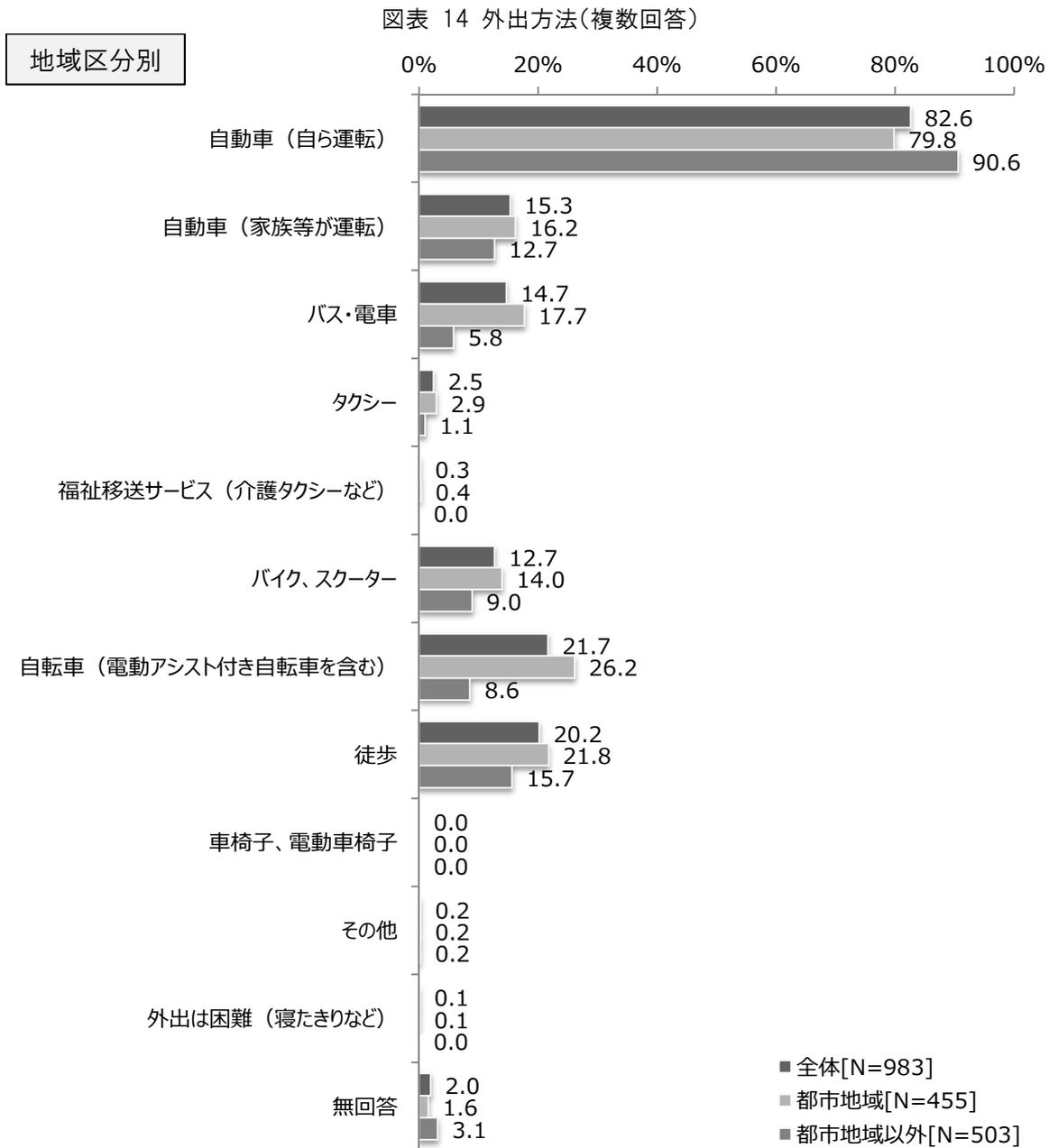
(5) 高齢期の在宅の暮らし、住み替えなどについて

①外出方法

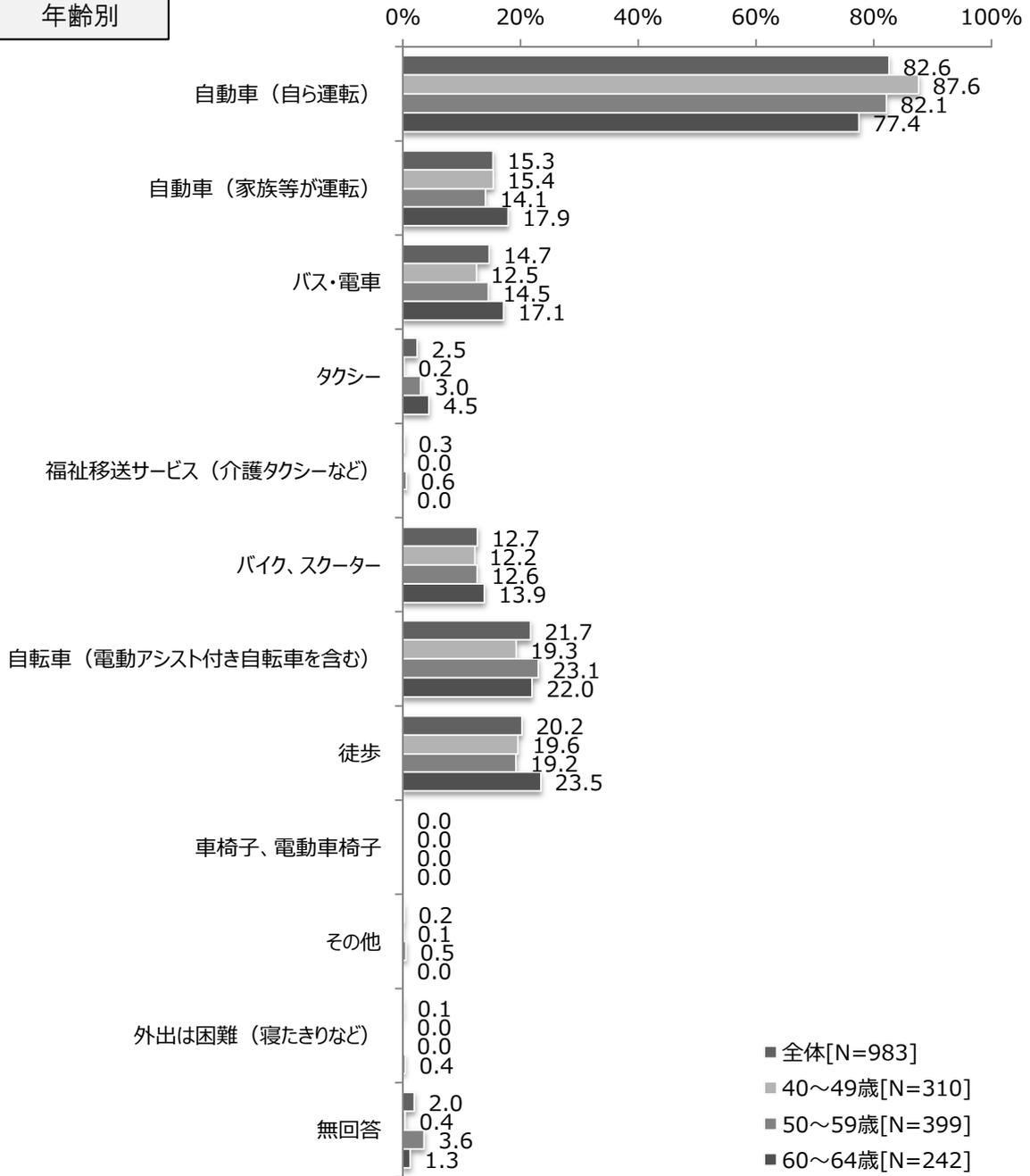
問 13 あなたは、日頃、どのような方法で外出していますか。(あてはまるものすべてに○)

外出方法について聞いたところ、「自動車（自ら運転）」が 82.6%と多くなっています。その他、「自転車（電動アシスト付き自転車を含む）」が 21.7%、「徒歩」が 20.2%等となっています。

地域区分別で見ると、都市地域以外で「自動車（自ら運転）」が多く、その他の方法は都市地域で比較的多くなっています。



年齢別

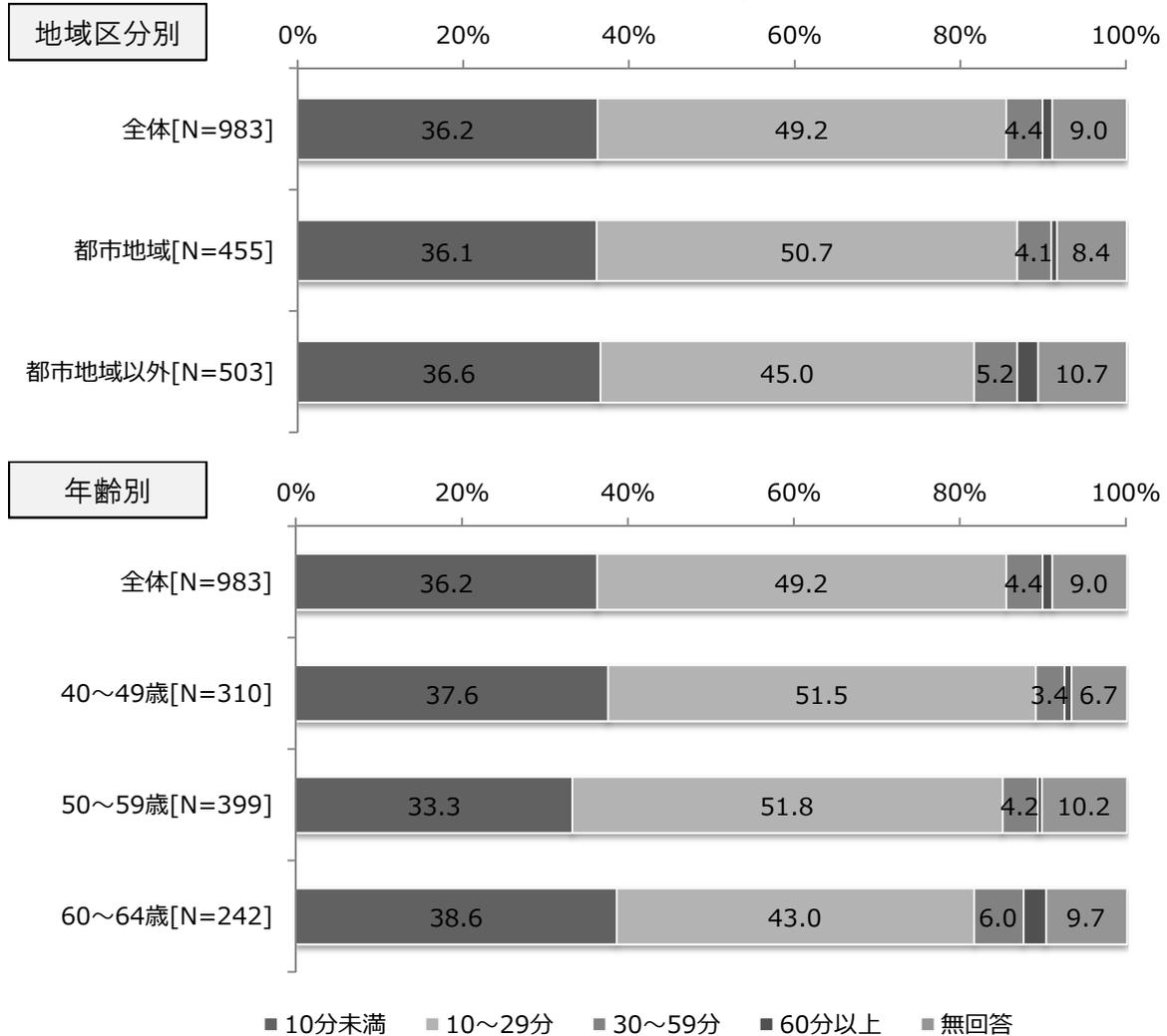


②最寄りの駅等までの所要時間

問 14 あなたは、電車やバスなど公共交通機関を利用するとき、最寄りの駅またはバス停まで、片道でどのくらい時間がかかりますか。分単位で記入してください。

最寄りの駅またはバス停まで、片道でどのくらい時間がかかるかを聞いたところ、10～29分が49.2%と最も多く、一方、10分未満は36.2%となっています。

図表 15 最寄りの駅等までの所要時間

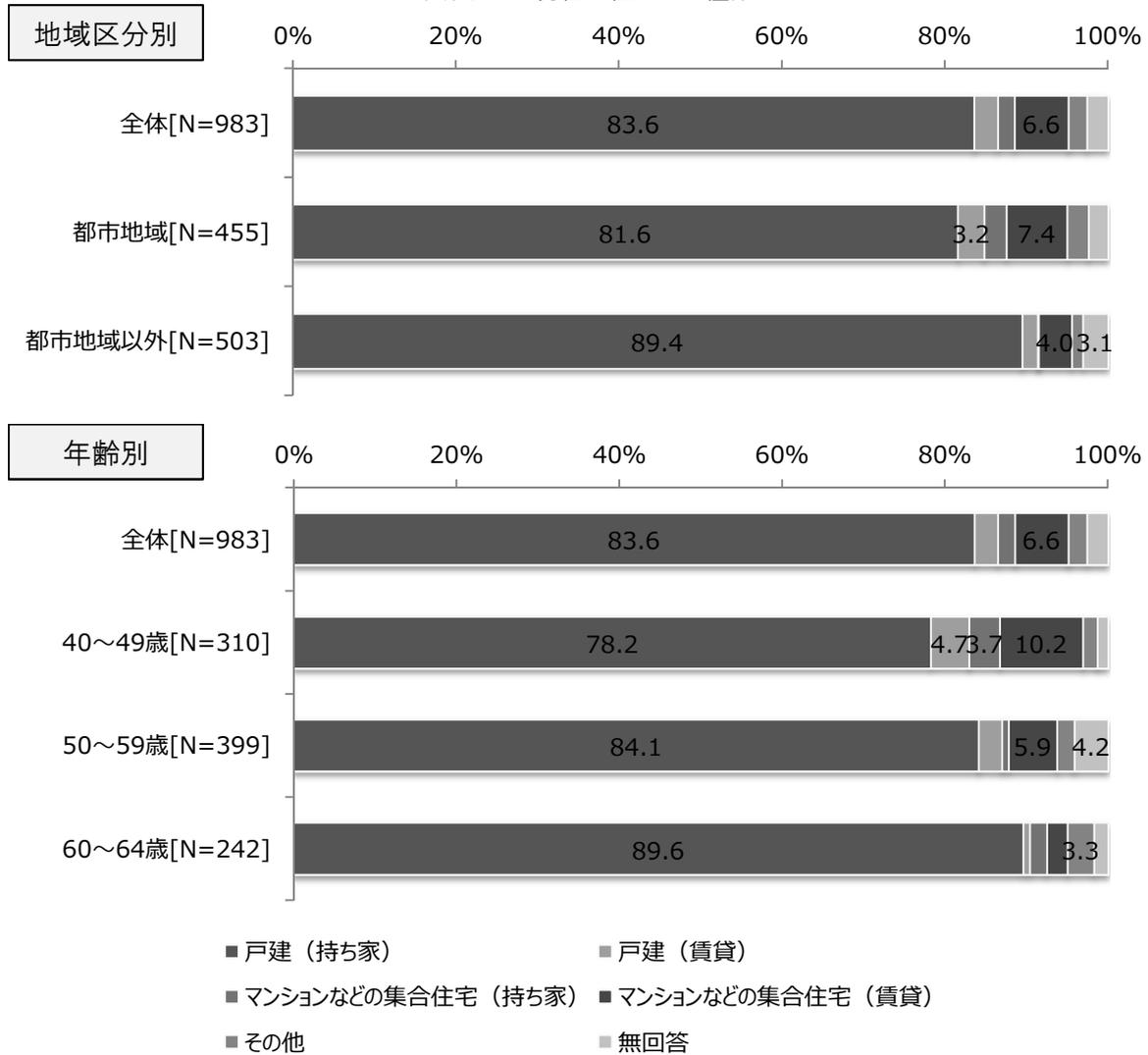


③現在の住まいの種類

問 15 あなたの現在のお住まいの種類は、次のうちのどれにあてはまりますか。(あてはまるもの1つに○)

現在の住まいの種類としては、「戸建（持ち家）」が83.6%と多くなっています。

図表 16 現在の住まいの種類



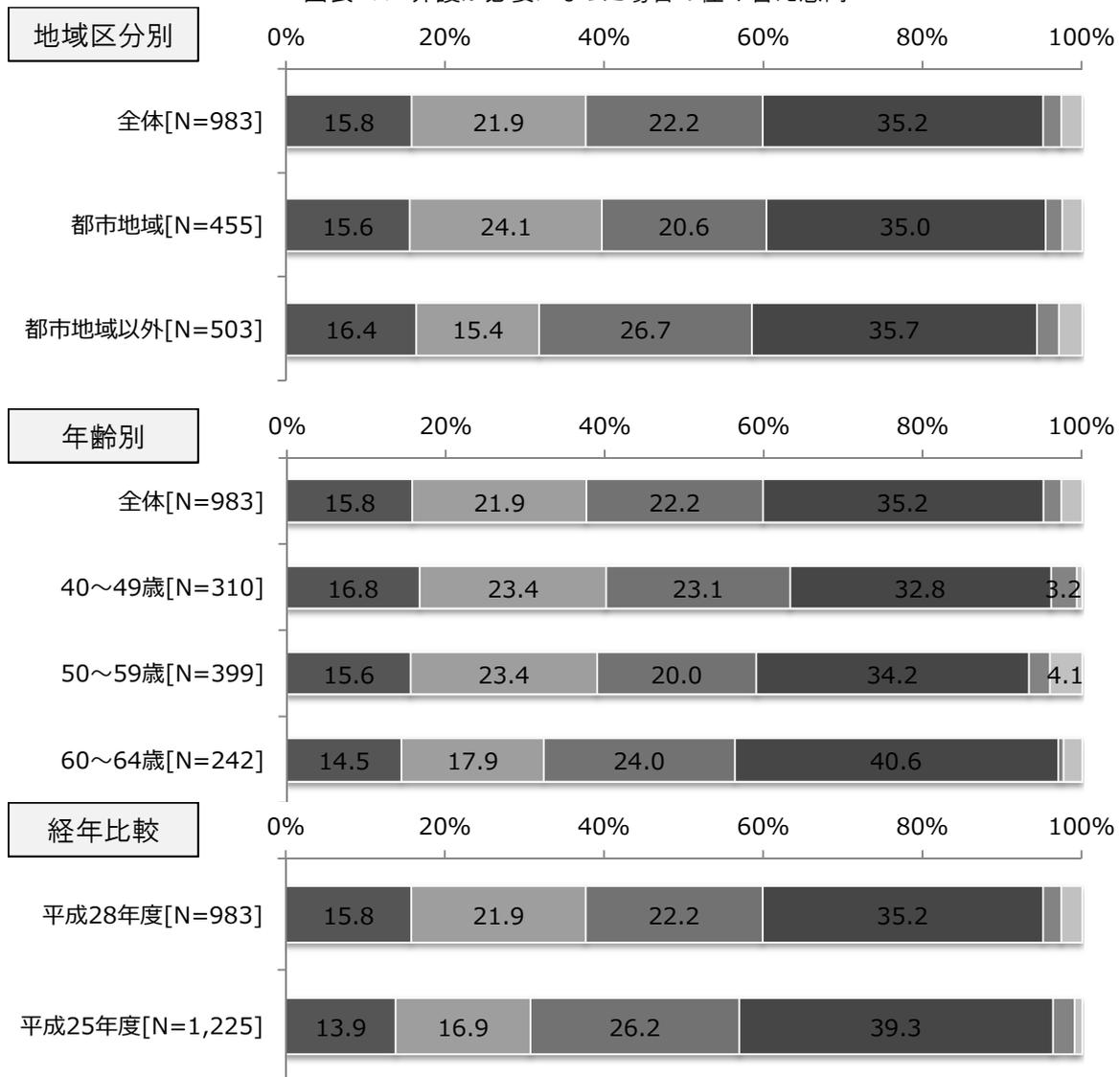
④介護が必要になった場合の住み替え意向

問 16 あなたは、将来、介護が必要になった場合に、現在のお住まいから介護サービスが付いている住宅・施設等に住み替えたいと思いますか。(そう思うもの1つに○)

介護が必要になった場合の住み替え意向について聞いたところ、「今の住宅にできるだけ住み続けたい(住み替えは考えない)」が 35.2%、「家族の介護を受けられれば今の住宅がよいが、難しい場合は住み替えを考えたい」が 22.2%、「施設までは考えないが、サービスの付いた住宅があれば住み替えを考えたい」が 21.9%等となっています。

経年比較では、前回調査と比べて、「今の住宅にできるだけ住み続けたい(住み替えは考えない)」という人がやや減少しています。

図表 17 介護が必要になった場合の住み替え意向



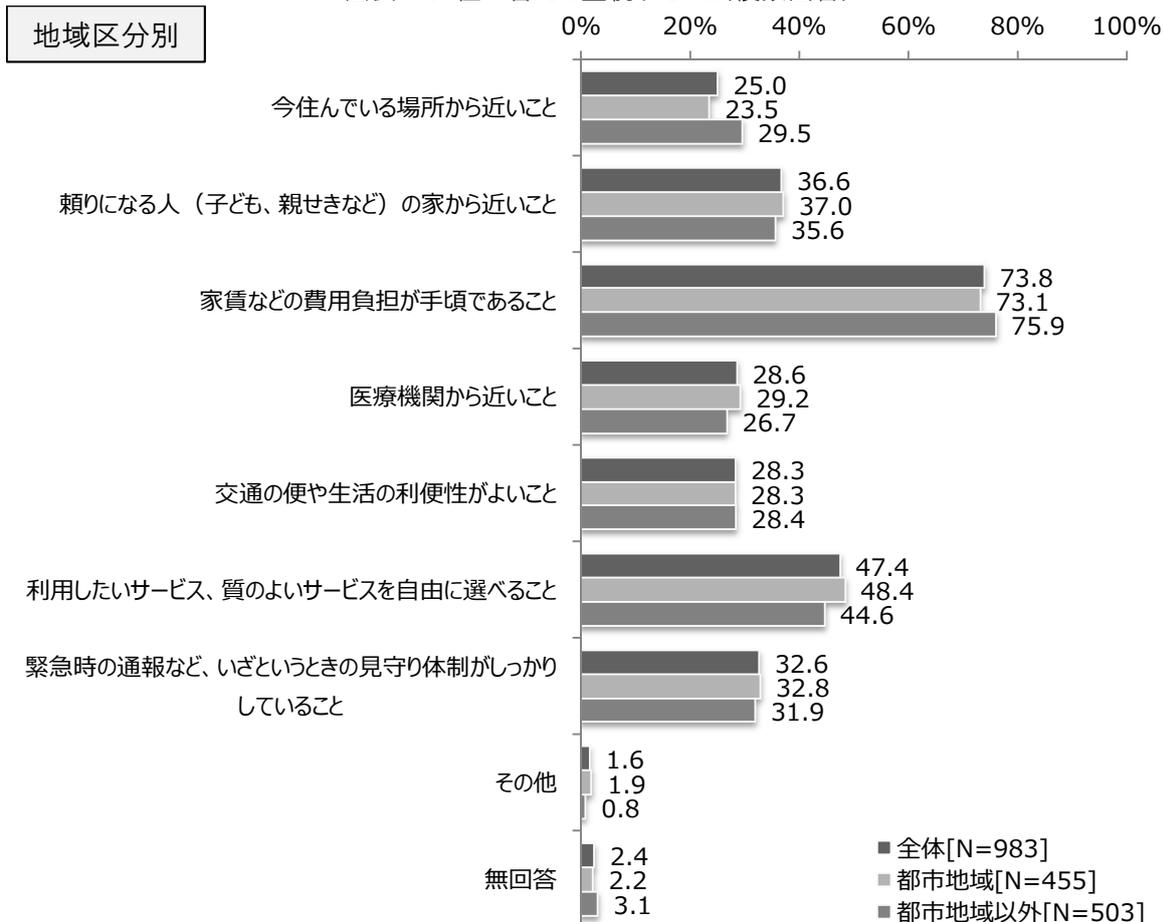
- 介護保険施設(特別養護老人ホームなど)に入所したい
- 施設までは考えないが、サービスの付いた住宅があれば住み替えを考えたい
- 家族の介護を受けられれば今の住宅がよいが、難しい場合は住み替えを考えたい
- 今の住宅にできるだけ住み続けたい(住み替えは考えない)
- その他
- 無回答

⑤ 住み替えで重視すること

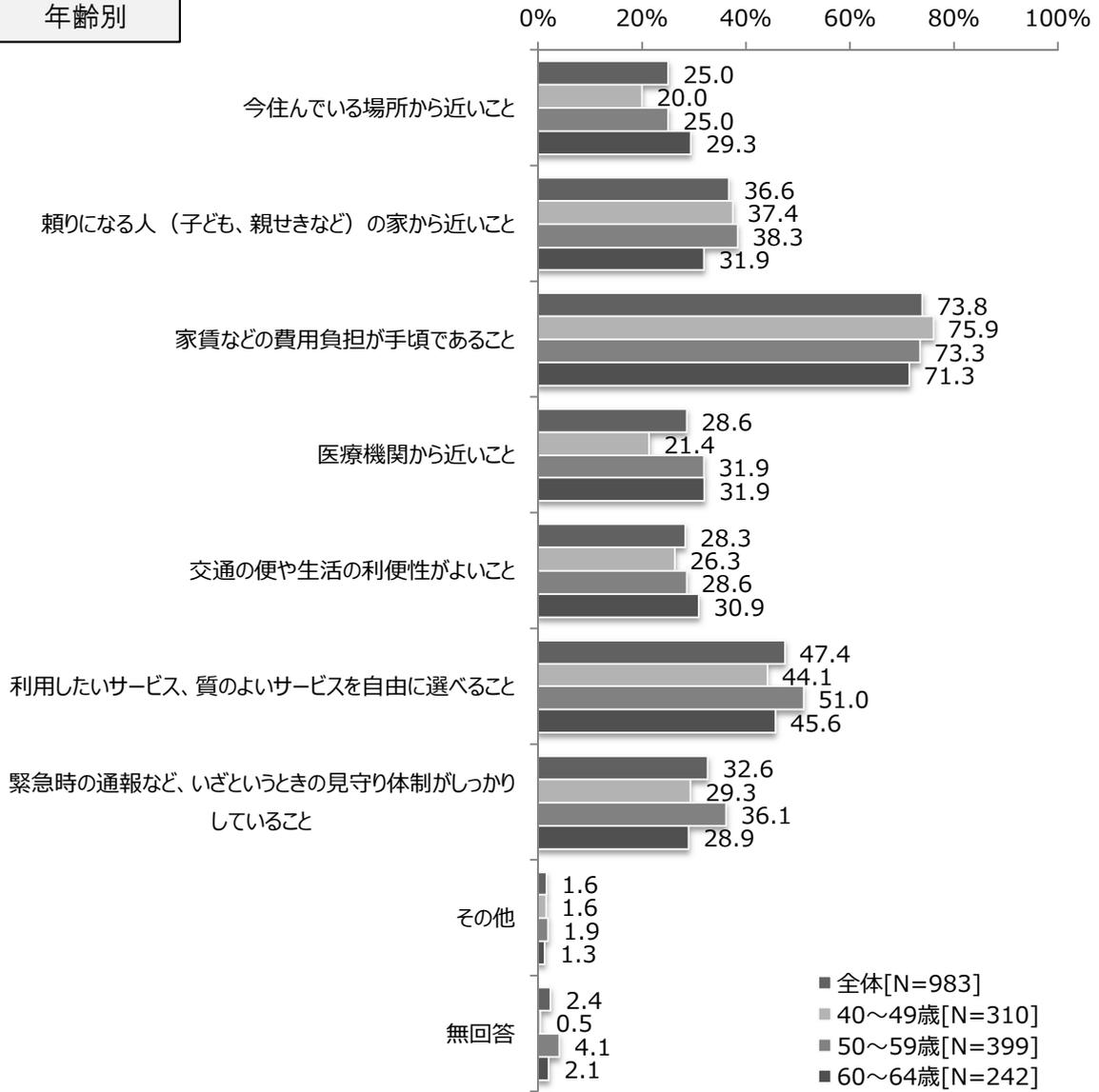
問 17 もし、介護サービスが付いている住宅・施設等に住み替えを考えるとすれば、重視することは何でしょうか。(あてはまるものすべてに○)

住み替えで重視することを聞いたところ、「家賃などの費用負担が手頃であること」が 73.8%と最も多く、次いで、「利用したいサービス、質のよいサービスを自由に選べること」が 47.4%、「頼りになる人（子ども、親せきなど）の家から近いこと」が 36.6%、「緊急時の通報など、いざというときの見守り体制がしっかりしていること」が 32.6%と続いています。

図表 18 住み替えで重視すること(複数回答)



年齢別

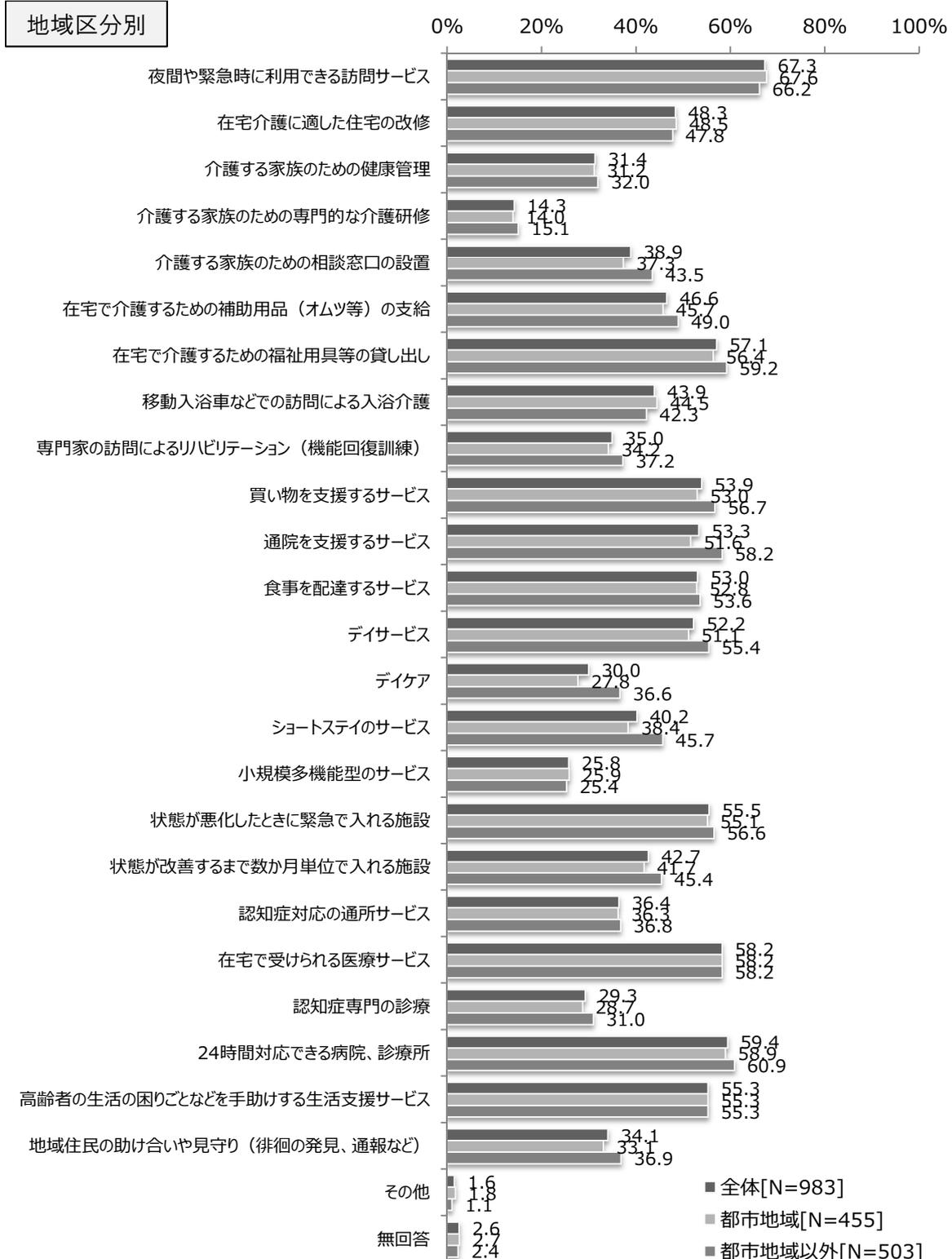


⑥介護が必要になった場合の在宅生活に必要なサービス

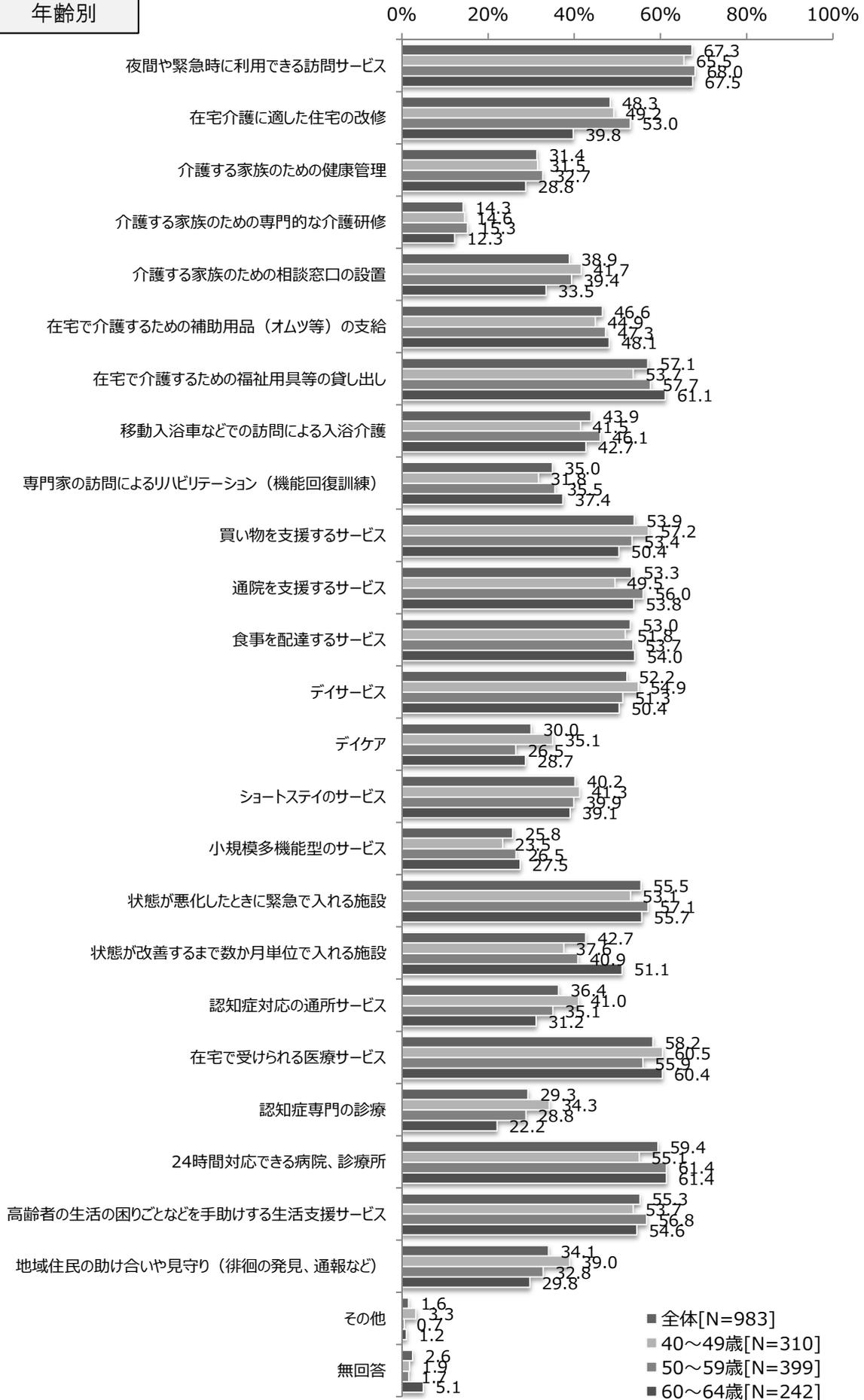
問 18 将来、介護が必要になった場合に、住み替えずに現在の住宅で生活を続けていくとしたら、どんなサービスが必要だと思いますか。(必要と思うものすべてに○)

介護が必要になった場合の在宅生活に必要なサービスを聞いたところ、「夜間や緊急時に利用できる訪問サービス」が67.3%と最も多く、次いで、「24時間対応できる病院、診療所」が59.4%、「在宅で受けられる医療サービス」が58.2%と続いています。

図表 19 介護が必要になった場合の在宅生活に必要なサービス(複数回答)



年齢別



(6) 自宅での看取りの考え方などについて

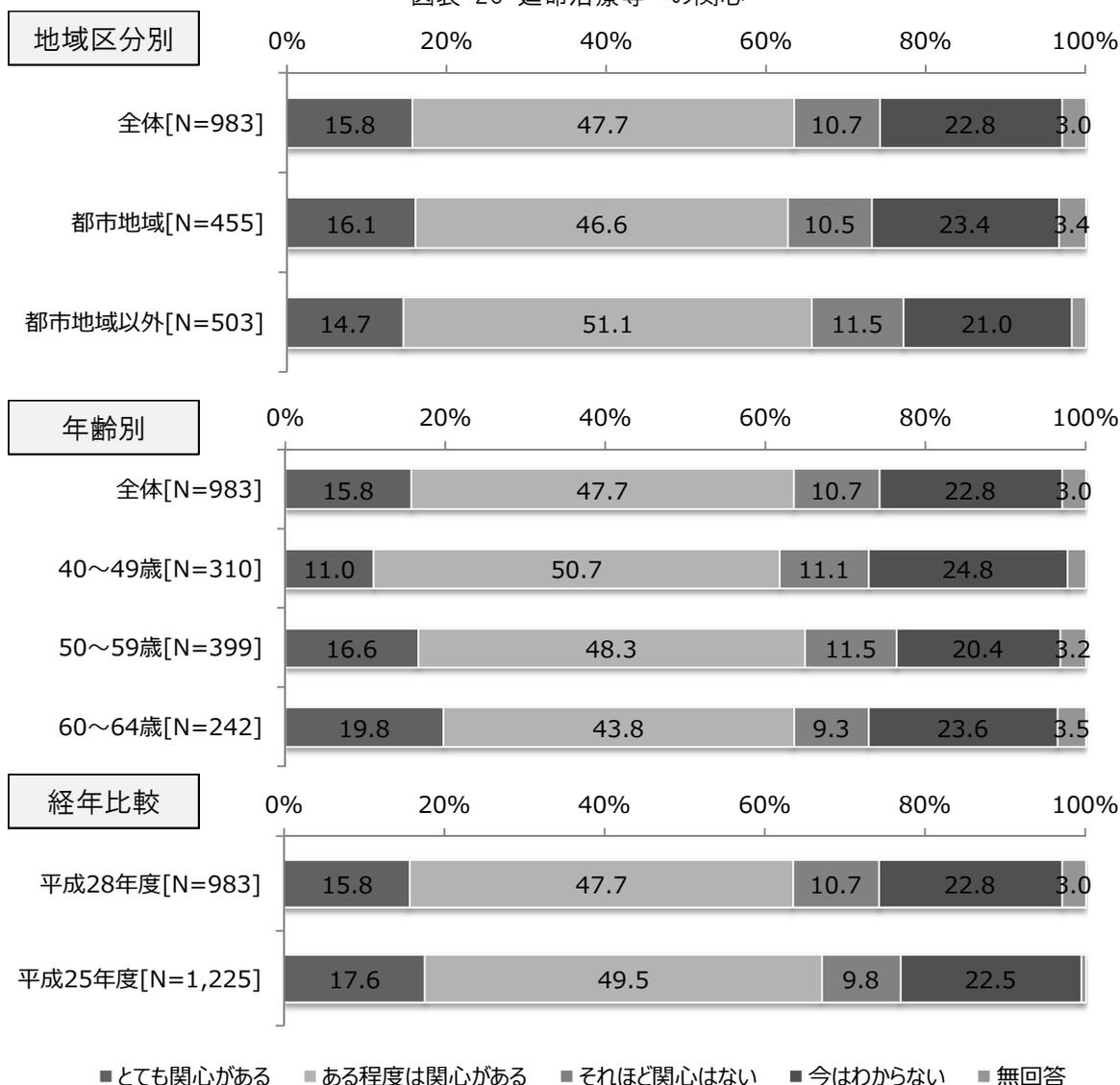
①延命治療等への関心

問 19 現在、わが国では、多くの人が病院で亡くなっていますが、近年、延命治療の是非や、住み慣れた自宅での看取り・最期を迎えることなどについて、関心が高まっています。あなたは、こうしたことについて、関心がありますか。(最も近いもの1つに○)

延命治療等への関心について聞いたところ、「ある程度は関心がある」が 47.7%、「今はわからない」が 22.8%、「とても関心がある」が 15.8%、「それほど関心はない」が 10.7%となっています。

年齢別では、年齢が上がるにつれて、「とても関心がある」という人の増える傾向が見られます。

図表 20 延命治療等への関心



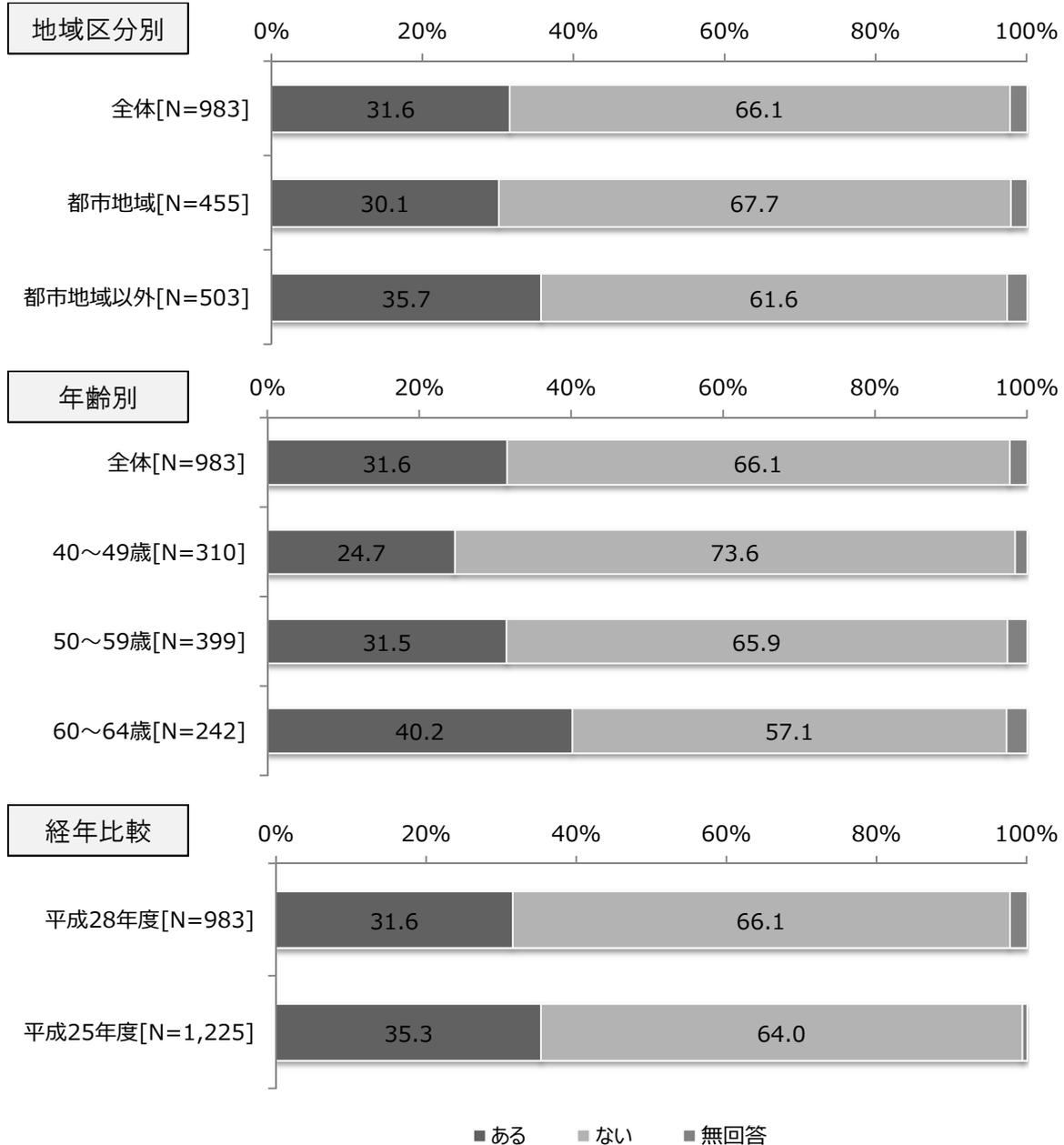
②自宅を家族を看取った経験の有無

問 20 あなたは、自宅(または親の自宅等)で、家族を看取った経験がありますか。(いずれか1つに○)

自宅を家族を看取った経験の有無について聞いたところ、「ない」が66.1%、「ある」が31.6%となっています。

年齢別では、年齢が上がるにつれて、「ある」という人が増えています。経年比較では、前回調査と比べて、「ある」という人がやや減っています。

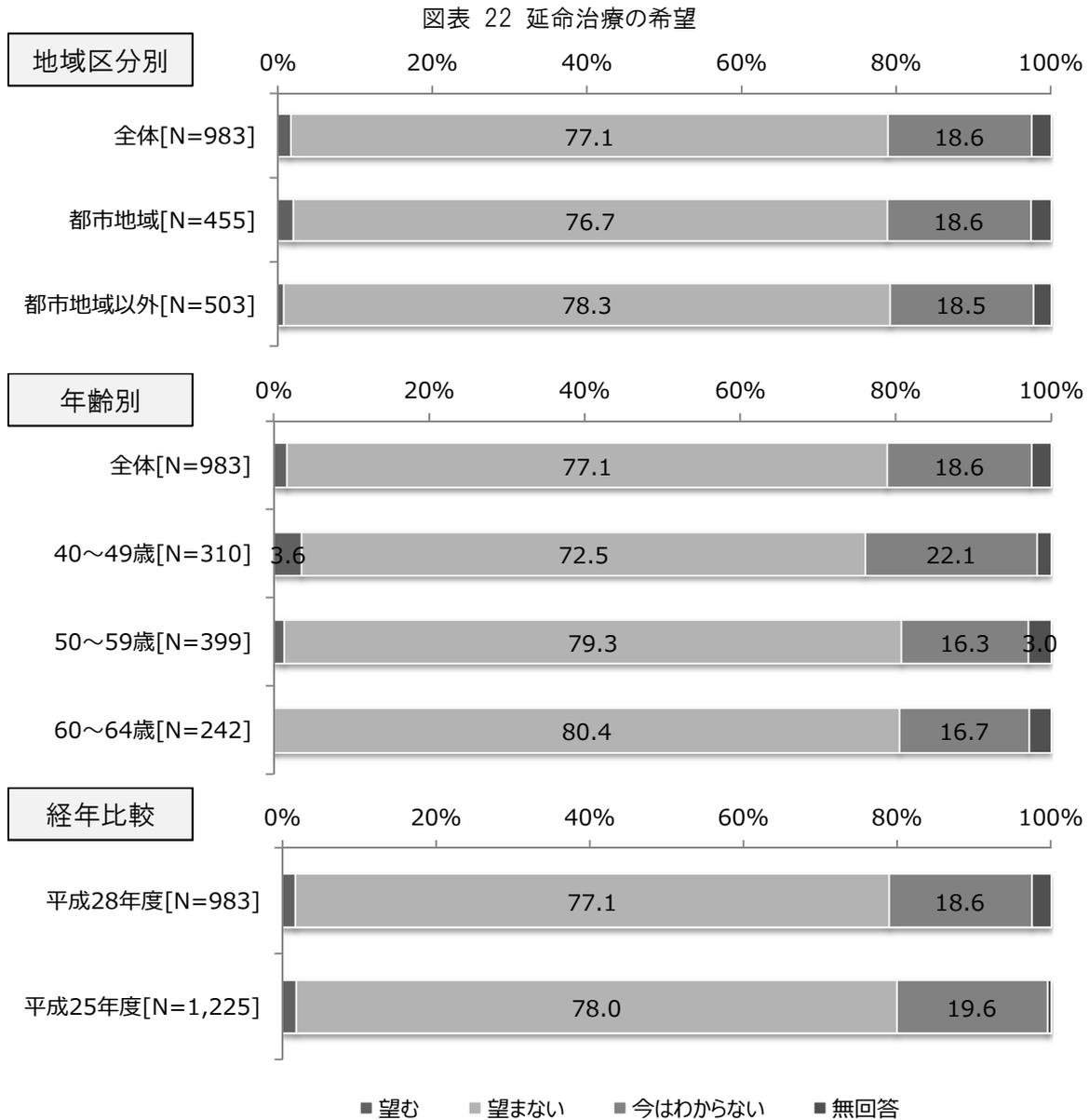
図表 21 自宅を家族を看取った経験の有無



③延命治療の希望

問 21 もしも、適切な医療を受けたにも関わらず治る見込みがなく、死期が迫っている状態になった場合に、あなた自身は、延命治療を望みますか。(最も近いもの1つに○)

延命治療の希望については、「望まない」が77.1%、「今はわからない」が18.6%となっています。



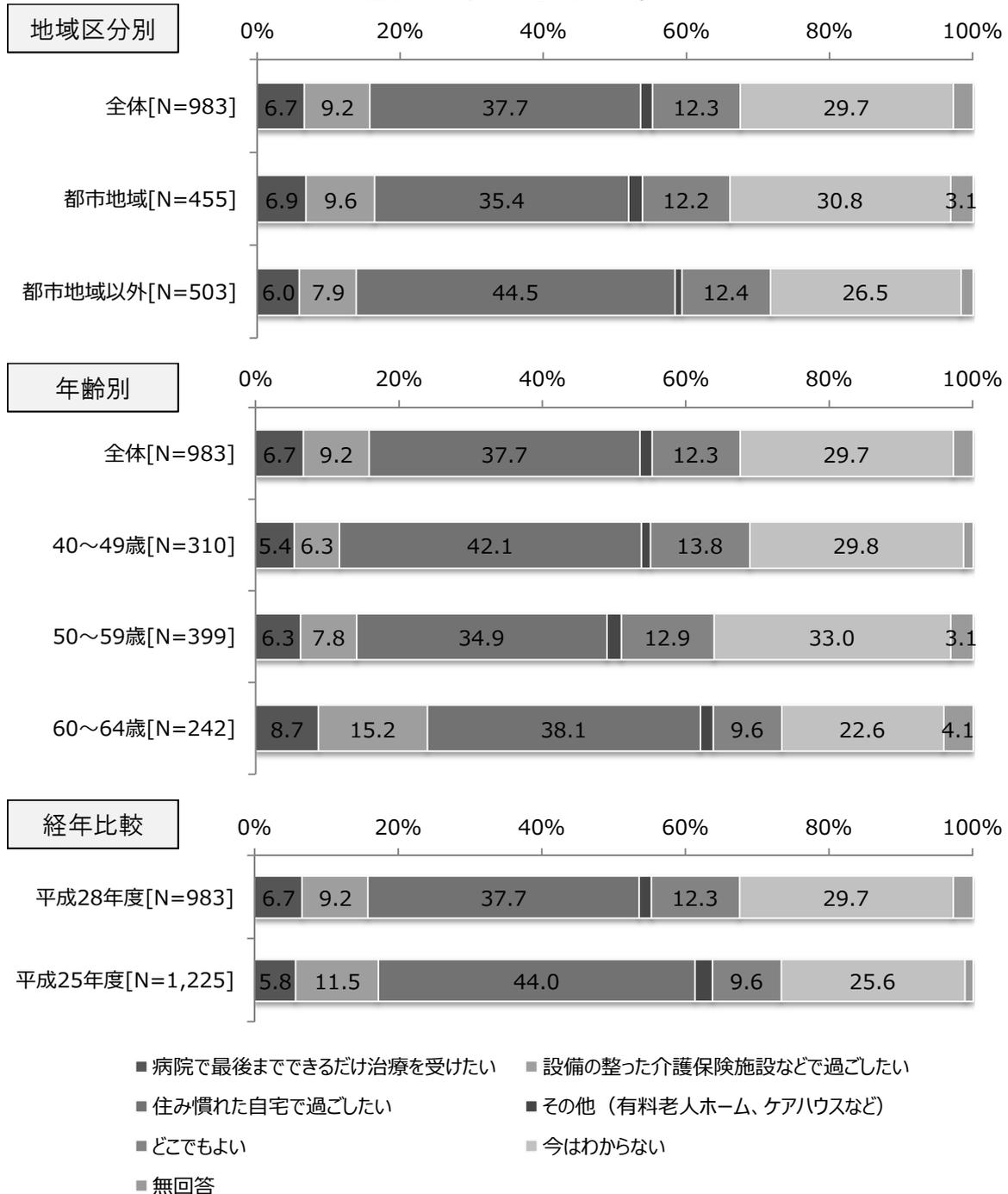
④最期を過ごしたい場所

問 22 もしも、適切な医療を受けたにも関わらず治る見込みがなく、死期が迫っている状態になった場合に、あなた自身は、最期をどこで迎えたいと思われますか。(最も近いもの1つに○)

自分が最期を過ごしたい場所について聞いたところ、「住み慣れた自宅で過ごしたい」が37.7%、「今はわからない」が29.7%、「どこでもよい」が12.3%等となっています。

年齢別で見ると、60～64歳では、「設備の整った介護保険施設などで過ごしたい」という人も比較的多くなっています。経年比較では、前回調査と比べて、「住み慣れた自宅で過ごしたい」という人が減少しています。

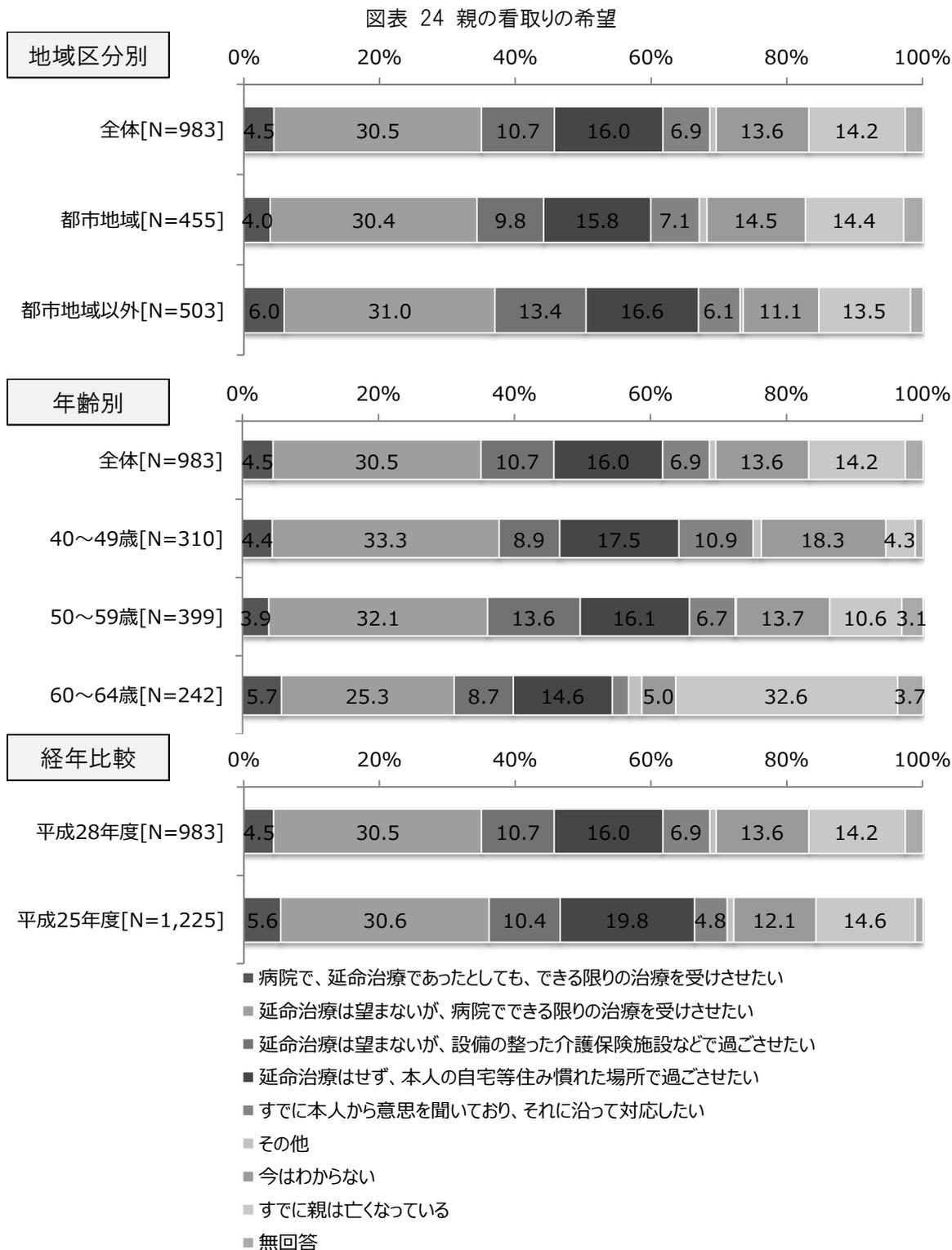
図表 23 最期を過ごしたい場所



⑤親の看取りの希望

問 23 もしも、あなたの親に死期が迫っており、本人の意思確認が難しい状態になったとしたら、あなたはどのように看取りたいと思いますか。(最も近いもの1つに○)

親の看取りに関する希望を聞いたところ、「延命治療は望まないが、病院でできる限りの治療を受けさせたい」が 30.5%、「延命治療はせず、本人の自宅等住み慣れた場所で過ごさせたい」が 16.0%等となっています。

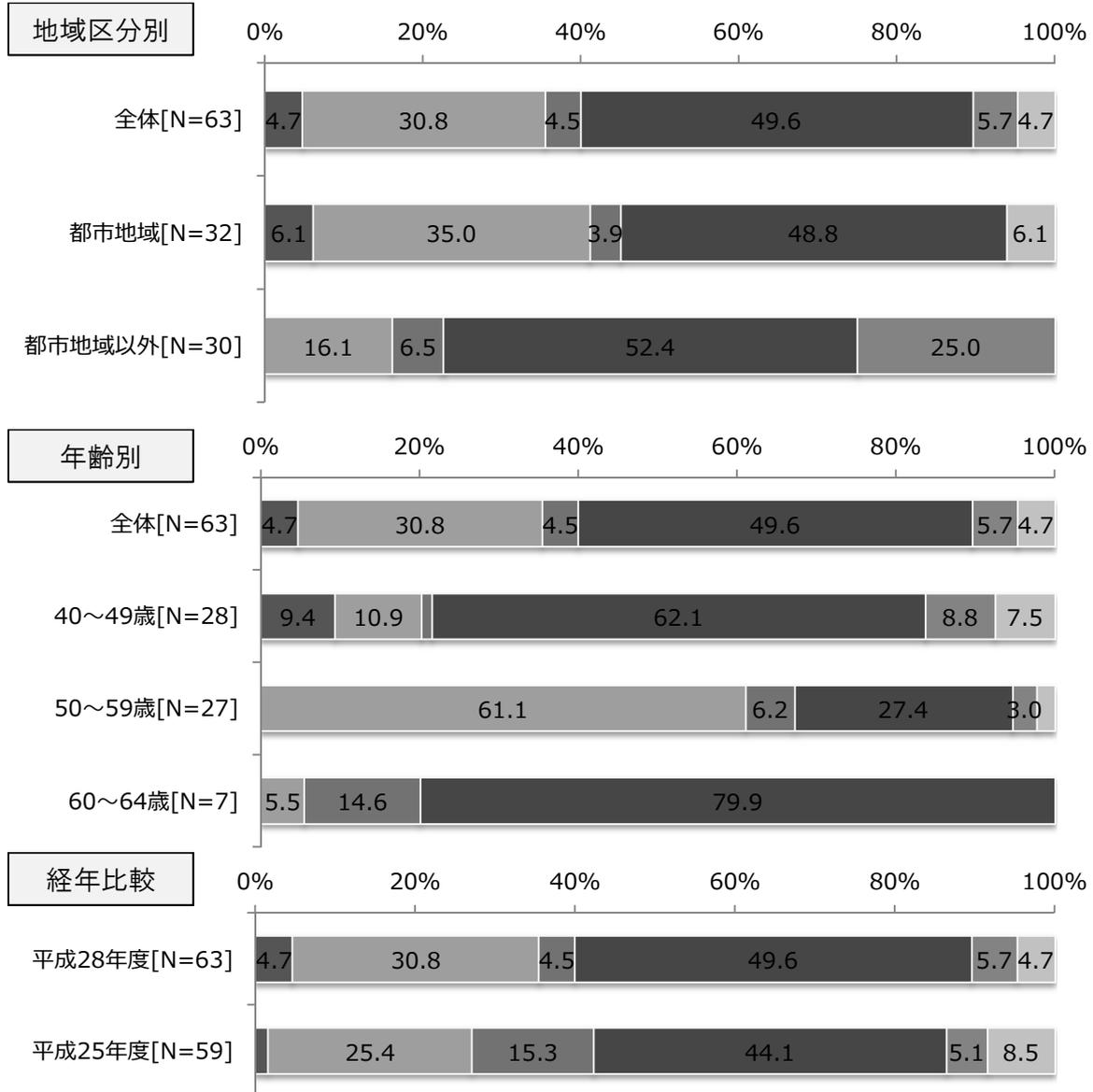


⑥終末期に関する親の意思

問 24 前の問で「5. すでに本人から意思を聞いており、それに沿って対応したい」と答えた方におたずねします。それはどのような意思ですか。(最も近いもの1つに○)

看取りについて、親から意思を聞いていると回答した人に、その内容について聞いたところ、「延命治療は受けたくないし、最期は住み慣れた自宅等で過ごしたい」が 49.6%、「延命治療は受けたくないが、病院でできる限りの治療を受けたい」が 30.8%等となっています。

図表 25 終末期に関する親の意思



- 病院で、延命治療であったとしても、できる限りの治療を受けたい
- 延命治療は受けたくないが、病院でできる限りの治療を受けたい
- 延命治療は受けたくないが、設備の整った介護保険施設などへ入所したい
- 延命治療は受けたくないし、最期は住み慣れた自宅等で過ごしたい
- その他
- 無回答

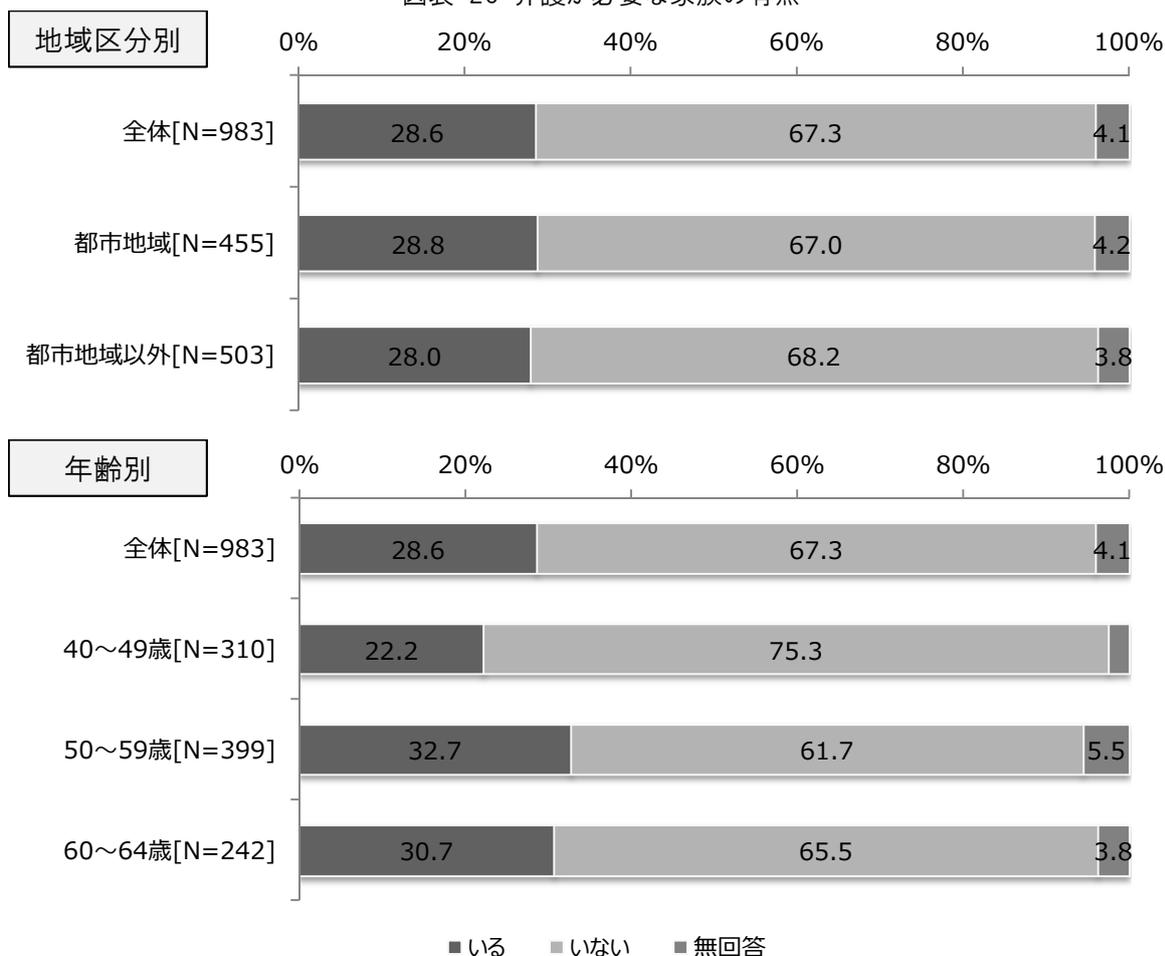
(7) 家族介護の状況などについて

①介護が必要な家族の有無

問 25 あなたのご家族(別居の場合を含みます)で、介護が必要な方(要支援・要介護の認定を受けている方)はおられますか。(あてはまるものすべてに○)

介護が必要な家族の有無については、「いない」が67.3%、「いる」が28.6%となっています。年齢別で見ると、50～59歳で「いる」という人が多くなっています。

図表 26 介護が必要な家族の有無



②家族介護への関わり

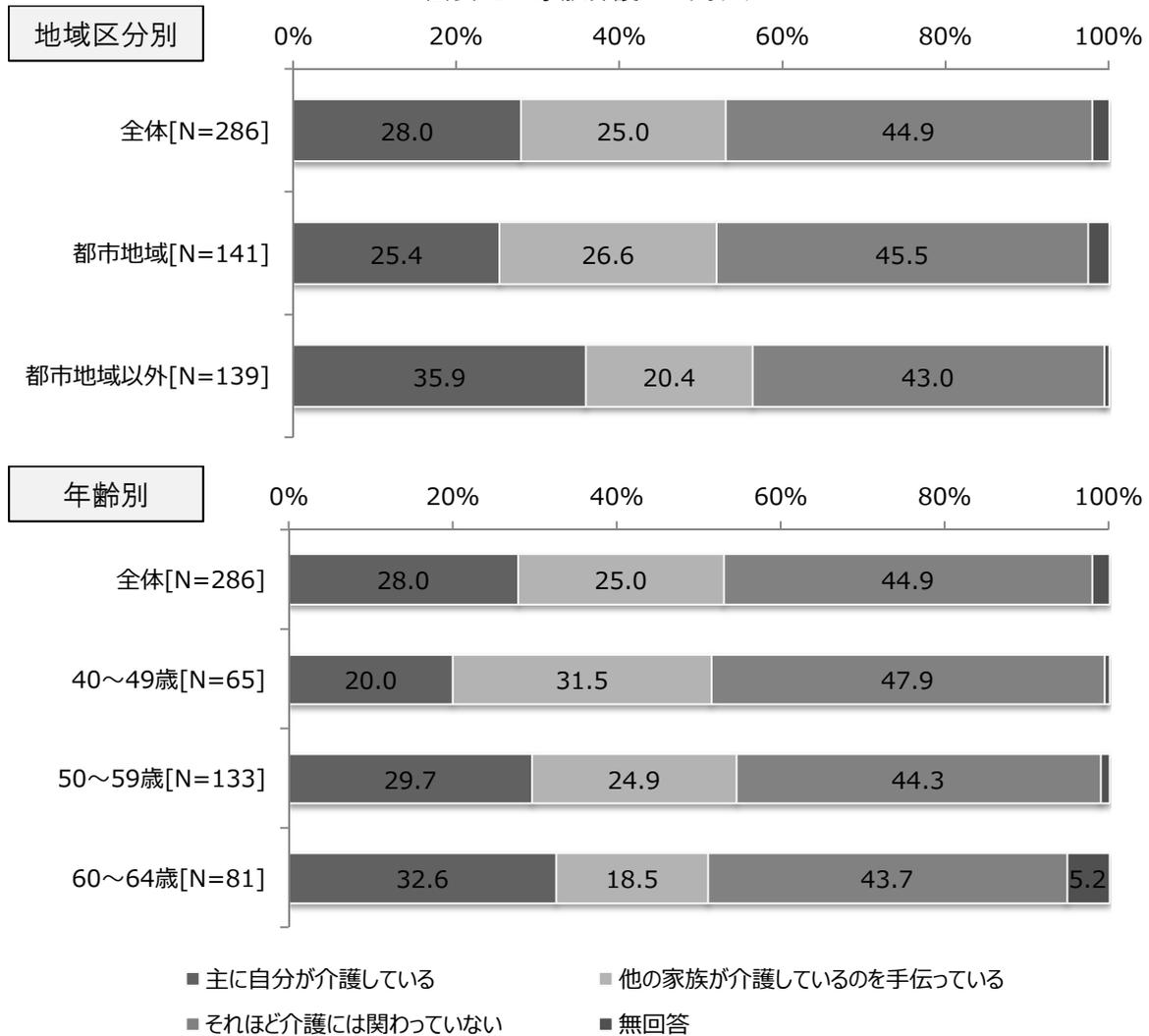
問 26 「1. いる」と答えた方におたずねします。

(1)あなた自身は、その方の介護にどのように関わっていますか。(あてはまるもの1つに○)

介護が必要な家族のいる人に、家族介護への関わりについて聞いたところ、「それほど介護には関わっていない」が44.9%、「主に自分が介護している」が28.0%、「他の家族が介護しているのを手伝っている」が25.0%となっています。

地域区分別で見ると、都市地域以外で「主に自分が介護している」という人が多くなっています。

図表 27 家族介護への関わり



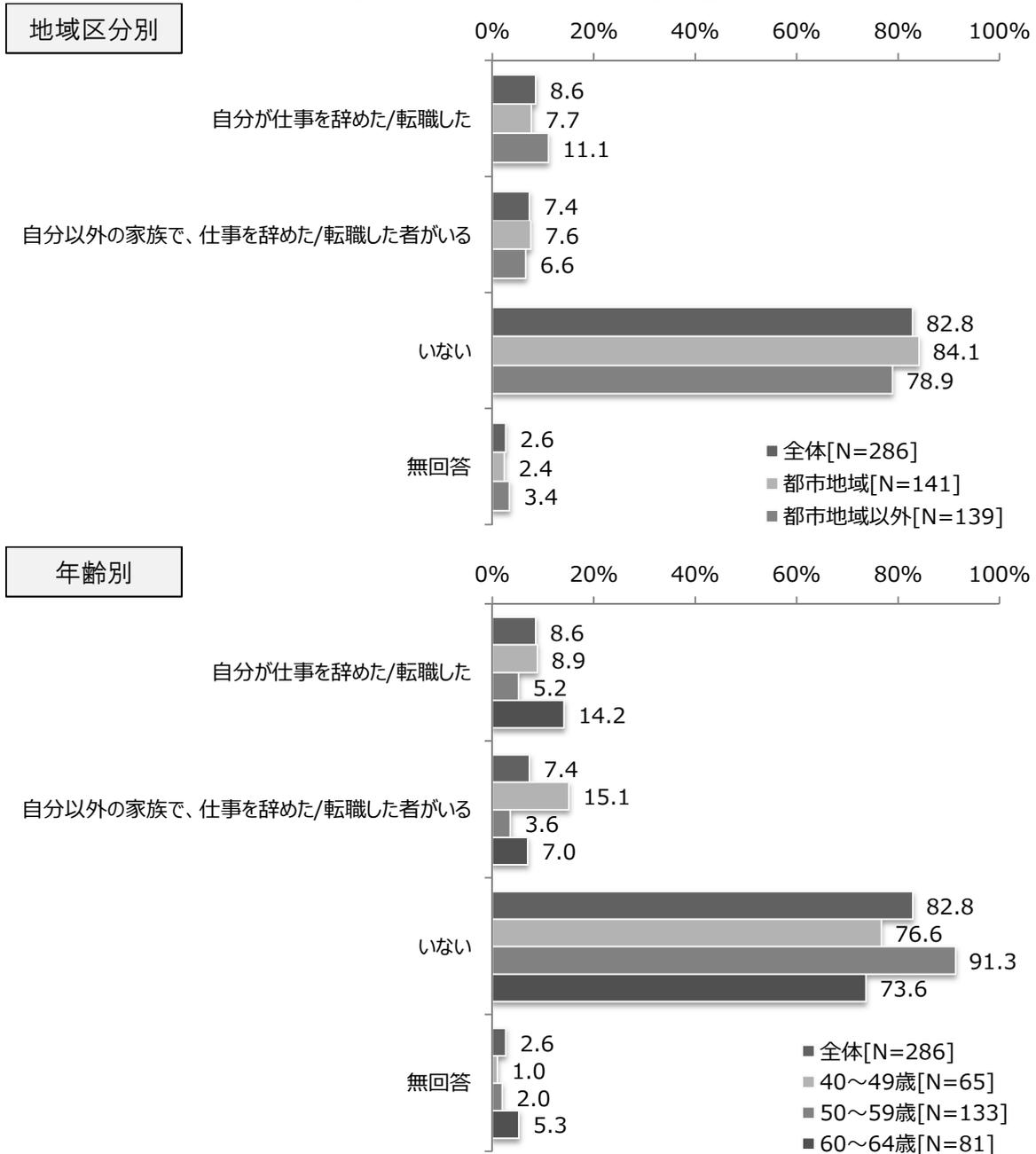
③介護辞職等の状況

(2)ご家族の中で、その方の介護のために仕事を辞めたり転職された方はいますか。(あてはまるものすべてに○)

介護が必要な家族のいる人に、家族の中で介護辞職等をした人がいるかどうかを聞いたところ、「いない」が82.8%となっています。

年齢別で見ると、60～64歳で、「自分が仕事を辞めた/転職した」という人が比較的多く見られます。

図表 28 介護辞職等の状況(複数回答)

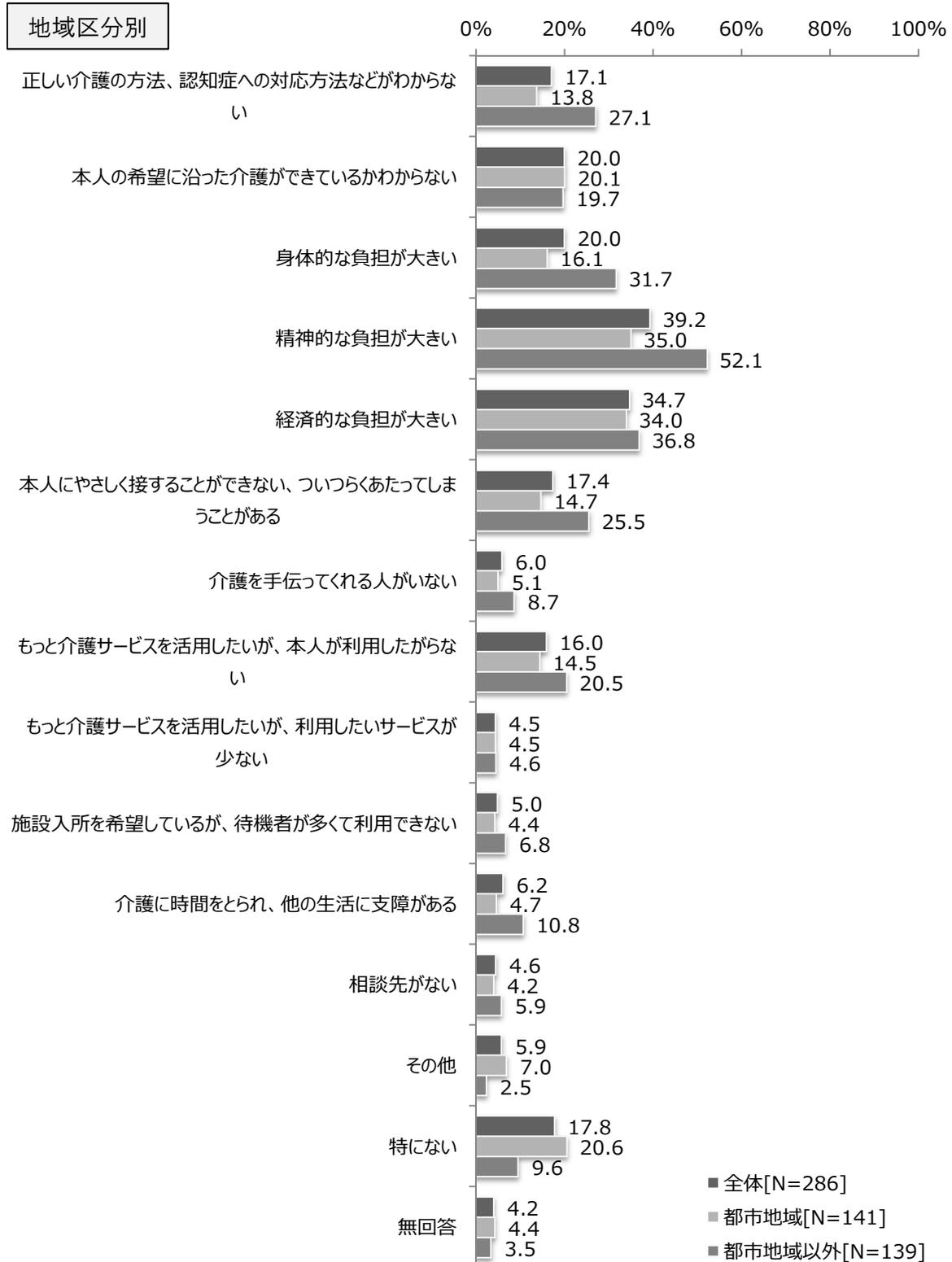


④介護で困っていることなど

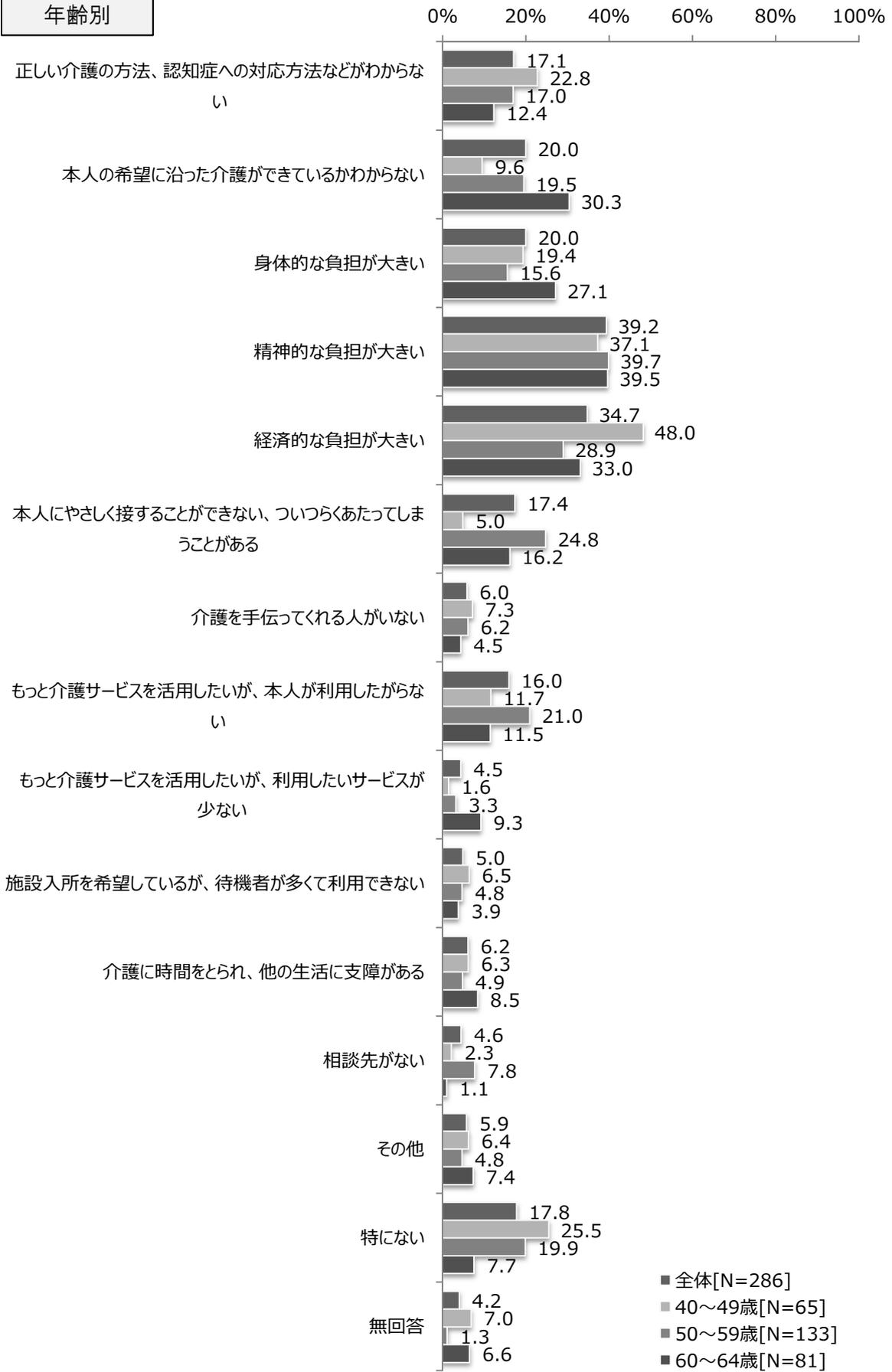
(3)介護で困っていること、感じることなどがありませんでしたらお答えください。(あてはまるものすべてに○)

介護が必要な家族のいる人に、介護で困っていることなどについて聞いたところ、「精神的な負担が大きい」が39.2%と最も多く、次いで、「経済的な負担が大きい」が34.7%となっています。

図表 29 介護で困っていることなど(複数回答)



年齢別

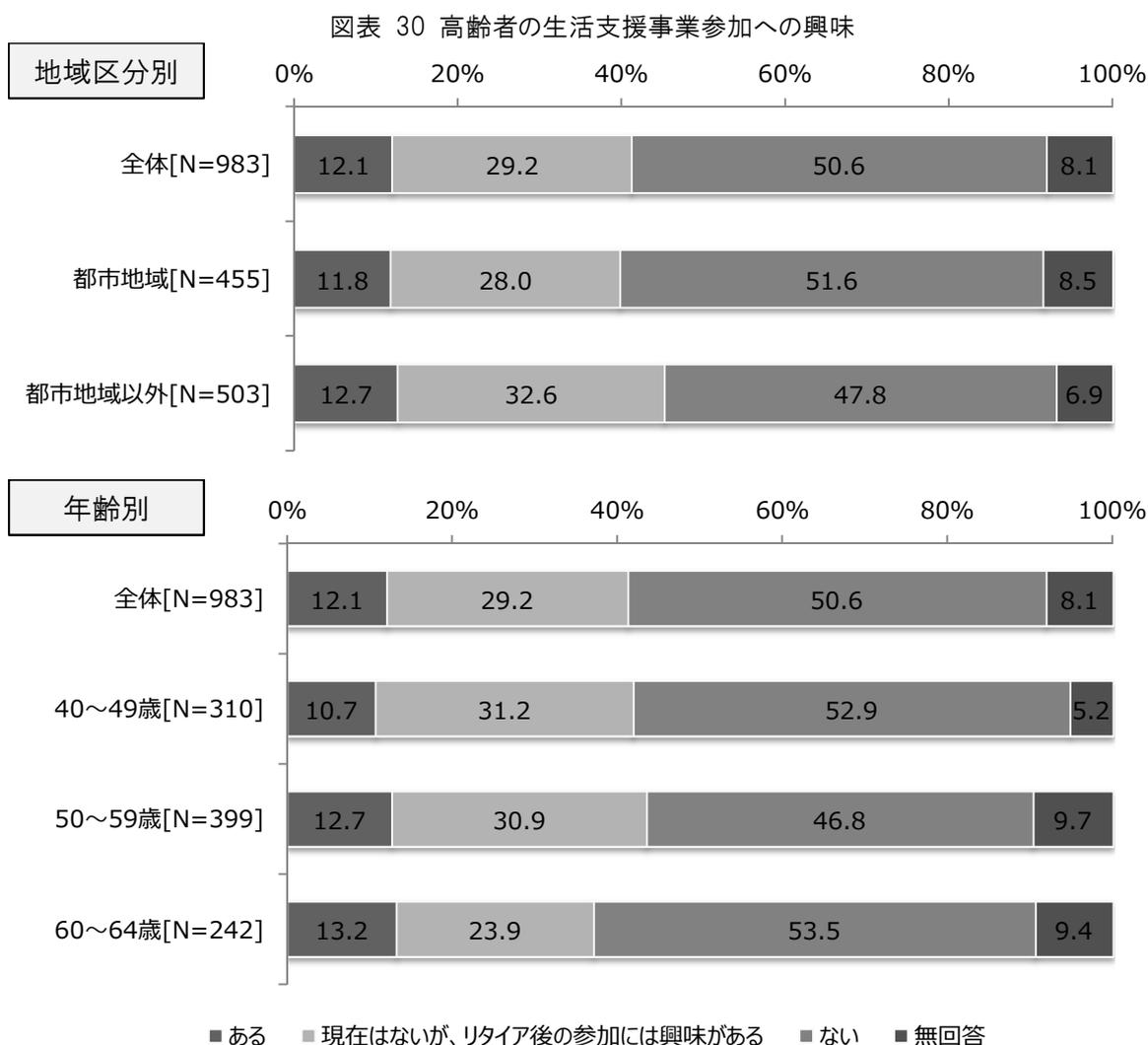


(8) 高齢者の生活支援や介護の仕事について

① 高齢者の生活支援事業参加への興味

問 27 あなたは、地域で、高齢者の生活を支援するための事業が運営されることになった場合、そのような事業への参加に興味はありますか。(あてはまるもの1つに○)

高齢者の生活支援事業に参加することについて興味があるかどうかを聞いたところ、「ない」が50.6%、「現在はないが、リタイア後の参加には興味がある」が29.2%、「ある」が12.1%となっています。

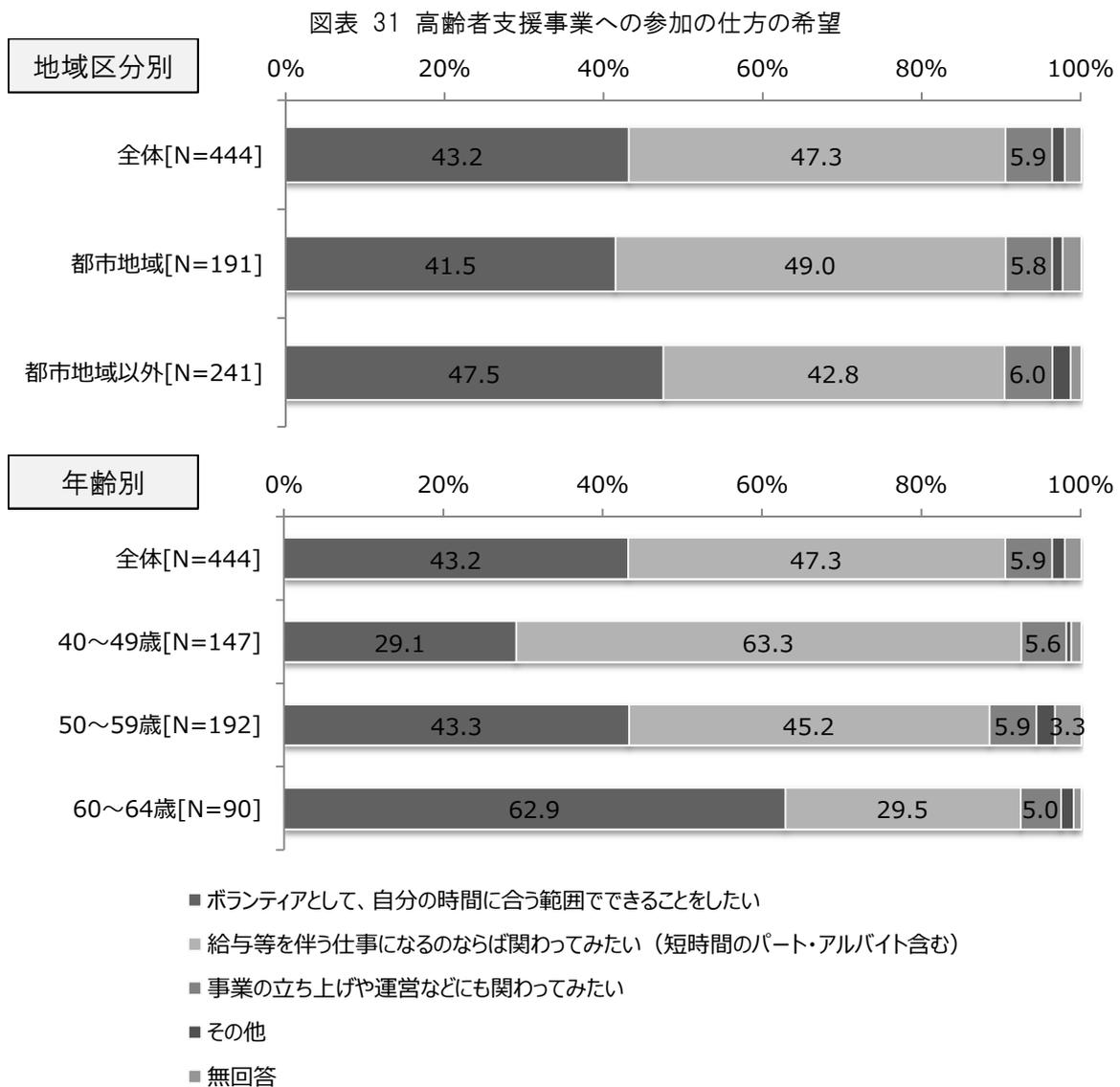


②高齢者支援事業への参加の仕方の希望

問 28 前の問で「1. ある」「2. 現在は無いが、リタイア後の参加には興味がある」と答えた方におたずねします。参加する際には、どのような参加の仕方を希望しますか。(あてはまるもの1つに○)

高齢者支援事業への参加に興味があると回答した人に、その参加の仕方の希望を聞いたところ、「給与等を伴う仕事になるのならば関わってみたい（短時間のパート・アルバイト含む）」が47.3%、「ボランティアとして、自分の時間に合う範囲でできることをしたい」が43.2%となっています。

年齢別で見ると、年齢の高い層では「ボランティアとして、自分の時間に合う範囲でできることをしたい」、若い層では「給与等を伴う仕事になるのならば関わってみたい（短時間のパート・アルバイト含む）」が多くなっています。

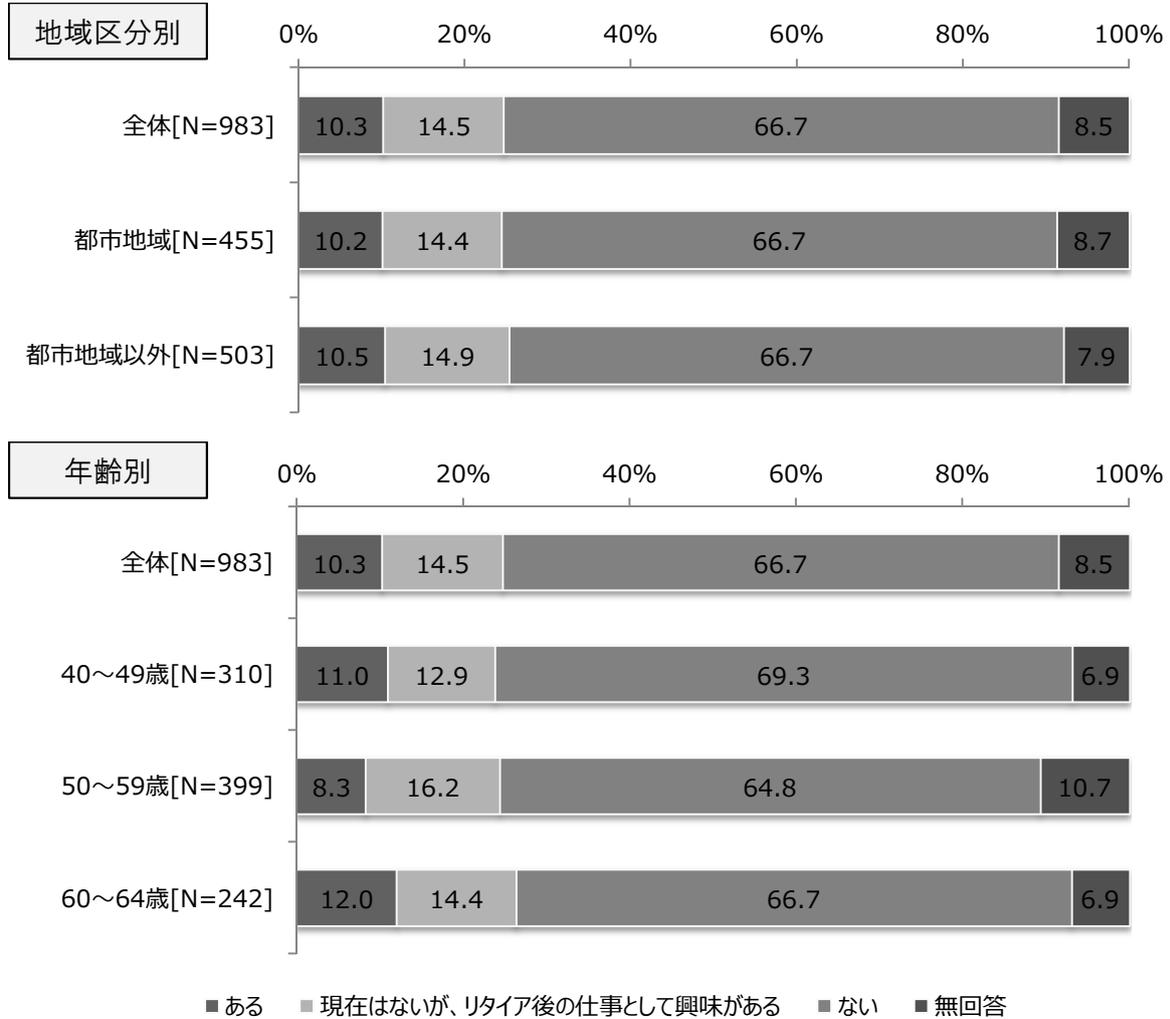


③高齢者施設等での仕事への興味

問 29 あなたは、特別養護老人ホームや老人保健施設など、高齢者の介護やリハビリ等を行う施設で仕事をするについて、興味はありますか。(あてはまるもの1つに○)

高齢者施設等で仕事をするについて、興味があるかどうかを聞いたところ、「ない」が66.7%、「現在はないが、リタイア後の仕事として興味がある」が14.5%、「ある」が10.3%となっています。

図表 32 高齢者施設等での仕事への興味

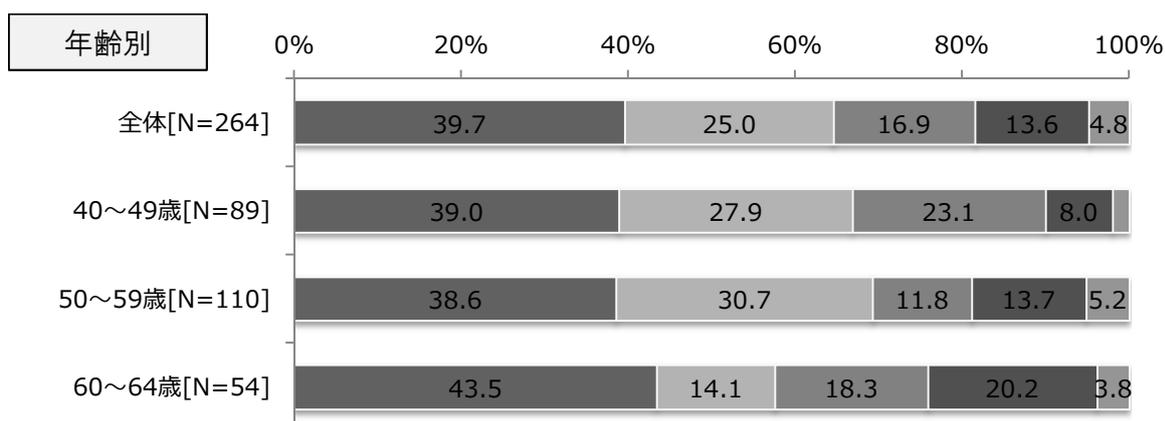
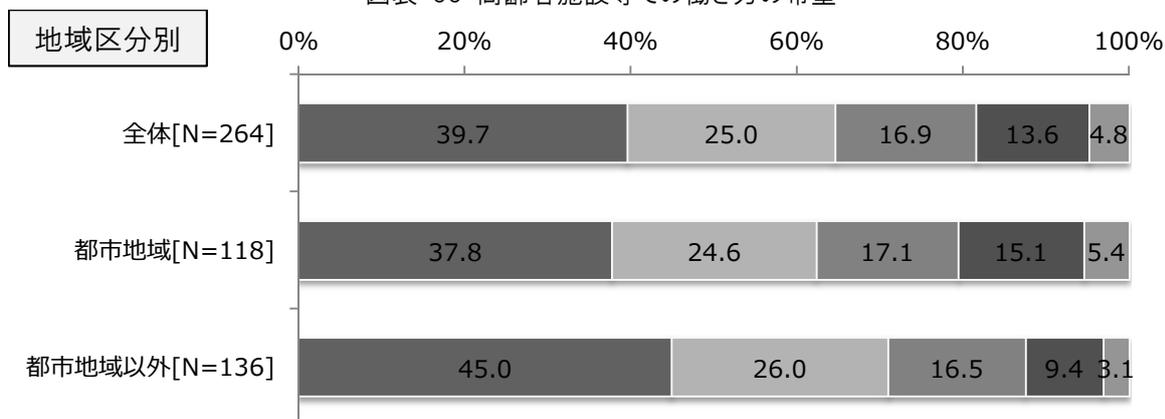


④高齢者施設等での働き方の希望

問 30 前の問で「1. ある」「2. 現在は無いが、リタイア後の仕事として興味がある」と答えた方におたずねします。どのような働き方を希望しますか。(あてはまるもの1つに○)

高齢者施設等で仕事をすることに興味があると回答した人に、その働き方の希望を聞いたところ、「清掃や片付けなど、専門的知識や技術を必要としない仕事」が 39.7%、「「介護助手」など、短期間の研修で専門的知識・技術を取得してから行う仕事」が 25.0%等となっています。

図表 33 高齢者施設等での働き方の希望



- 清掃や片付けなど、専門的知識や技術を必要としない仕事
- 「介護助手」など、短期間の研修で専門的知識・技術を取得してから行う仕事
- 一般的な介護職員が行う仕事
- その他
- 無回答

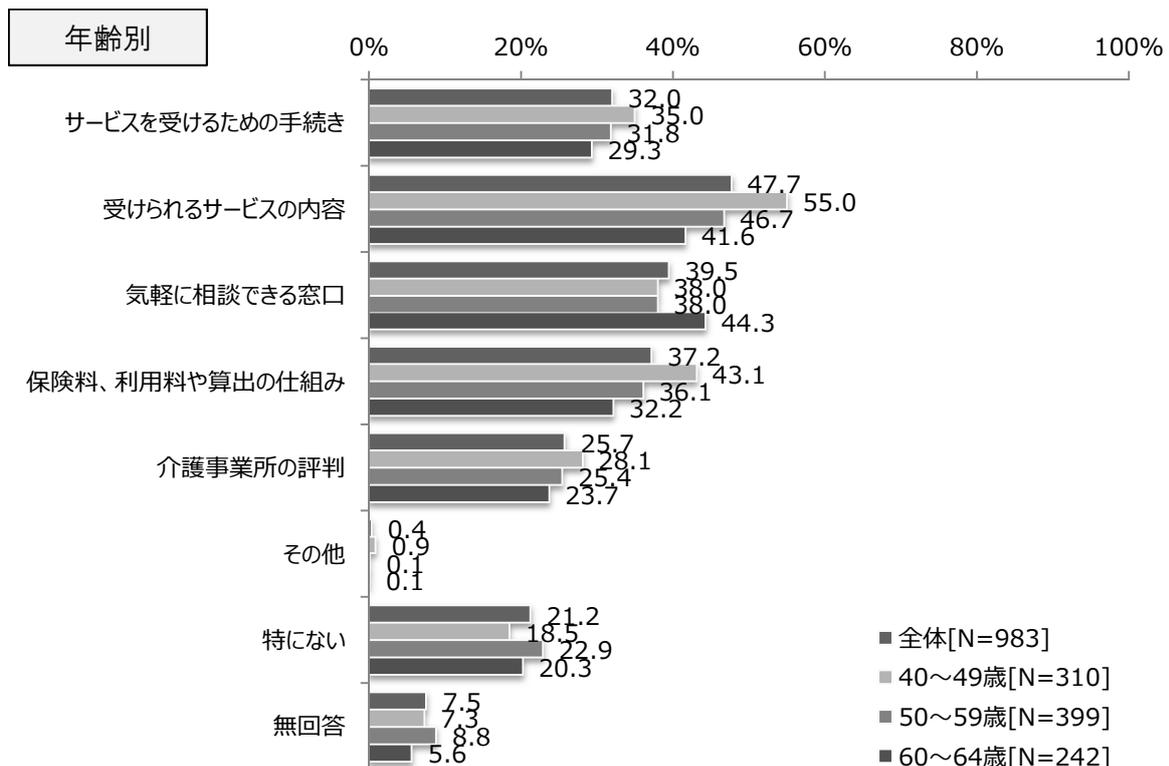
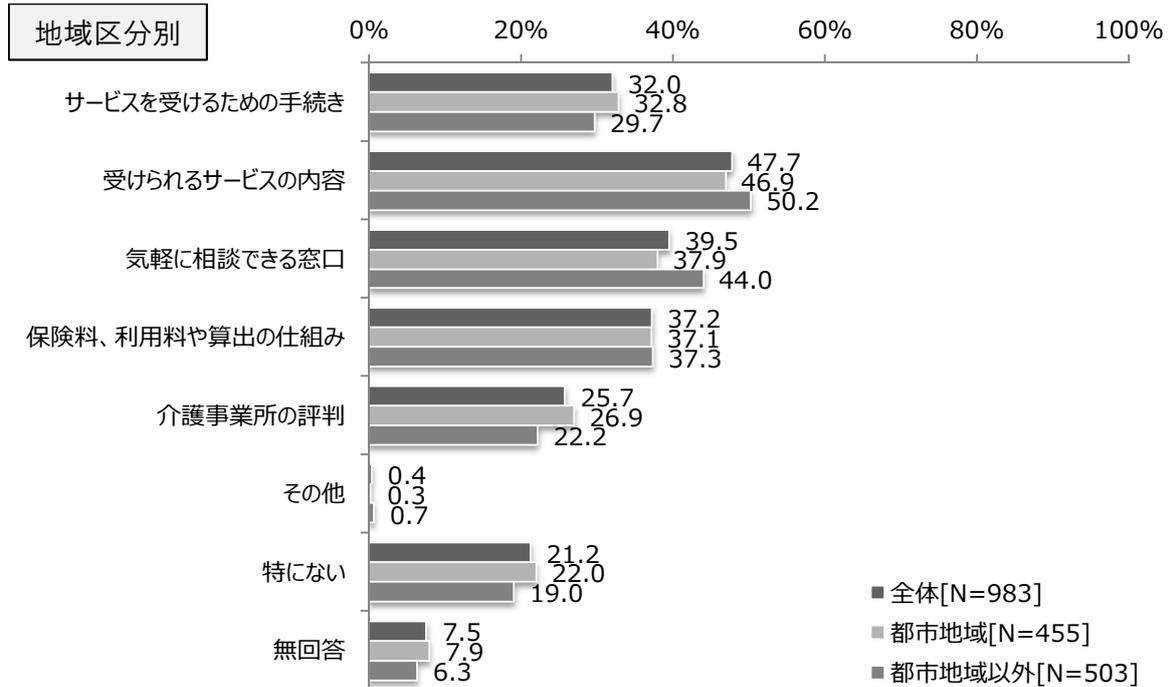
(9) 介護保険制度などについて

①介護保険制度やサービスについて知りたいこと

問 31 介護保険制度やサービスについて、くわしく知りたいことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

介護保険制度やサービスについて知りたいことを聞いたところ、「受けられるサービスの内容」が47.7%と最も多く、次いで、「気軽に相談できる窓口」が39.5%、「保険料、利用料や算出の仕組み」が37.2%等となっています。

図表 34 介護保険制度やサービスについて知りたいこと(複数回答)



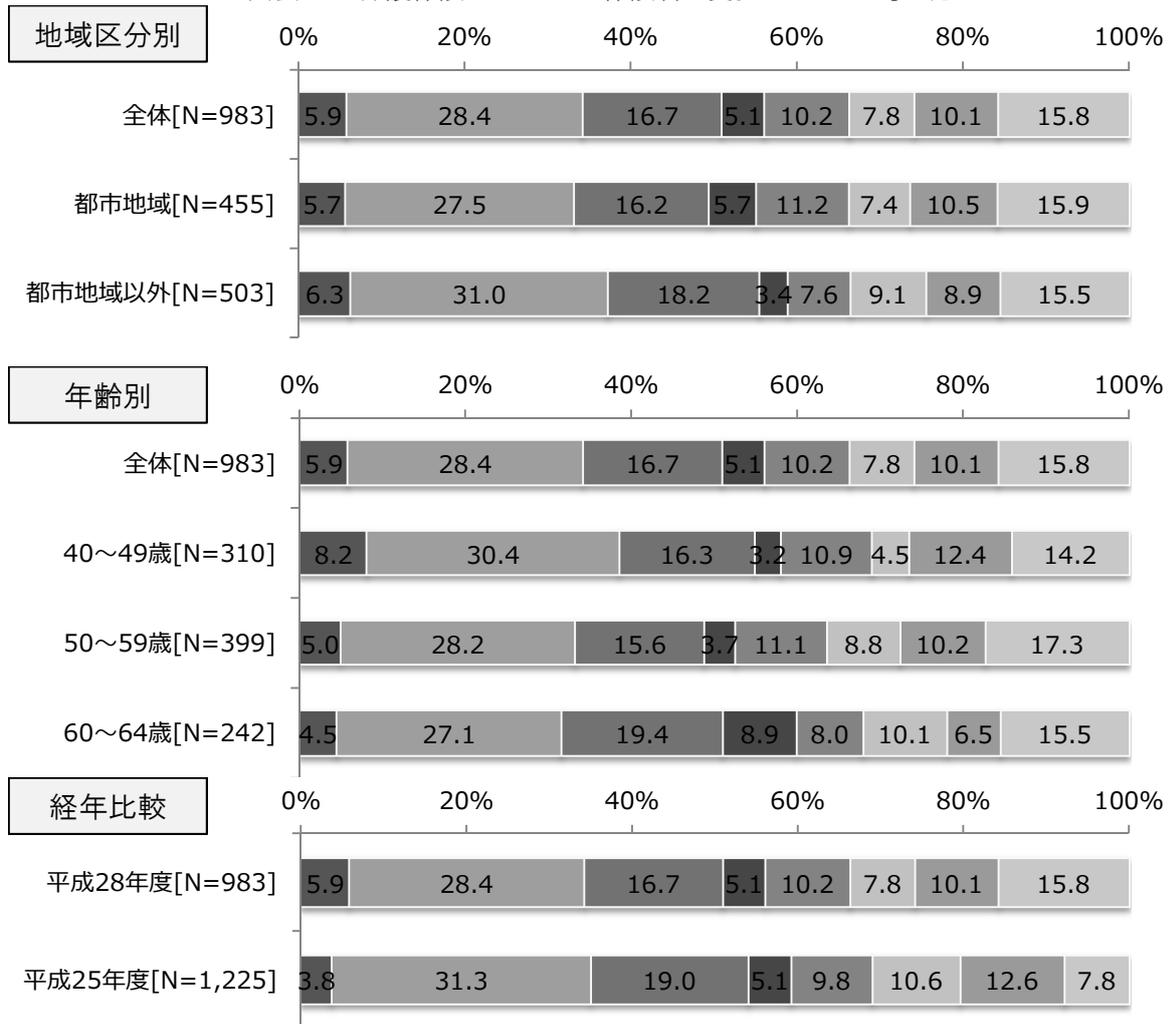
②介護保険のサービスと保険料の負担についての考え方

問 32 介護保険制度では、40～64 歳の方の保険料と、65 歳以上の方の保険料は異なり、65 歳以上になると各市町村で決めた保険料になります。（県平均は月額約 6,200 円です）

今後、さらに高齢化が進み、介護保険制度を支えるための負担が増えていくことが予想されます。あなたは、介護保険のサービスと保険料の負担について、どのように考えますか。（あてはまるもの1つに○）

介護保険のサービスと保険料の負担について、考え方を聞いたところ、「さらに高齢化が進むのだから、現状のサービスを維持するために、多少介護保険料が上がっても仕方がない」が 28.4%と多く、次いで、「さらに高齢化が進んでも、介護保険料は現状程度とするべきなので、多少サービスが制限されても仕方がない」が 16.7%となっています。

図表 35 介護保険のサービスと保険料の負担についての考え方



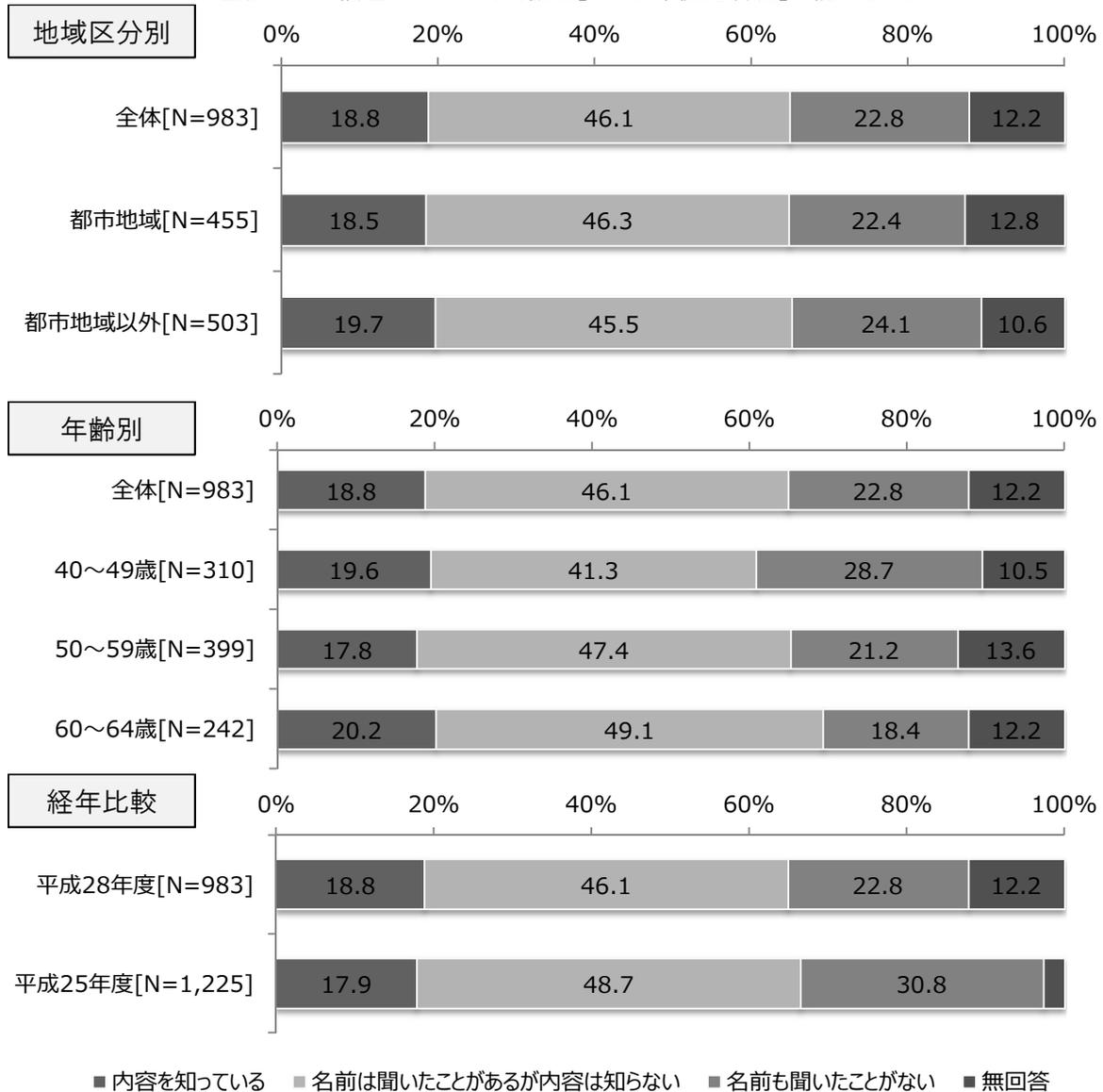
- 今の介護保険のサービスは不十分なので、もっと介護保険料を上げてよいからサービスを充実するべき
- さらに高齢化が進むのだから、現状のサービスを維持するために、多少介護保険料が上がっても仕方がない
- さらに高齢化が進んでも、介護保険料は現状程度とするべきなので、多少サービスが制限されても仕方がない
- サービスの内容がもっと低下したり制限されてもよいので、もう少し介護保険料を安くするべき
- 利用者の負担割合（現状1～2割負担）を上げて、サービスの内容を維持すべき
- 利用者の負担割合（現状1～2割負担）を上げて、介護保険料を下げるべき
- その他
- 無回答

③ 「福祉サービス利用援助」や「成年後見制度」の認知状況

問 33 あなたは、判断能力が十分でない高齢者等を対象にした「福祉サービス利用援助」や「成年後見制度」があることを知っていますか。(あてはまるもの1つに○)

「福祉サービス利用援助」や「成年後見制度」について知っているかどうかを聞いたところ、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が46.1%、「名前も聞いたことがない」が22.8%、「内容を知っている」が18.8%となっています。

図表 36 「福祉サービス利用援助」や「成年後見制度」の認知状況



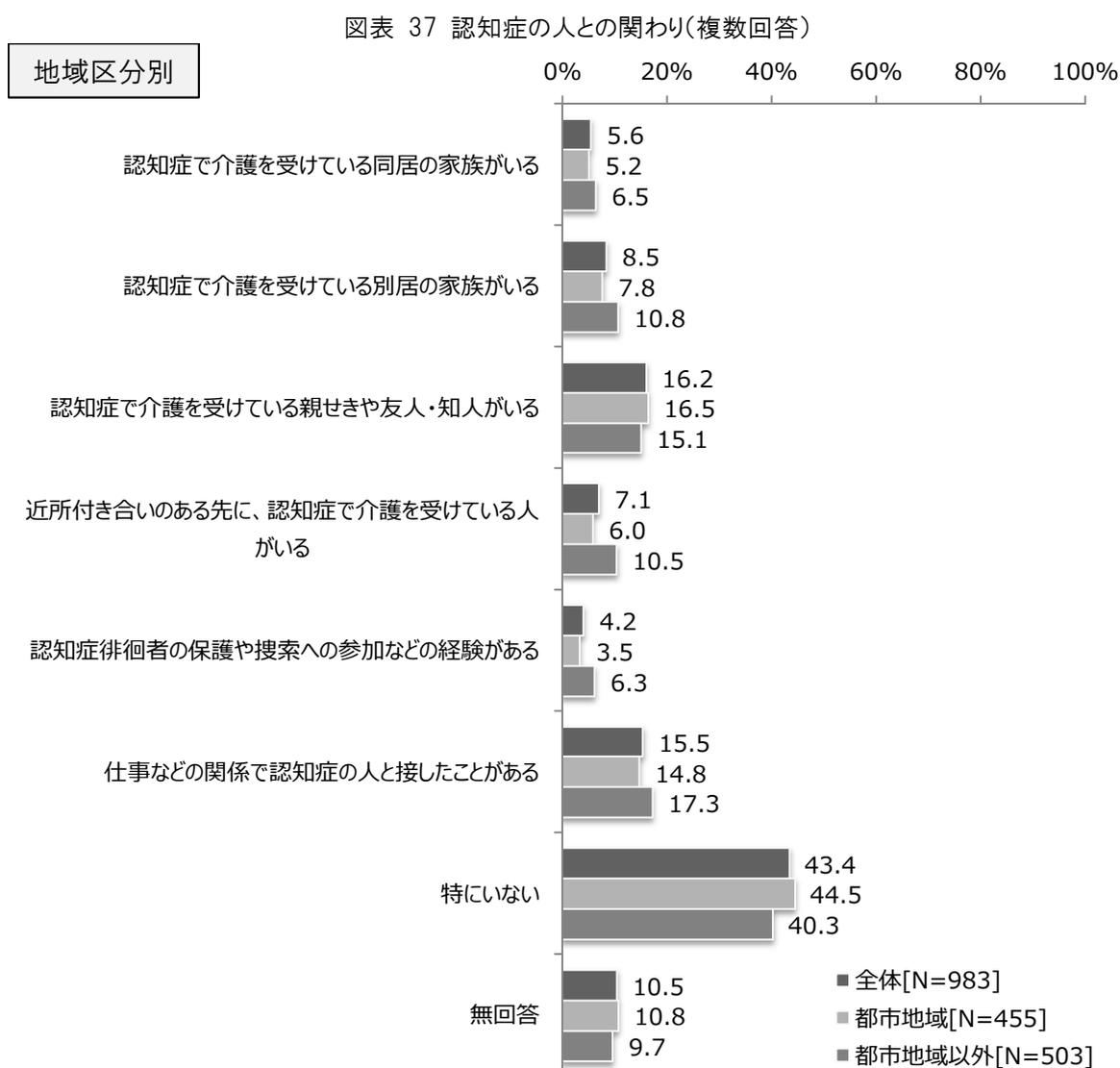
(10) 認知症について

①認知症の人との関わり

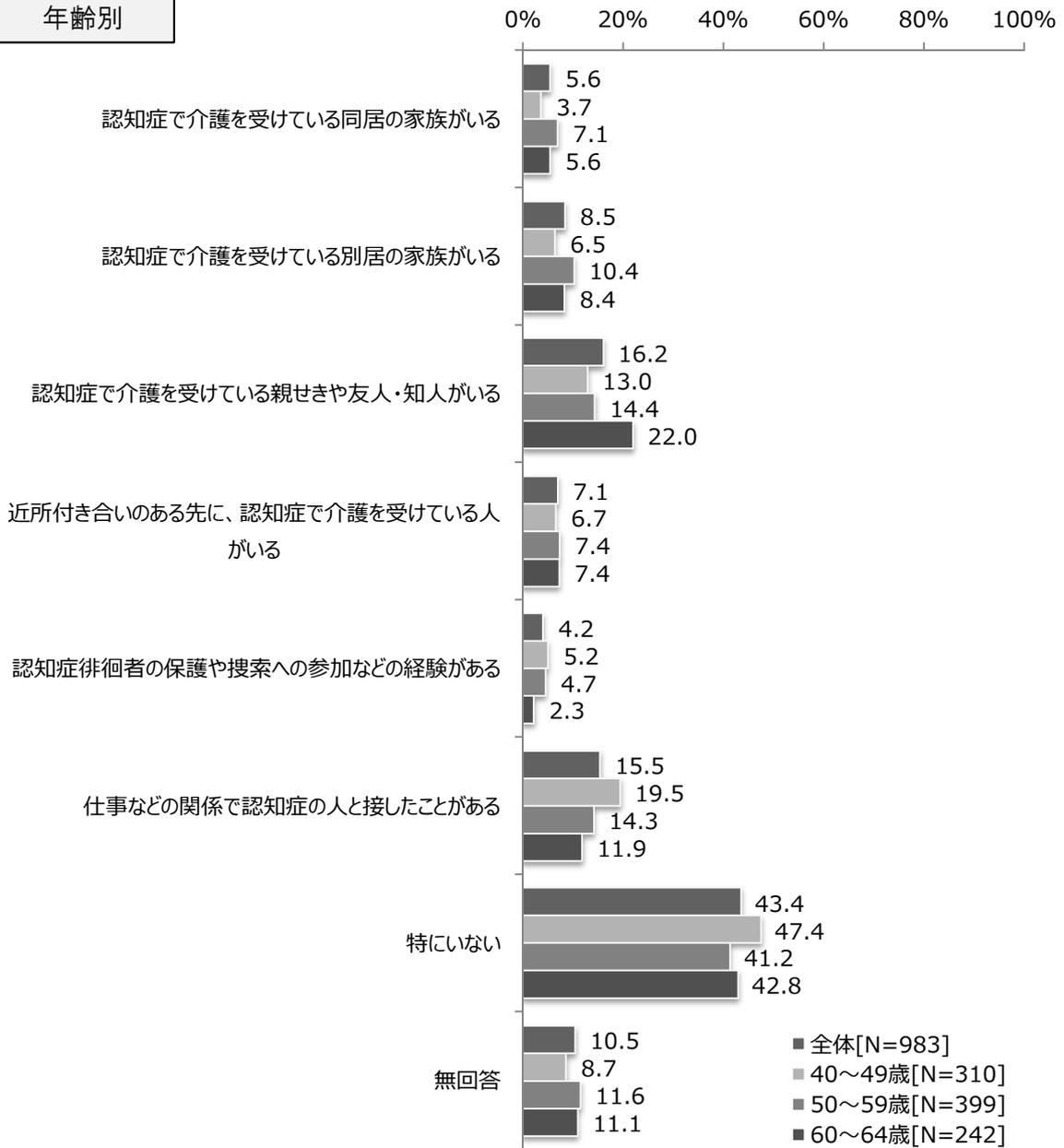
問 34 高齢化が進む中で、認知症になる高齢者も増えており、今後も認知症高齢者はさらに増加していくことが予想されます。あなたの身の回りで、認知症の高齢者とどのような関わりがありますか。(あてはまるものすべてに○)

認知症の人との関わりの有無を聞いたところ、「特にいない」が43.4%となっています。関わりのある人では、「認知症で介護を受けている親せきや友人・知人がいる」が16.2%、「仕事などの関係で認知症の人と接したことがある」が15.5%等となっています。

年齢別で見ると、「認知症で介護を受けている親せきや友人・知人がいる」という人は、年齢層が上がるにつれて増えています。



年齢別

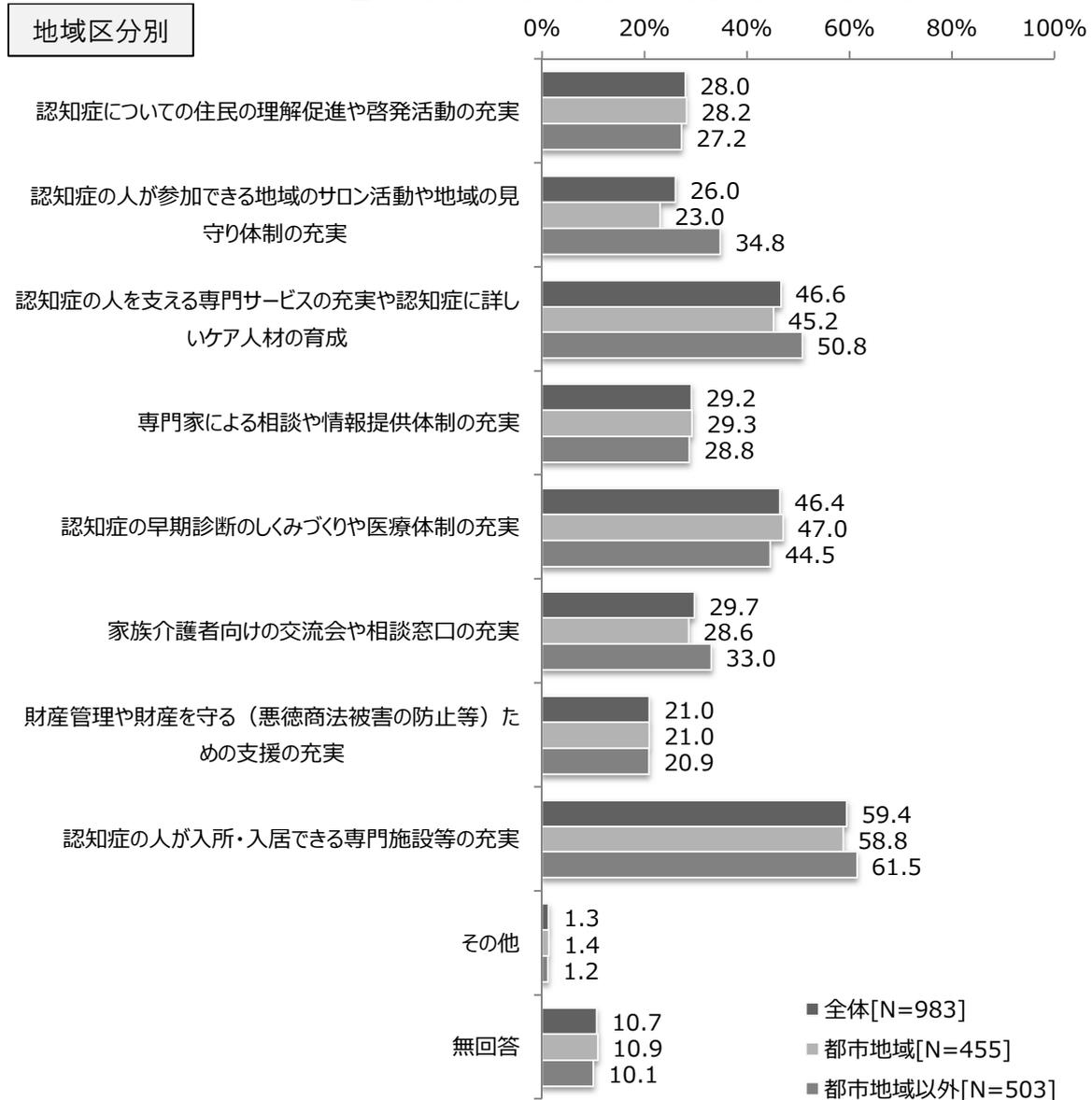


②認知症の高齢者や家族介護者などに必要な支援

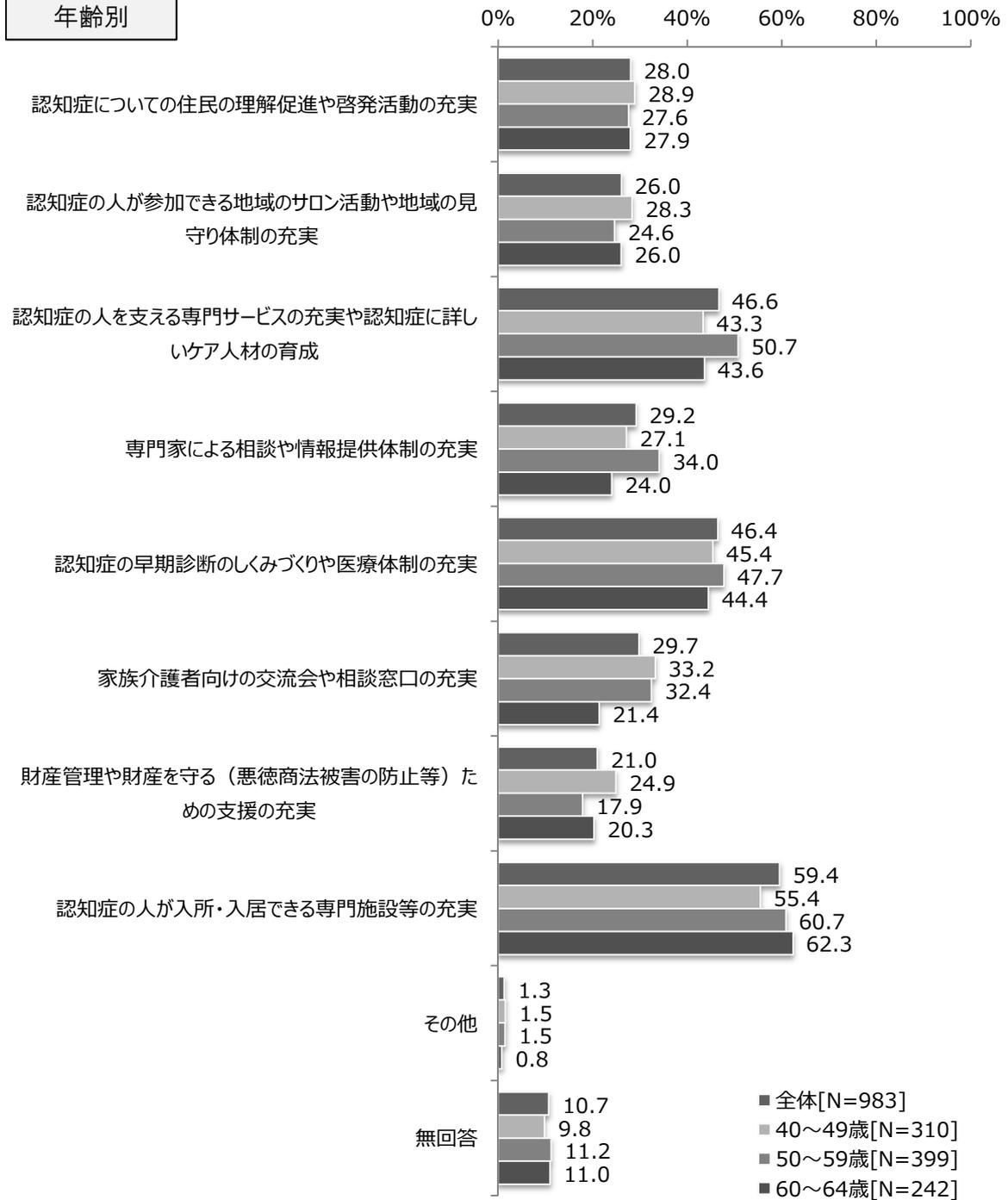
問 35 認知症の高齢者や家族介護者などに、どのような支援が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

認知症の高齢者や家族介護者などに必要な支援について聞いたところ、「認知症の人が入所・入居できる専門施設等の充実」が 59.4%と最も多く、次いで、「認知症の人を支える専門サービスの充実や認知症に詳しいケア人材の育成」が 46.6%、「認知症の早期診断のしくみづくりや医療体制の充実」が 46.4%と続いています。

図表 38 認知症の高齢者や家族介護者などに必要な支援(複数回答)



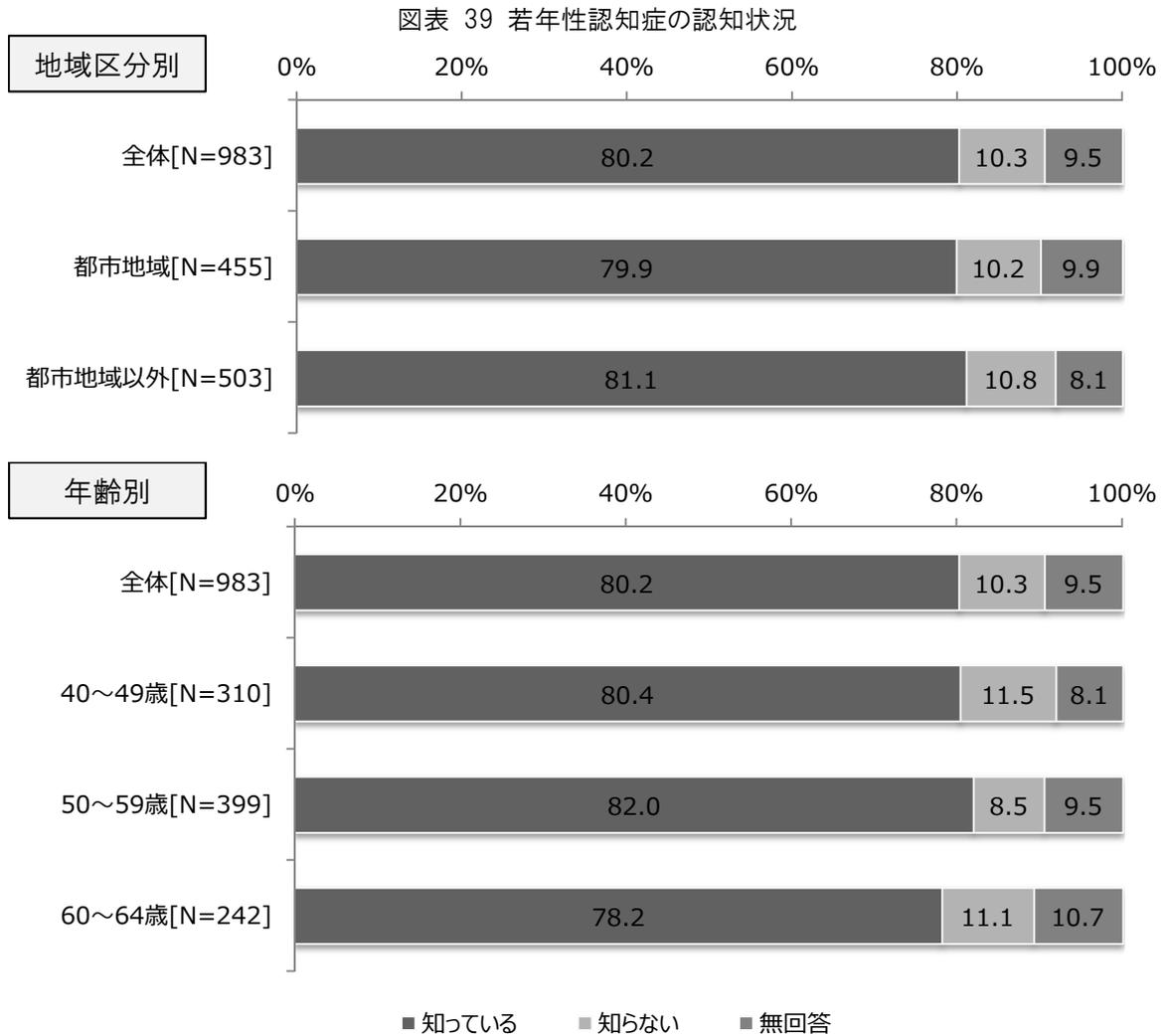
年齢別



③若年性認知症の認知状況

問 36 若年性認知症についてお聞きします。あなたは、「若年性認知症」(65歳未満で発症した認知症のこと)という言葉をご存知でしたか。(いずれか1つに○)

若年性認知症について知っているかどうかを聞いたところ、「知っている」が80.2%、「知らない」が10.3%となっています。

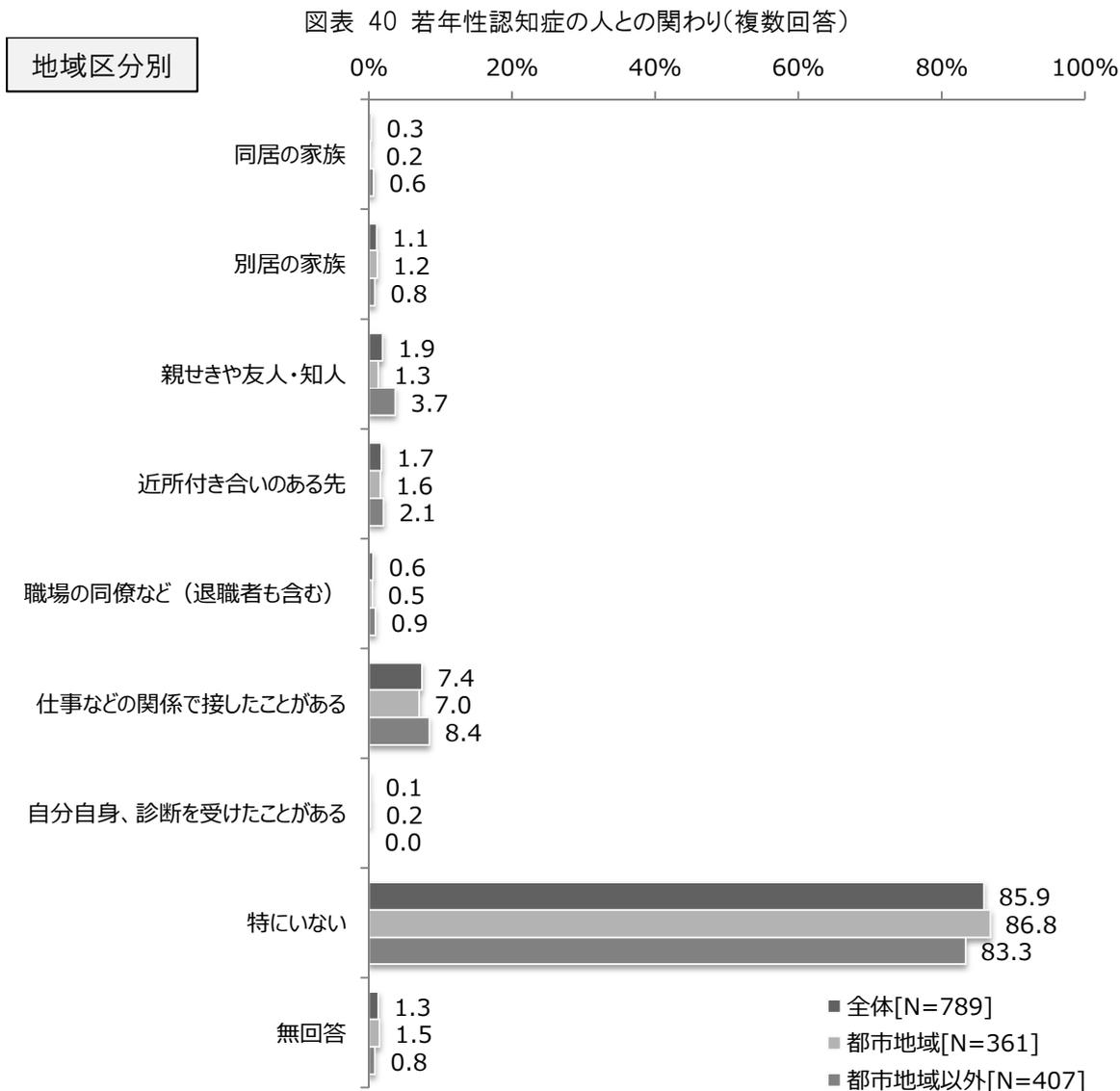


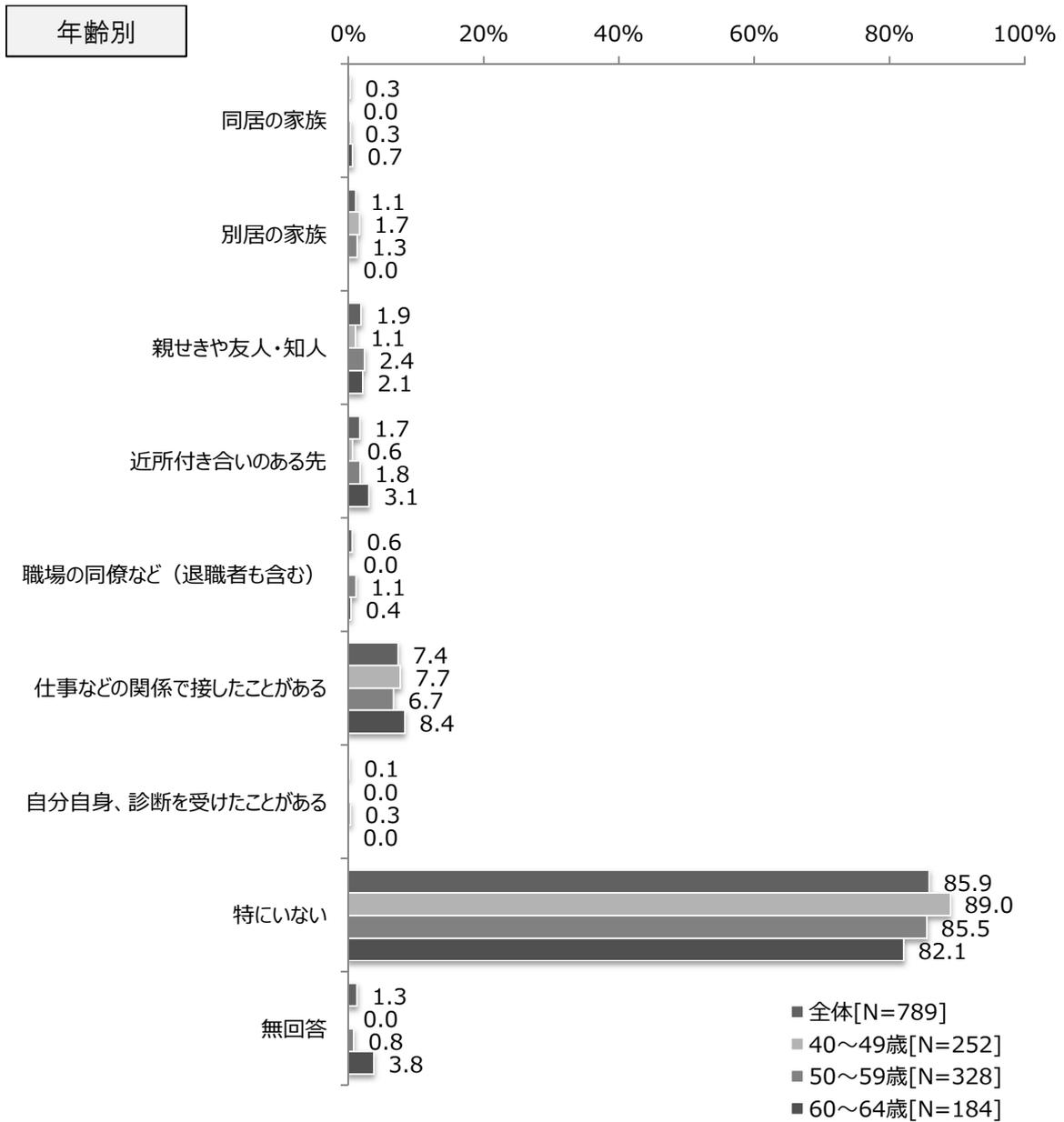
④若年性認知症の人との関わり

問 37 前の問で「1. 知っている」と答えた方におたずねします。

(1)あなたの身の回りで、若年性認知症で介護を受けている人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

若年性認知症を知っている人に、若年性認知症の人との関わりについて聞いたところ、「特にいない」が85.9%と多くなっています。関わりのある人では、「仕事などの関係で接したことがある」が7.4%等となっています。



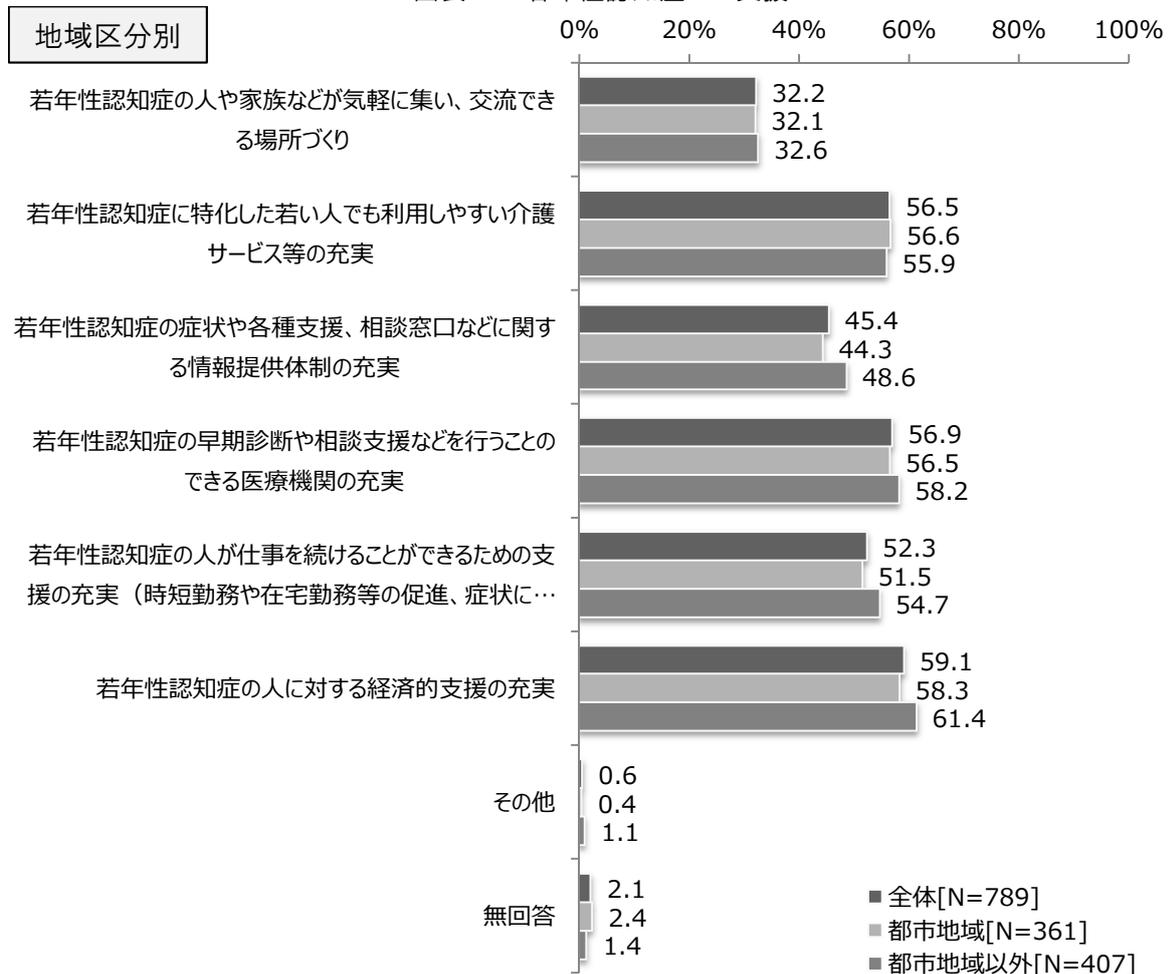


⑤若年性認知症への支援

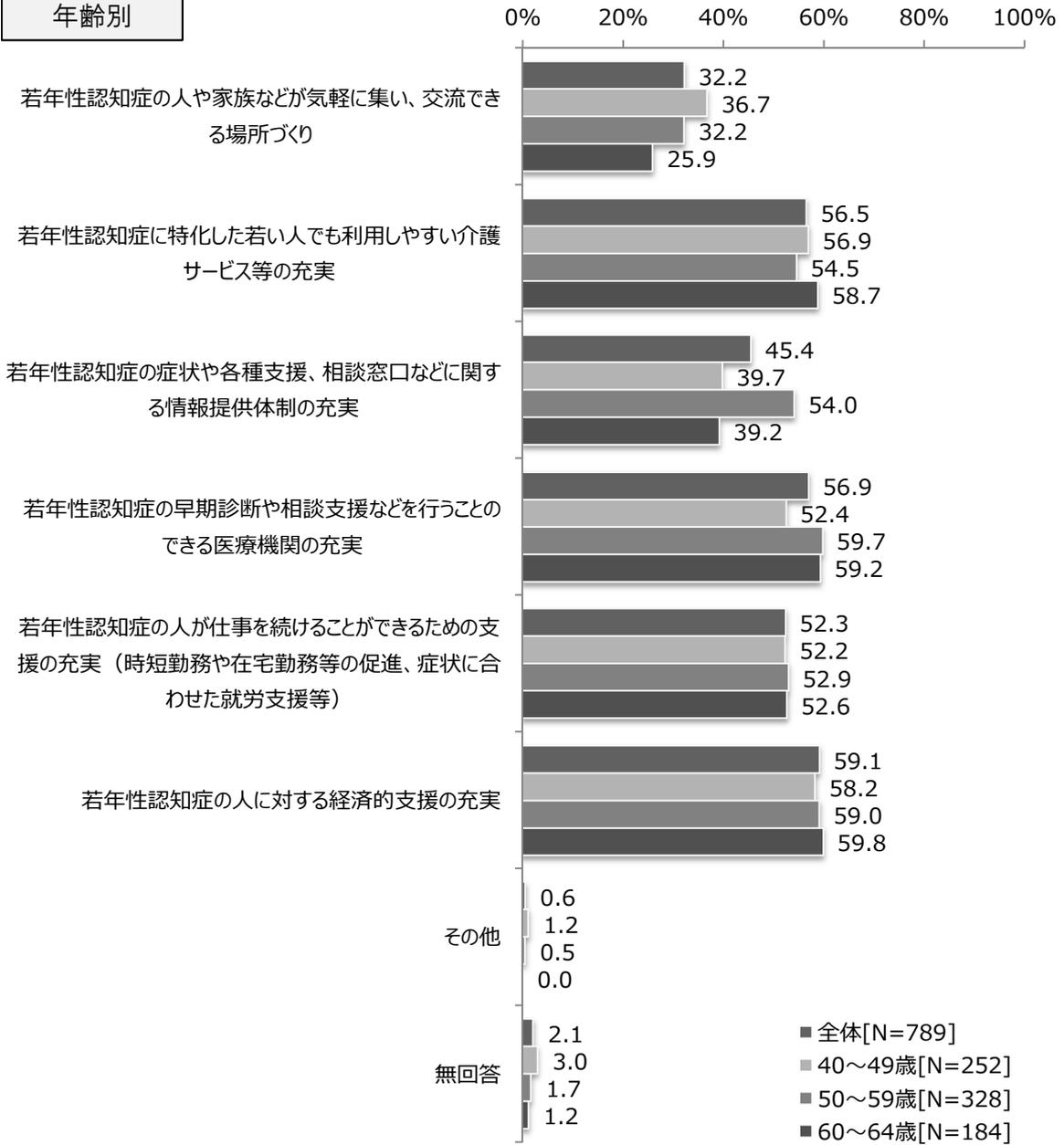
(2)若年性認知症は、現役世代で認知症を発症するため、本人の仕事に支障が生じて経済的に困難な状況になる、家族への影響が大きい、高齢者でない人に適したサービスが少ないなど、高齢者の認知症とは異なるいろいろな問題があります。あなたは、若年性認知症の人に、どのような支援が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

若年性認知症への支援について必要と思うことを聞いたところ、「若年性認知症の人に対する経済的支援の充実」が59.1%と最も多く、次いで、「若年性認知症の早期診断や相談支援などを行うことのできる医療機関の充実」が56.9%、「若年性認知症に特化した若い人でも利用しやすい介護サービス等の充実」が56.5%、「若年性認知症の人が仕事を続けることができるための支援の充実（時短勤務や在宅勤務等の促進、症状に合わせた就労支援等）」が52.3%と続いています。

図表 41 若年性認知症への支援



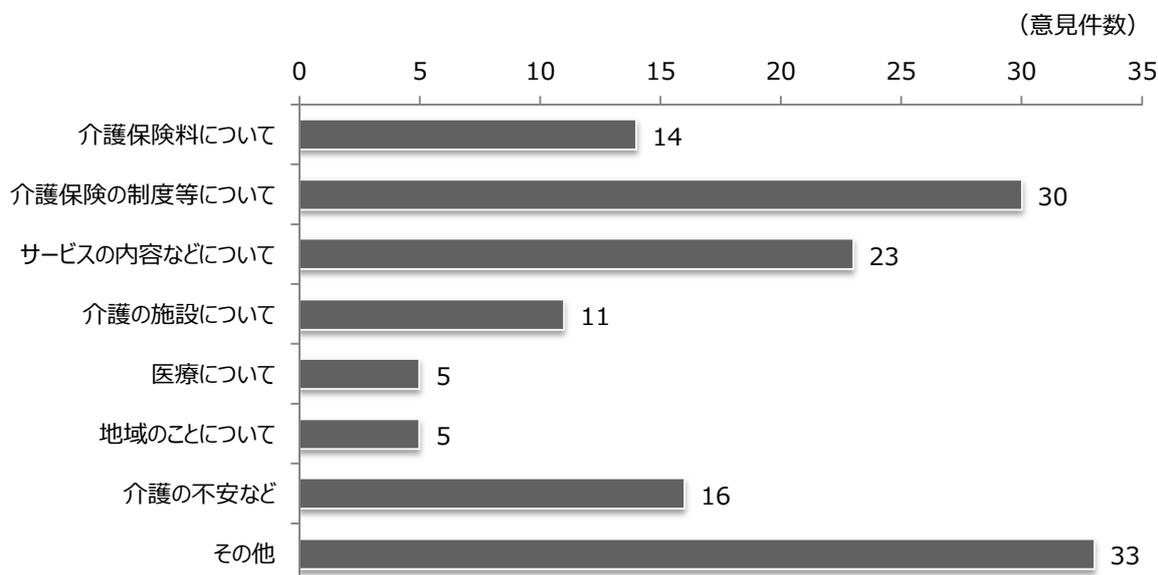
年齢別



(11) 自由意見

自由意見は、137件の記入がありました。意見内容の内訳は次のようになっています。介護保険の制度やサービス等についての意見が多くなっています。

図表 42 自由意見の意見内容の内訳



【主な意見】

(介護保険料について)

- ・介護保険料が高いなと感じています。
- ・将来、年金で生活できるのか不安があり、保険料が増えるのは困る。
- ・介護保険の値上げはいいと思うが、本当に当事者のためになるように、安心して老後をくらすようにしてほしい。
- ・65歳からの介護保険料が高いので困っています。

(介護保険の制度等について)

- ・地域によって格差があり、そのことをもっと考えてもらいたい。
- ・介護保険などの言葉はよく聞きますが、いざ家族がそうなった場合、どこに話をすればいいのか、わからないです。
- ・親のことを思うと、私もいろいろと学んでおかなければと思っています。特に介護保険制度を詳しく知りたいなと思っています。機会があれば、勉強会など開いていただけたらと思います。
- ・安くてすぐに入所できる老人ホームの数が増えるとよいと思います。子どもが介護のために仕事を辞めなければいけなくなったということもよく聞くので、介護する人の負担が減る支援が必要です。
- ・介護離職者が多い理由をよく考え、改善すべき点がわかればよいと思います。現在の社会のしくみとして、働きながら親の介護ができるようなシステムにしてほしいです。

(サービスの内容などについて)

- ・サービスの地域格差が不安です。都市では受けられるサービスが山間部では受けられない、受けるこ

とができて遠くまで行かなくてはならないということも将来あるのではと思います。

- ・グループホームの増設、地域にスーパー、医療、集い場、相談所等の確保、24時間対応、安心移動システムなどのシステムづくりを進めてほしいです。
- ・高齢者ドライバーの負担を減らすために、寄り合いバスなど公共機関の充実を願います。和歌山県として高齢者サービスの充実を期待します。
- ・高齢者の一人暮らしの方には、さまざまなサービスのことを知らない人も多いのではないかと思います。家庭訪問や聞き取り調査、巡回などで手助け、援助していただきたいです。

(介護の施設について)

- ・理想を言えば、介護が必要になったとき、すべての人が希望する施設にすぐ入居できたり、サービスを受けられるようになるのが望ましい。
- ・現在、親を在宅介護していますが、やはり在宅は家族の負担が大きいので、施設を増設していただけたらと思います。自分も年老いたらどのような判断をするのかわかりませんが、今、現在の意思では、介護が必要となった場合は、施設や病院で過ごしたいと思います。ただ、経済的な面がとても不安です。

(介護の不安など)

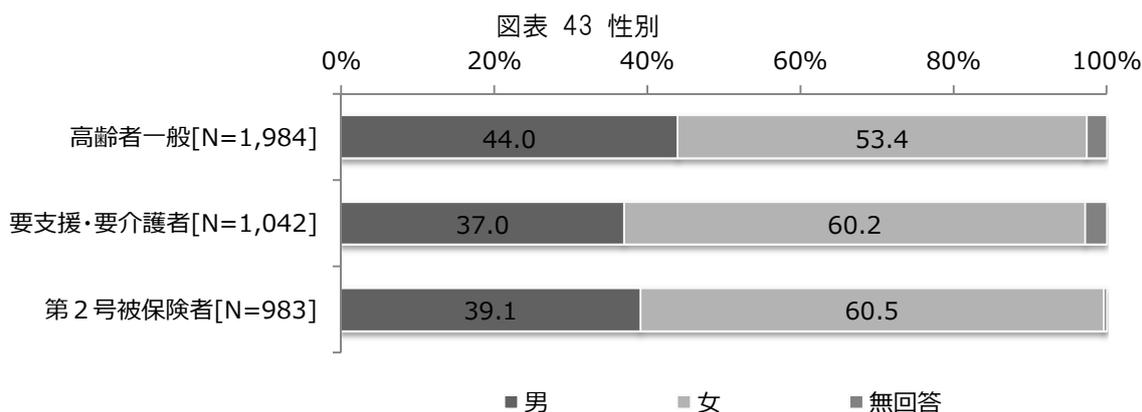
- ・介護は自分自身がその当事者にならないと家族の気持ちや不安はまったくわかりません。そんなときにいろいろと助言してもらえたり、アドバイスをもらえれば、とても助かります。
- ・若い人も将来の不安を持つことなく生活でき、高齢者の人々が安心して生活できるようにしてほしい。
- ・家族が介護するには限界があると思うので、介護する側が共倒れにならないように、いろいろ相談、解決策があればいいと思います。
- ・高齢者が高齢者の世話をしている事情をよく聞きますが、みている側が疲れないのか身体が心配になります。

3. 調査間の比較

(1) 回答者の属性

①性別

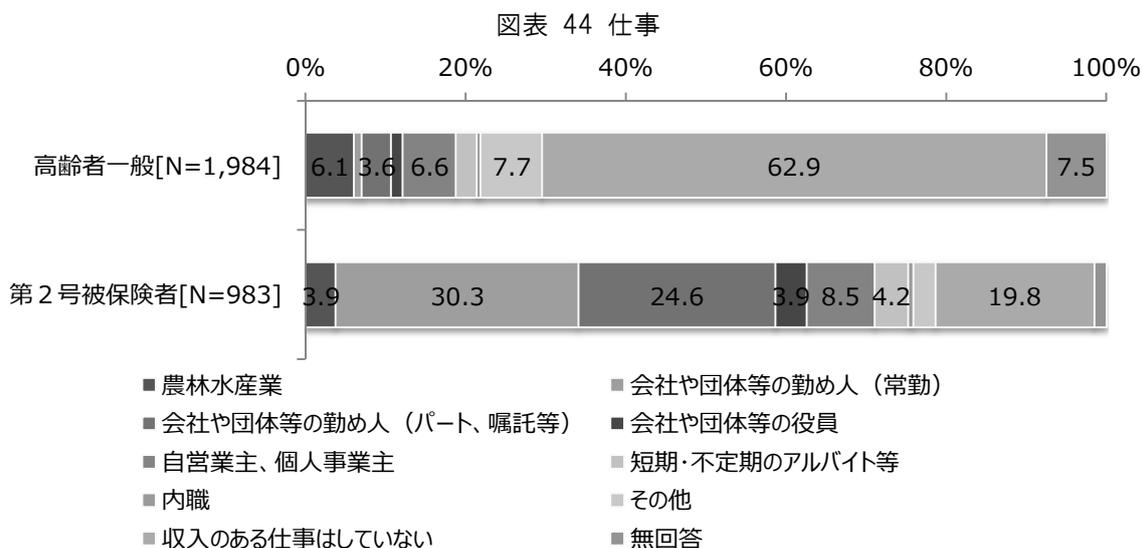
性別は、高齢者一般で「女」が53.4%、「男」が44.0%、要支援・要介護者で「女」が60.2%、「男」が37.0%、第2号被保険者で「女」が60.5%、「男」が39.1%となっています。いずれの調査も女性の比率が高くなっています。



②仕事

仕事は、第2号被保険者では、「会社や団体等の勤め人（常勤）」が30.3%と最も高く、次いで、「会社や団体等の勤め人（パート、嘱託等）」が24.6%「収入のある仕事はしていない」が19.8%となっています。

高齢者一般では「収入のある仕事はしていない」が62.9%となっており、仕事をしている人では、「自営業主、個人事業主」が6.6%、「農林水産業」が6.1%等となっています。「農林水産業」は第2号被保険者より高齢者一般で高い割合となっています。

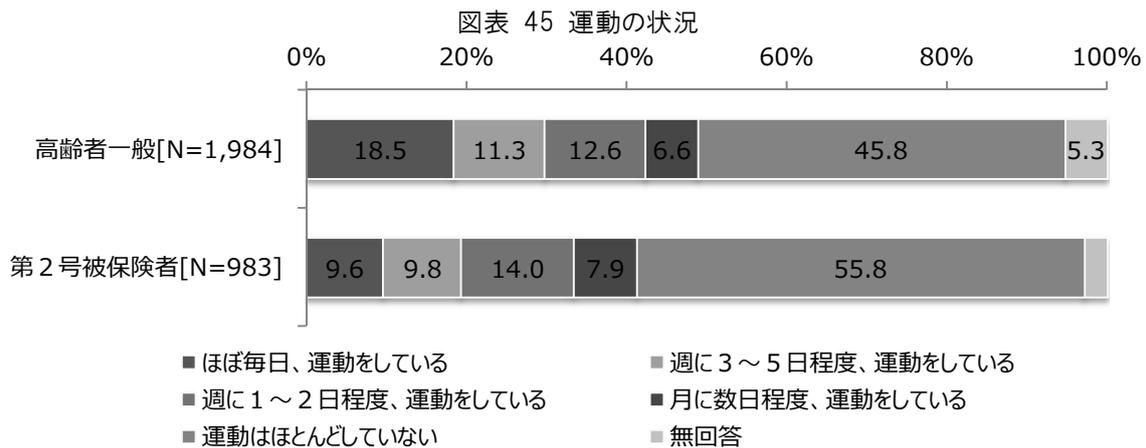


(2) 健康について

①運動の状況

運動の状況は、高齢者一般では、「運動はほとんどしていない」が 45.8%である一方、「ほぼ毎日、運動をしている」も 18.5%となっています。

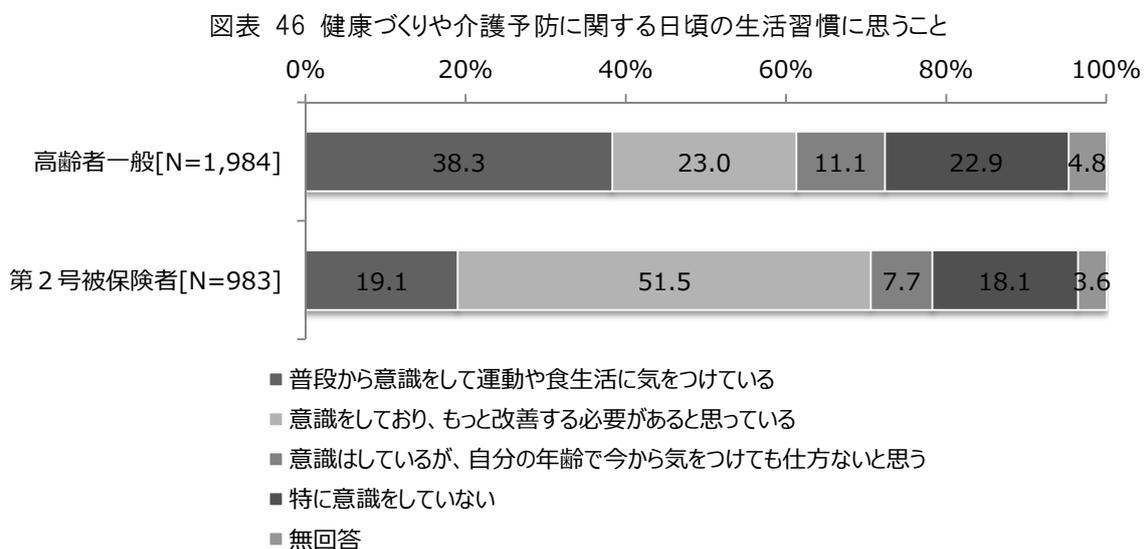
第2号被保険者では、「運動はほとんどしていない」が 55.8%を占め、次いで、「週に1～2日程度、運動をしている」が 12.6%となっています。高齢者に比べて、第2号被保険者は運動をしていない人が多くなっています。



②健康づくりや介護予防に関する日頃の生活習慣

健康づくりや介護予防に関し、日頃の生活習慣について聞いたところ、高齢者一般では、「普段から意識をして運動や食生活に気をつけている」が 38.3%と最も多くなっており、次いで、「意識をしており、もっと改善する必要があると思っている」が 23.0%となっています。

第2号被保険者では、「意識をしており、もっと改善する必要があると思っている」が 51.5%と半数以上を占め、次いで、「普段から意識をして運動や食生活に気をつけている」が 19.1%となっています。高齢者に比べて、第2号被保険者は意識をしている人は多いですが、普段から気をつけている人は少ない傾向が見られます。

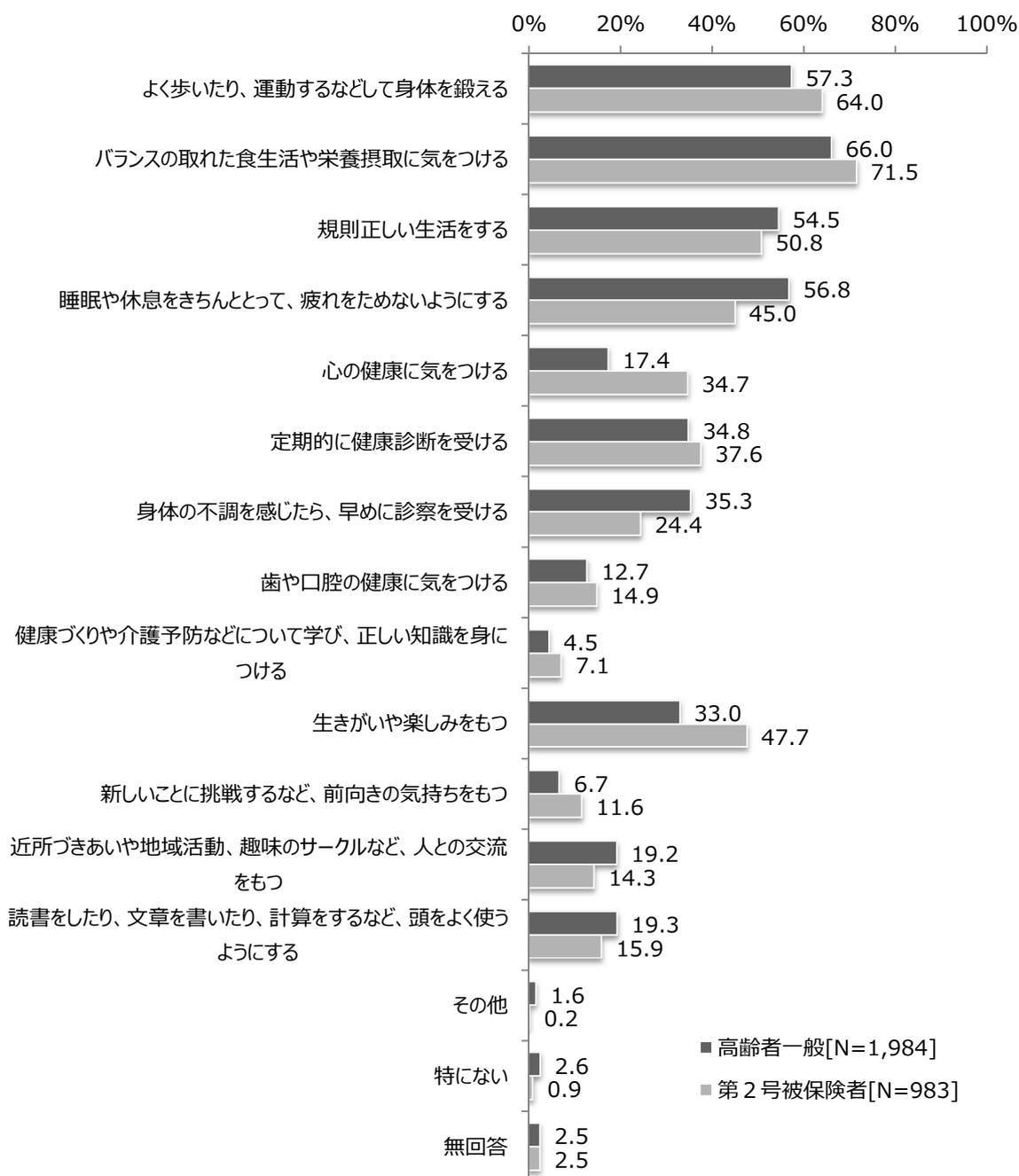


③健康づくり等で重要と思うこと

健康づくり等で重要と思うことは、高齢者一般では、「バランスの取れた食生活や栄養摂取に気をつける」が66.0%と最も高くなっており、次いで、「よく歩いたり、運動するなどして身体を鍛える」が57.3%と続いています。

一方、第2号被保険者では、「バランスの取れた食生活や栄養摂取に気をつける」が71.5%と最も高く、次いで、「よく歩いたり、運動するなどして身体を鍛える」が64.0%となっています。また、「生きがいや楽しみをもつ」ことも47.7%と高い割合です。高齢者も第2号被保険者もほぼ同様なことを重要と考えていますが、第2号被保険者では生きがいや楽しみを持つこと、こころの健康に気をつけることなどの割合が高齢者と比べて高くなっています。

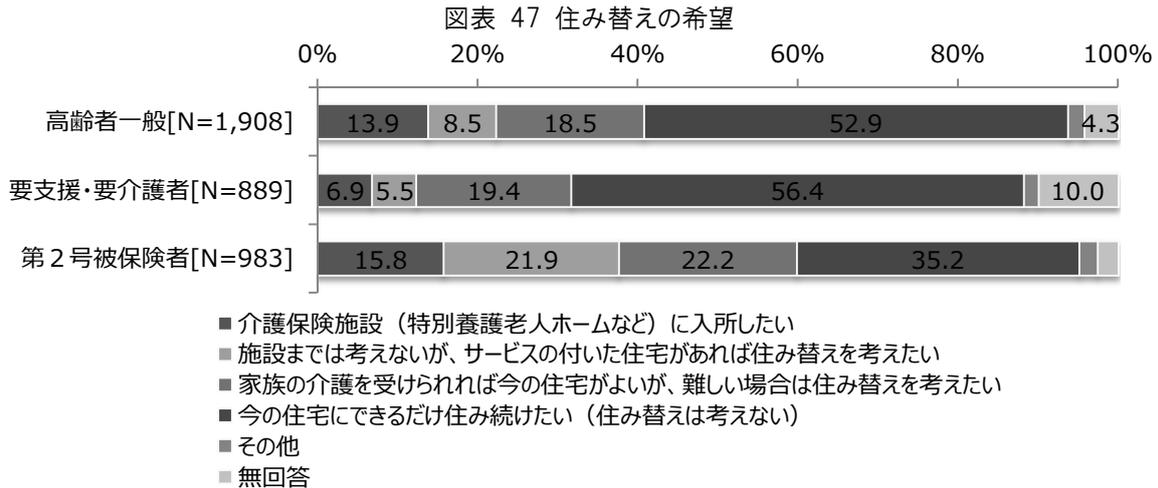
図表 1 健康づくり等で重要と思うこと(複数回答)



(3) 住まい、住み替えなどについて

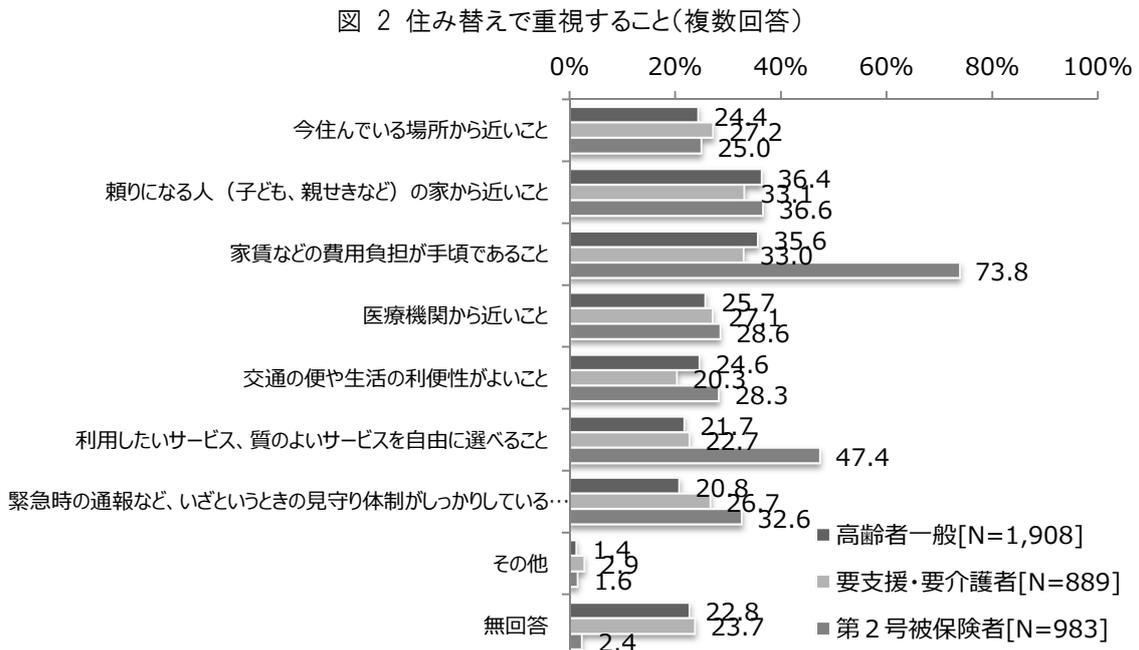
①住み替えの希望

将来の住み替えの希望は、高齢者一般、要支援・要介護者では、「今の住宅にできるだけ住み続けたい（住み替えは考えない）」が半数以上となっており、高齢者では、現在の場所に住み続けたいという人が多くなっています。一方、第2号被保険者では、「今の住宅にできるだけ住み続けたい（住み替えは考えない）」が35.2%となっている一方、施設入所や住み替えを考える人も多くなっています。



②住み替えで重視すること

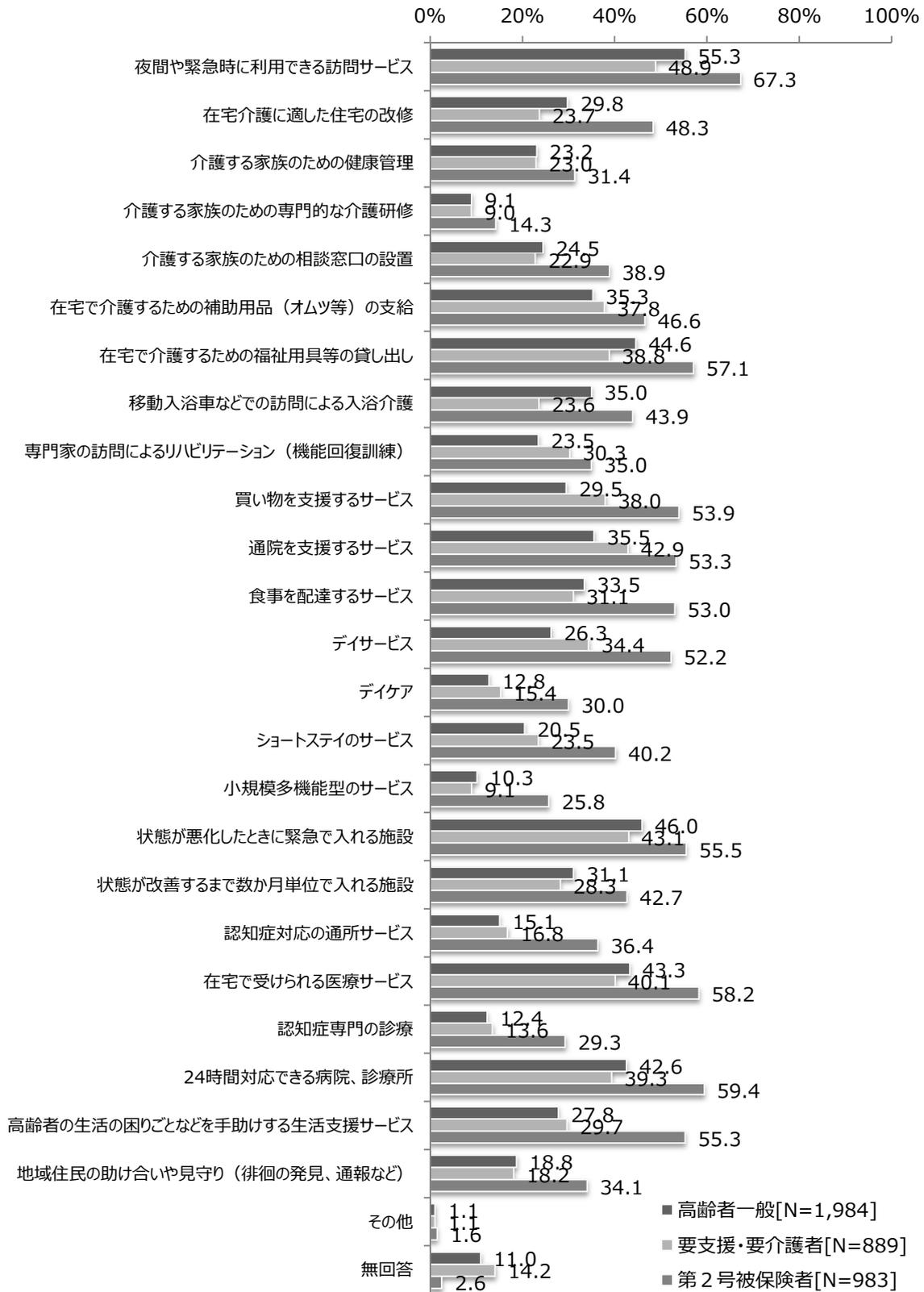
住み替えで重視することとしては、高齢者一般、要支援・要介護者では、「頼りになる人（子ども、親せきなど）の家から近いこと」などが高い割合となっています。一方、第2号被保険者では、「家賃などの費用負担が手頃であること」や「利用したいサービス、質のよいサービスを自由に選べること」が高い割合となっており、第2号被保険者で費用負担やサービス選択の自由を特に重視する人が多くなっています。



③在宅生活に必要なサービス

在宅生活のために必要と思うサービスについて聞いたところ、高齢者に比べ、全般的に第2号被保険者で必要と思う割合が高くなっています。

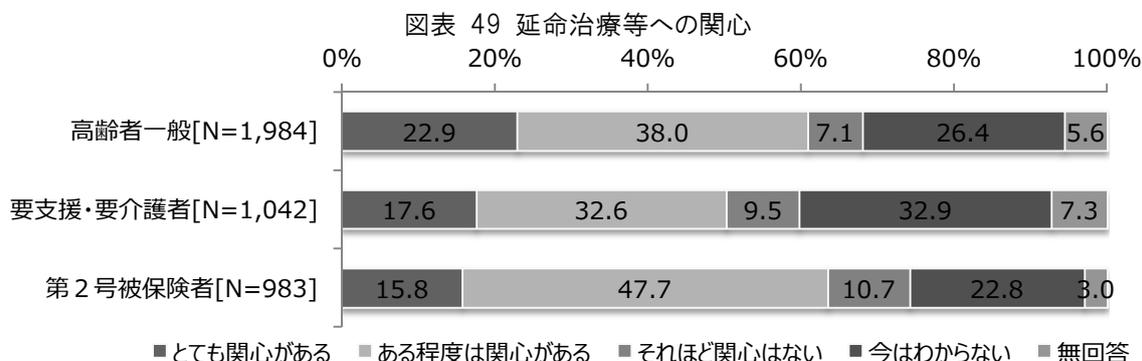
図表 48 在宅生活に必要なサービス(複数回答)



(4) 看取りなどについて

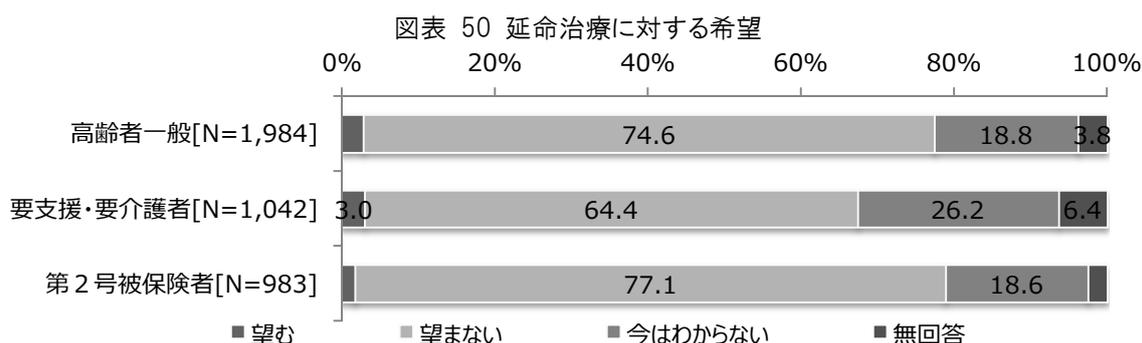
①延命治療等への関心

延命治療等への関心について聞いたところ、高齢者一般、第2号被保険者では関心のある人が約6割となっています。一方、要支援・要介護者では関心のある人がほぼ半数となっています。



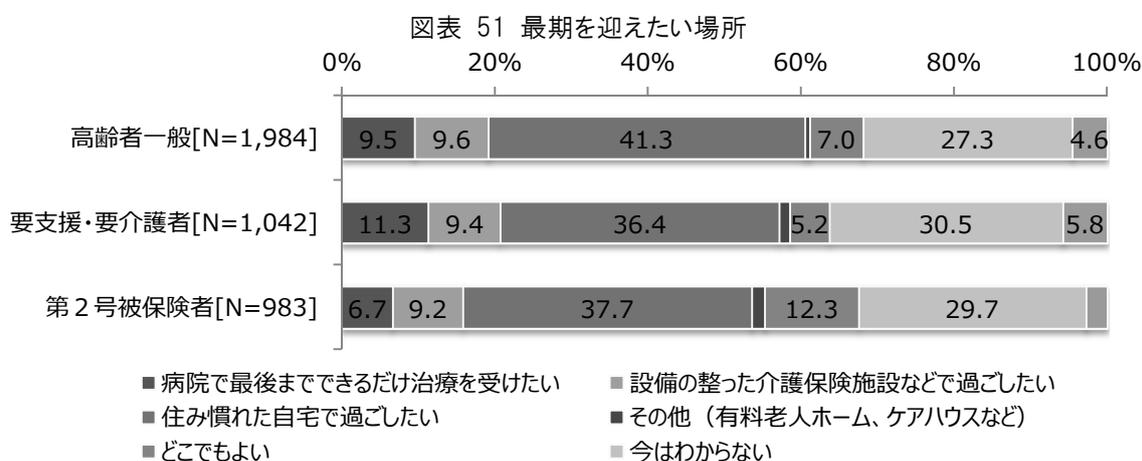
②延命治療に対する希望

延命治療に対する希望は、延命治療は「望まない」という人がいずれも多くなっています。要支援・要介護者では「今はわからない」という人も比較的多くなっています。



③最期を迎えたい場所

最期を迎えたい場所については、「住み慣れた自宅で過ごしたい」という人が多くなっています。一方、「今はわからない」という人がいずれも3割弱見られます。

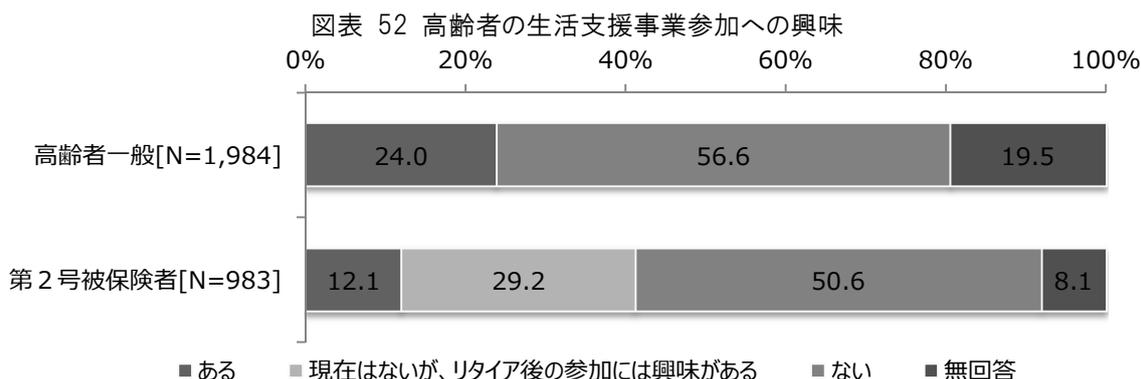


(5) 高齢者の生活支援や介護の仕事について

① 高齢者の生活支援事業に参加することへの興味

高齢者の生活支援事業について、参加することへの興味の有無を聞いたところ、高齢者一般では「ない」が56.6%、「ある」が24.0%となっています。

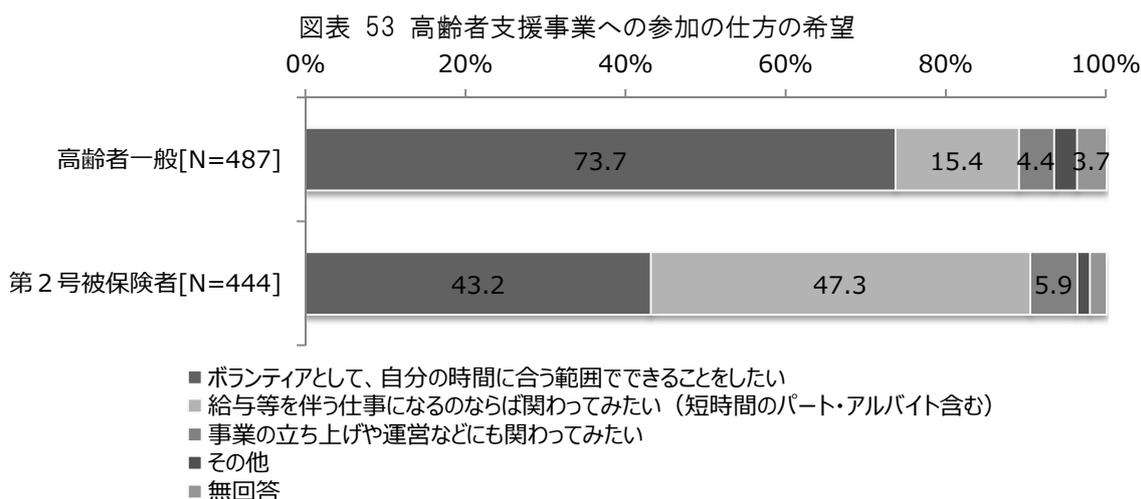
第2号被保険者では、「ない」が50.6%、「現在はないが、リタイア後の参加には興味がある」が29.2%、「ある」が12.1%となっており、高齢期になってからの参加意向のある人も比較的多くなっています。



② 高齢者支援事業への参加の仕方の希望

高齢者支援事業への参加に興味があると回答した人に、参加の仕方の希望について聞いたところ、高齢者一般では、「ボランティアとして、自分の時間に合う範囲でできることをしたい」が73.7%と多くなっています。

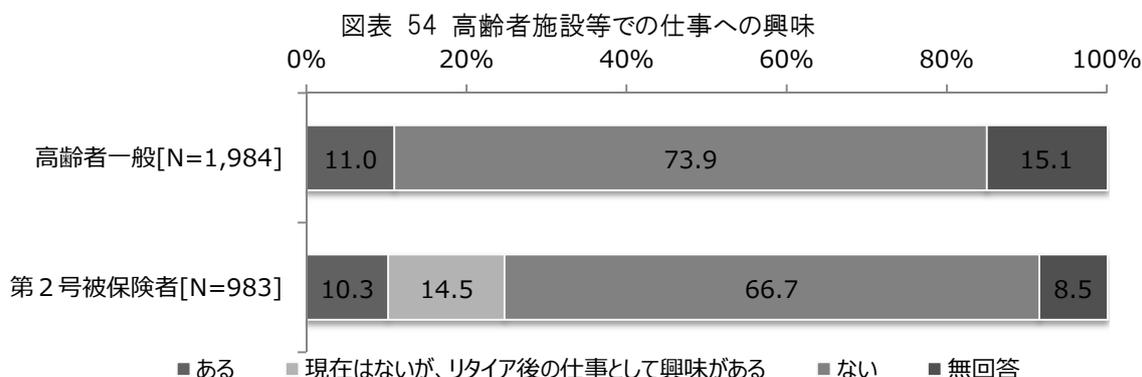
一方、第2号被保険者では、「給与等を伴う仕事になるのならば関わってみたい（短時間のパート・アルバイト含む）」が47.3%となっており、仕事として考える人が多くなっています。



③高齡者施設等での仕事への興味

高齡者施設等で仕事をする事への興味について聞いたところ、高齡者一般では「ない」が73.9%、「ある」が11.0%となっています。

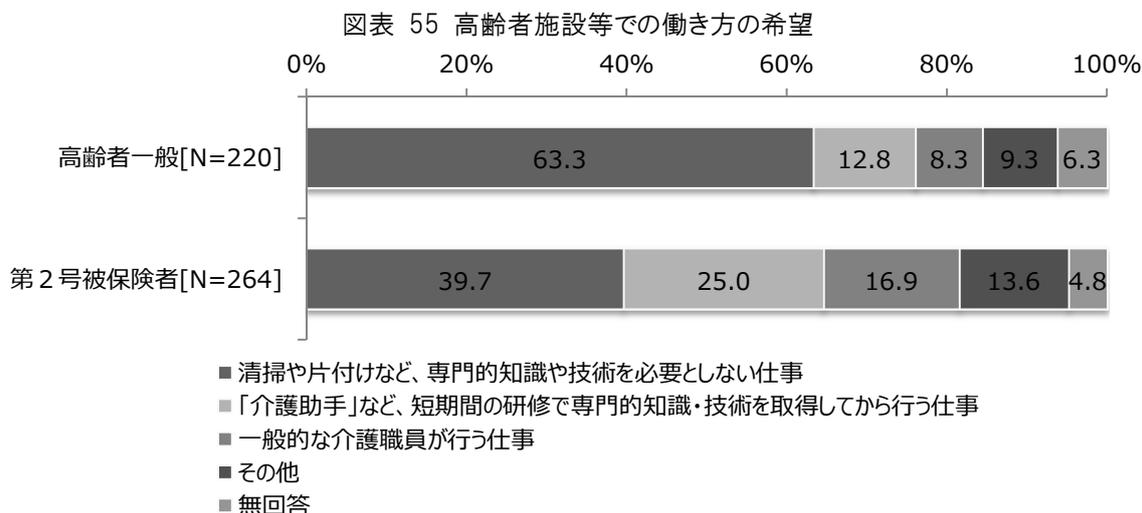
第2号被保険者では、「ない」が66.7%、「現在はないが、リタイア後の参加には興味がある」が14.5%、「ある」が10.3%となっています。いずれも、生活支援事業よりも参加意向は低くなっています。



④高齡者施設等での働き方の希望

高齡者施設等で仕事をする事に興味があると回答した人に、その働き方の希望を聞いたところ、高齡者一般では、「清掃や片付けなど、専門的知識や技術を必要としない仕事」が63.3%と最も多くなっています。

一方、第2号被保険者でも、「清掃や片付けなど、専門的知識や技術を必要としない仕事」が39.7%と最も多いものの、「「介護助手」など、短期間の研修で専門的知識・技術を取得してから行う仕事」の希望も比較的多く見られます。



(6) 介護保険制度等について

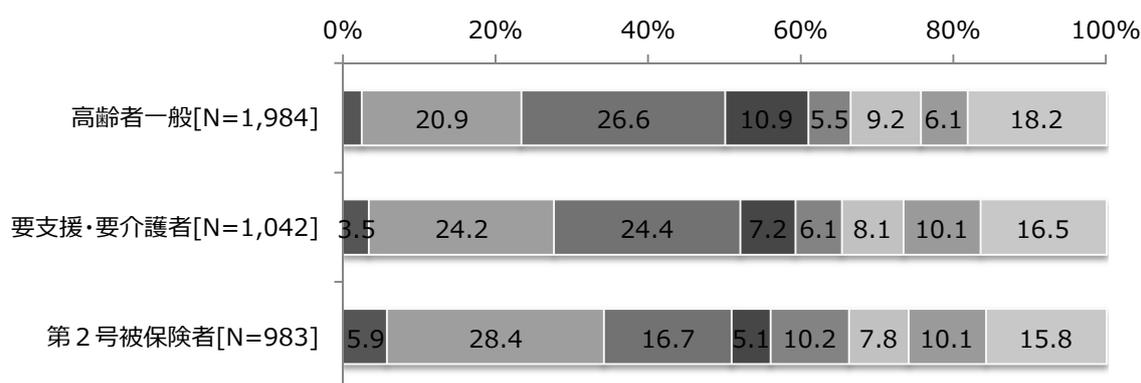
① サービスと保険料負担についての考え方

サービスと保険料負担についての考え方を聞いたところ、高齢者一般では、「さらに高齢化が進んでも、介護保険料は現状程度とするべきなので、多少サービスが制限されても仕方がない」が26.6%と最も多くなっています。要支援・要介護者では、「さらに高齢化が進んでも、介護保険料は現状程度とするべきなので、多少サービスが制限されても仕方がない」と「さらに高齢化が進むのだから、現状のサービスを維持するために、多少介護保険料が上がっても仕方がない」が、ほぼ同じ割合となっています。

一方、第2号被保険者では、「さらに高齢化が進むのだから、現状のサービスを維持するために、多少介護保険料が上がっても仕方がない」が28.4%と最も多くなっています。

介護保険料については、高齢者では、介護保険料は現状程度にすべきという人がやや多い傾向が見られますが、第2号被保険者では、介護保険料が上がってもよい・仕方ないという人が多くなっています。

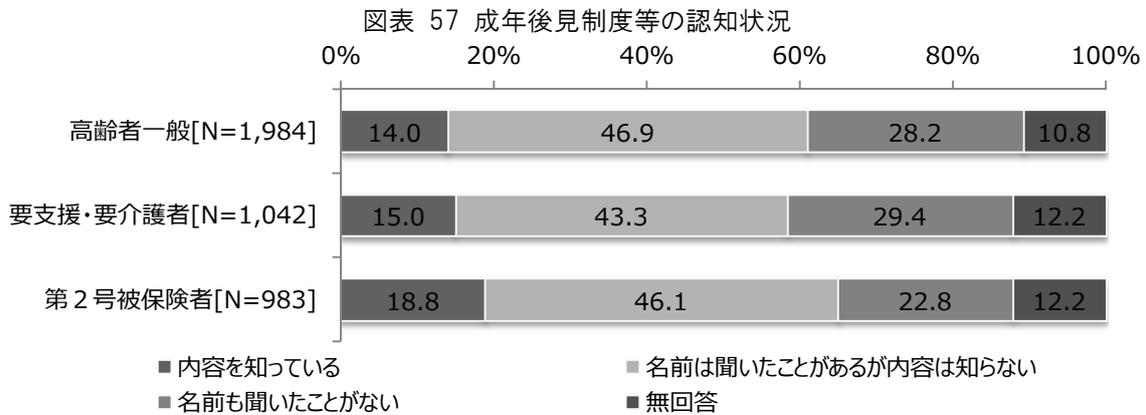
図表 56 サービスと保険料負担についての考え方



- 今の介護保険のサービスは不十分なので、もっと介護保険料を上げてよいからサービスを充実するべき
- さらに高齢化が進むのだから、現状のサービスを維持するために、多少介護保険料が上がっても仕方がない
- さらに高齢化が進んでも、介護保険料は現状程度とするべきなので、多少サービスが制限されても仕方がない
- サービスの内容がもっと低下したり制限されてもよいので、もう少し介護保険料を安くするべき
- 利用者の負担割合（現状1～2割負担）を上げて、サービスの内容を維持すべき
- 利用者の負担割合（現状1～2割負担）を上げて、介護保険料を下げるべき
- その他
- 無回答

②成年後見制度等の認知状況

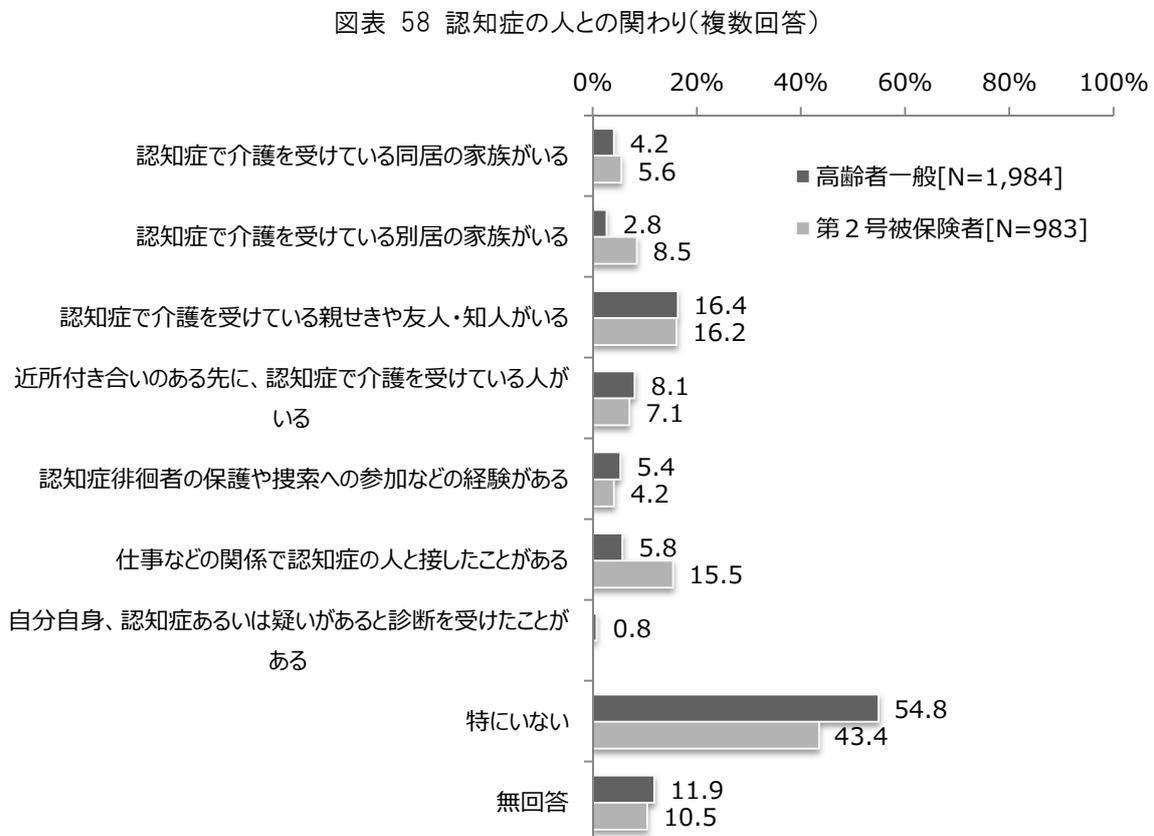
成年後見制度等を知っているかどうかを聞いたところ、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」という人が、高齢者一般では46.9%、要支援・要介護者では43.3%、第2号被保険者では46.1%となっています。



(7) 認知症について

①認知症の人との関わり

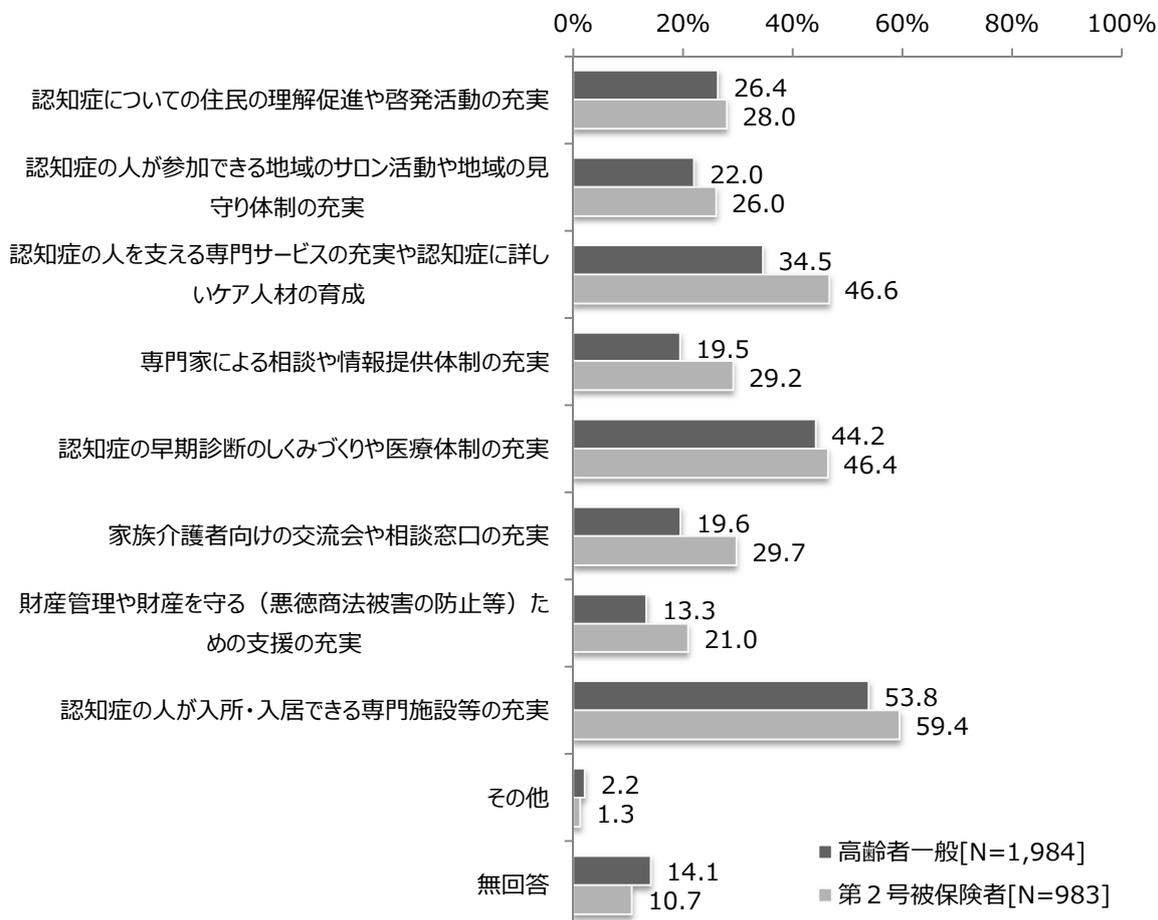
認知症の人との関わりについては、高齢者一般、第2号被保険者とも、「特にいない」という人が多くなっています。第2号被保険者では、「仕事などの関係で認知症の人と接したことがある」という人も比較的に見られます。



②認知症の高齢者や家族介護者などに必要な支援

認知症の高齢者や家族介護者などに必要な支援について聞いたところ、高齢者一般、第2号被保険者とも、「認知症の人が入所・入居できる専門施設等の充実」が最も多くなっています。第2号被保険者では、「認知症の人を支える専門サービスの充実や認知症に詳しいケア人材の育成」なども多くあげられています。

図表 59 認知症の高齢者や家族介護者などに必要な支援



参考資料：アンケート調査票